



## **Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 CLI コマンド リファレンス**

**CLI Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5**

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意**  
([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/))をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。  
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップ  
デートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合があ  
りますことをご了承ください。  
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サ  
イトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊  
社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

**FCC クラス A 準拠装置に関する記述：**この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

**FCC クラス B 準拠装置に関する記述：**このマニュアルに記載された装置は、無線周波エネルギーを生成および放射する可能性があります。シスコシステムズの指示する設置手順に従わずに装置を設置した場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの仕様は、住宅地で使用したときに、このような干渉を防止する適切な保護を規定したものです。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。

シスコシステムズの書面による許可なしに装置を改造すると、装置がクラス A またはクラス B のデジタル装置に対する FCC 要件に準拠しなくなることがあります。その場合、装置を使用するユーザの権利が FCC 規制により制限されることがあり、ラジオまたはテレビの通信に対するいかなる干渉もユーザ側の負担で矯正するように求められることがあります。

装置の電源を切ることによって、この装置が干渉の原因であるかどうかを判断できます。干渉がなくなれば、シスコシステムズの装置またはその周辺機器が干渉の原因になっていると考えられます。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。

- 干渉がなくなるまで、テレビまたはラジオのアンテナの向きを変えます。
- テレビまたはラジオの左右どちらかの側に装置を移動させます。
- テレビまたはラジオから離れたところに装置を移動させます。
- テレビまたはラジオとは別の回路にあるコンセントに装置を接続します（装置とテレビまたはラジオがそれぞれ別個のブレーカーまたはヒューズで制御されるようにします）。

米国シスコシステムズ社では、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うこととなります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任は一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at [www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 コマンドリファレンス  
Copyright © 2010 Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.

Copyright © 2010–2011, シスコシステムズ合同会社.  
All rights reserved.



## CONTENTS

<b>Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアの使用方法</b>	<b>1</b>
コマンド モードについて	1
コマンド環境を開始する方法	5
前提条件	5
ヘルプの利用方法	6
コマンドの no 形式および default 形式の使用	7
コンフィギュレーションの変更内容の保存	7
コンフィギュレーションの変更のコミット	8
サポートされるプラットフォームの確認	8
商用オープン ソース ライセンシング	9
<b>Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のマニュアル ロードマップ</b>	<b>111</b>
ドキュメント クイック リスト	111
リリース情報および一般的な情報	111
ライセンス情報	111
リリース ノート	111
リファレンス ガイド	112
コマンド リファレンス	112
インストールおよびアップグレード	112
インストールおよびアップグレード ガイド	112
メンテナンスおよび操作	112
メンテナンスおよび操作ガイド	112
Cisco DocWiki のトラブルシューティングに関する情報	113
販売用資料	113
ソフトウェアのダウンロード	113

Cisco Unified SIP Proxy モジュール EXEC コマンド	15
Cisco Unified SIP Proxy EXEC コマンド	19
Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション コマンド	39
Cisco Unified SIP Proxy SIP コマンド	61
Cisco Unified SIP Proxy SIP サーバ コマンド	109
Cisco Unified SIP Proxy RADIUS サーバ コマンド	137
Cisco Unified SIP Proxy トリガー コマンド	145
Cisco Unified SIP Proxy ルート コマンド	177
Cisco Unified SIP Proxy ポリシー コマンド	209
Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コマンド	279
Cisco Unified SIP Proxy セキュリティ コマンド	291
Cisco Unified SIP Proxy のモジュール コマンド	301

Index



# Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアの使用方法

この章では、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアを理解し、コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して設定する際に役立つヒントを示します。この章は次の項で構成されています。

- 「コマンドモードについて」 (P.1)
- 「コマンド環境を開始する方法」 (P.5)
- 「ヘルプの利用方法」 (P.6)
- 「コマンドの no 形式および default 形式の使用」 (P.7)
- 「コンフィギュレーションの変更内容の保存」 (P.7)
- 「サポートされるプラットフォームの確認」 (P.8)

## コマンドモードについて

Cisco Unified SIP Proxy CLI コマンドの構造は、Cisco IOS CLI コマンドの構造に似ています。ただし、Cisco Unified SIP Proxy CLI コマンドは Cisco IOS の設定に影響を及ぼしません。Cisco Unified SIP Proxy モジュールにログインすると、コマンド環境は Cisco IOS 環境ではなくなります。

Cisco Unified SIP Proxy モジュール コマンド環境には次の 4 つのモードがあります。

- **モジュール EXEC** : Cisco Unified SIP Proxy ネットワークまたはサービス モジュールにログインした後のモードです。モジュール EXEC コマンドは、システムのパラメータにさまざまな形で影響します。一部のコマンドは、パラメータ値の表示またはクリア、システム全体の停止または起動、トラブルシューティング手順の開始のみ行います。ただし、Cisco IOS EXEC モードとは異なり、モジュール EXEC モードには、パラメータ値を変更するコマンドがいくつかあります。これらの変更内容は、スタートアップ コンフィギュレーションではなくモジュールのメモリに保存されるため、停電やディスク障害などの事態が発生した場合、システムは最小限の情報を利用できます。
- **コンフィギュレーション** : このモードでは、モジュールのシステム コンフィギュレーションを変更できます。変更内容は実行コンフィギュレーションに保存されます。後で実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存すると、コンフィギュレーション コマンドで行った変更は、ソフトウェアのリブート時に復元されます。
- **Cisco Unified SIP Proxy EXEC** : これは、Cisco Unified SIP Proxy コマンド環境にログインした後のモードです。Cisco Unified SIP Proxy EXEC コマンドは、システムのパラメータにさまざまな形で影響します。このモードには、診断およびトラブルシューティングのために Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを表示できるコマンドが含まれます。

## コマンドモードについて

- Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション：このモードでは、Cisco Unified SIP Proxy のコンフィギュレーションを変更できます。Cisco サービス統合型ルータでサポートされている他の Linux ベースのアプリケーションとは異なり、Cisco Unified SIP Proxy では実行コンフィギュレーションという概念は使用されません。代わりに、Cisco Unified SIP Proxy では、「候補コンフィギュレーション」および「アクティブ コンフィギュレーション」という概念が使用されます。
  - 候補コンフィギュレーション：Cisco Unified SIP Proxy のコンフィギュレーションを変更すると、これらの変更内容は候補コンフィギュレーションに保存されます。候補コンフィギュレーション状態にあるとき、これらのコンフィギュレーションパラメータは影響しません。
  - アクティブ コンフィギュレーション：アクティブ コンフィギュレーションには、Cisco Unified SIP Proxy で現在有効なすべてのコンフィギュレーションパラメータが含まれます。



(注) モジュール EXEC モードおよびコンフィギュレーションモードでは、実行コンフィギュレーションの概念が使用されます。この概念が使用されないのは、Cisco Unified SIP Proxy モードのみです。

コンフィギュレーションの変更を有効にするには、**commit** コマンドを入力する必要があります。**commit** コマンドを入力した後、候補コンフィギュレーション内のすべてのコンフィギュレーション変更はアクティブ コンフィギュレーションの一部になります。Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードで別のコマンドを使うと、現在の候補コンフィギュレーションおよびアクティブ コンフィギュレーションを表示できます。Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードでは、アクティブ コンフィギュレーションのみが表示されます。

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードには、いくつかのサブコンフィギュレーションレベルがあります。グローバル コンフィギュレーションモードは、コマンド環境を EXEC からコンフィギュレーションに変更します。このレベルでは多くのソフトウェアパラメータを変更できます。ただし、一部のコンフィギュレーションコマンドは、システムに対する変更を入力する、より詳細なコンフィギュレーションモードに環境を変更します。たとえば、**trigger condition** コマンドは、環境を **config** から **config-trigger** に変更します。この時点で、アプリケーションパラメータ値を入力または変更できます。

特定の時点で使用できるコマンドは、現在のモードによって異なります。CLI プロンプトで疑問符 (?) を入力すると、各コマンドモードで使用できるコマンドの一覧が表示されます。このコマンドリファレンスの説明では、各コマンドの環境モードを示しています。

表 1 に、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアの一般的な各種コマンドモードへのアクセス方法および終了方法を示します。また、各モードで表示されるプロンプトの例も示します。

表 1 コマンドモードのアクセス方法と終了方法

コマンドモード	アクセス方法	プロンプト	終了方法
モジュール EXEC	サービス統合型エンジンのモジュールソフトウェアのプロンプトが表示されたら、 <b>enable</b> コマンドを入力します。パスワードが設定されている場合は、パスワードプロンプトでパスワードを入力します。	se-10-0-0-0#>	<b>Ctrl</b> キーと <b>Shift</b> キーを押した状態で <b>6</b> キーを押してから、 <b>x</b> を入力します。
モジュール コンフィギュレーション	モジュール EXEC モードから、 <b>configure terminal</b> コマンドを入力します。	se-10-0-0-0#(config)>	モジュール コンフィギュレーションモードからモジュール EXEC モードに戻るには、 <b>end</b> または <b>exit</b> コマンドを使用します。

表 1 コマンドモードのアクセス方法と終了方法（続き）

コマンドモード	アクセス方法	プロンプト	終了方法
Cisco Unified SIP Proxy EXEC	モジュール EXEC モードから、 <b>cusp</b> コマンドを入力します。	se-10-0-0-0# (cusp) >	Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードからモジュール EXEC モードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション	Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで、 <b>configure</b> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config) >	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードから Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
アカウントिंग	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードから、 <b>accounting</b> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config-acct) >	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
ポリシー ルックアップ	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードから、 <b>policy lookup</b> <i>policy-name</i> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup) >	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
ポリシー ルックアップ シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー	Cisco Unified SIP Proxy ポリシー ルックアップ コンフィギュレーション モードから次のコマンドのいずれかを入力すると、シーケンス フィールド モードまたはシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードが開始されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>sequence</b> <i>sequence-number</i> <i>table-name</i> <b>field</b> {<b>in-network</b>   <i>local-address</i>   <i>remote-address</i>}</li> <li><b>sequence</b> <i>sequence-number</i> <i>table-name</i> <b>header</b> {<b>diversion</b>   <b>from</b>   <b>paid</b>   <b>rpip</b>   <b>ruri</b>} <b>uri-component</b> {<b>domain</b>   <b>param</b> <i>name</i>   <b>phone</b>   <b>uri</b>   <b>user</b>}</li> </ul>	se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup-seq) >	Cisco Unified SIP Proxy ポリシー ルックアップ コンフィギュレーション モードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
ポリシー正規化	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードから、 <b>policy normalization</b> <i>policy_name</i> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) >	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。

## ■ コマンドモードについて

表 1 コマンドモードのアクセス方法と終了方法 (続き)

コマンドモード	アクセス方法	プロンプト	終了方法
ポリシー時間	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードから、 <b>policy time</b> <i>time_policy_name</i> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config-time) >	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
ポリシー時間シーケンス	Cisco Unified SIP Proxy ポリシー時間コンフィギュレーションモードから、 <b>sequence</b> <i>sequence-number</i> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq) >	Cisco Unified SIP Proxy ポリシー時間コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
RADIUS サーバグループ	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードから、 <b>server-group radius</b> <i>servergroup name</i> [ <i>source-ipaddress</i> ] コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config-radius) >	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
ルートグループ	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードから、 <b>route group</b> <i>route-group name</i> [ <i>time-policy</i> ] [ <i>weight</i> ] コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config-rg) >	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
要素	Cisco Unified SIP Proxy ルートグループコンフィギュレーションモードから、 <b>element</b> <i>route-uri</i> または <b>element</b> <i>target-destination</i> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config-rg-element) >	Cisco Unified SIP Proxy ルートグループコンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
ルートテーブル	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードから、 <b>route table</b> <i>table_name</i> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config-rt) >	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
SIP DNS サーバ	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードから、 <b>sipdns-serv</b> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config-dns) >	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
SIP サーバグループ	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードから <b>server-group sip</b> <i>servergroup-name</i> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config-sg) >	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
SIP サーバグループ ping オプション	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードから、 <b>server-group sip</b> <i>ping-options network ip-address</i> [ <i>port</i> ] コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (cusp-config-ping) >	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。

表 1 コマンドモードのアクセス方法と終了方法 (続き)

コマンドモード	アクセス方法	プロンプト	終了方法
SIP ネットワーク	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードから、 <b>sip network network {standard   icmp   noicmp}</b> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0(cusp-config-network)>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
SIP キュー	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードから、 <b>sip queue {message   request   st-callback   ct-callback   timer   xcl   radius}</b> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0(cusp-config-queue)>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
トリガー	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードから、 <b>trigger condition trigger-condition-name</b> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
トリガー シーケンス	トリガー コンフィギュレーションモードから、 <b>sequence sequence-number</b> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)>	Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。

## コマンド環境を開始する方法

異なるモードのコマンド環境を開始するには、次の手順に従います。

### 前提条件

次の情報を収集します。

- Cisco Unified SIP Proxy モジュールを含むルータの IP アドレス
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード
- モジュールのスロット番号

### 手順の概要

1. Telnet セッションを開始します。
2. **telnet ip-address**
3. ルータのユーザ ID とパスワードを入力します。
4. **service-module integrated-service-engine slot/port session**
5. **cusp**
6. **configure**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Telnet セッションを開始します。	DOS ウィンドウ、セキュアシェル、または Reflection などのソフトウェア エミュレーション ツールを使用します。
ステップ 2	<code>telnet ip-address</code>  例： C:¥> telnet 172.16.231.195	Cisco Unified SIP Proxy ルータの IP アドレスを指定します。
ステップ 3	Username: Password:	ルータのユーザ ID とパスワードを入力します。
ステップ 4	<code>service-module integrated-service-engine slot/port session</code>  例： Router# service-module integrated-service-engine 1/0 session	指定した <i>slot</i> と <i>port</i> に配置されているモジュールを使用して、Cisco Unified SIP Proxy コマンド環境を開始します。プロンプトが「se」に変わり、Cisco Unified SIP Proxy モジュールの IP アドレスが表示されます。  (注) メッセージ「Trying ip-address slot/port ... Connection refused by remote host」が表示された場合は、コマンド <code>service-module integrated-service-engine slot/port session clear</code> を入力し、ステップ 4 を再度実行します。
ステップ 5	<code>cusp</code>  例： se-10-0-0-0# cusp se-10-0-0-0(cusp)>	Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードを開始します。
ステップ 6	<code>configure</code>  例： se-10-0-0-0(cusp)> configure se-10-0-0-0(cusp-config)>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを開始します。コンフィギュレーション タスクを開始する準備の完了です。

## ヘルプの利用方法

CLI プロンプトで疑問符を入力すると、各コマンドモードで使用できるコマンドの一覧が表示されます。コンテキスト ヘルプ機能により、各コマンドに関連付けられたキーワードおよび引数の一覧を表示することもできます。

コマンドモード、コマンド、キーワード、または引数に固有のヘルプを表示するには、表 2 のコマンドのいずれかを使用します。

表 2 ヘルプコマンド

コマンド	目的
<code>help</code>	すべてのコマンドモードでヘルプの簡単な説明を表示します。
<code>?</code>	特定のコマンドモードで使用できる全コマンドの一覧を表示します。

表 2 ヘルプ コマンド (続き)

コマンド	目的
<code>&lt;command_name&gt; ?</code>	コマンド ラインで続けて入力する必要があるキーワードまたは引数の一覧を表示します (注) コマンドと疑問符の間にスペースを挿入してください。
<code>&lt;abbreviated_command_entry&gt;?</code>	入力した文字列で始まるコマンドの一覧を表示します (注) コマンドと疑問符の間にスペースは不要です。
<code>&lt;abbreviated_command_entry&gt;&lt;Tab&gt;</code>	途中まで入力したコマンド名の入力補完を行います。 コマンド名の始めの文字を入力して <b>Tab</b> を押します。システムにより、コマンド名の残りの部分が自動的に補完されます。

## コマンドの no 形式および default 形式の使用

コマンドの **no** 形式を使用できる場合は、この形式によって機能をディセーブルにします。**no** キーワードを指定せずにこのコマンドを使用すると、ディセーブルになった機能を再度イネーブルにしたり、デフォルトでディセーブルの機能をイネーブルにしたりすることができます。コマンドリファレンスの各コマンドの項目に、コンフィギュレーション コマンドの完全な構文と、コマンドの **no** 形式の動作についての説明が記載されています。

コンフィギュレーション コマンドでは、コマンド設定をデフォルト値に戻す **default** 形式を使用することもできます。コマンドがデフォルトでディセーブルの場合、**default** 形式を使用した結果はコマンドの **no** 形式を使用した場合と同じになります。ただし、一部のコマンドはデフォルトでイネーブルになっていて、変数は特定のデフォルト値に設定されています。この場合にコマンドの **default** 形式を使用すると、そのコマンドはイネーブルになり、変数はデフォルト値に設定されます。コマンドの **default** 形式が使用可能で、この形式の動作が **no** 形式の動作と異なる場合、コマンドリファレンスの項目に、**default** 形式を使用した場合の結果が説明されています。

## コンフィギュレーションの変更内容の保存

モジュール EXEC モードで開始し、次のコマンドを使用してフラッシュ メモリ内の実行コンフィギュレーションを別の場所にコピーします。

```
copy running-config {ftp:user-id:password@ftp-server-address[/directory] |
startup-config | tftp:tftp-server-address} filename
```

キーワードまたは引数	説明
<code>ftp:user-id:password@</code>	FTP サーバのユーザ ID とパスワードです。エントリに、コロン (:) とアットマーク (@) を含めます。
<code>ftp-server-address</code>	FTP サーバの IP アドレスです。
<code>/directory</code>	(オプション) コピーされたファイルが保存される FTP サーバのディレクトリです。使用する場合は、名前の前にスラッシュ (/) を付けます。
<code>startup-config</code>	フラッシュ メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションです。
<code>tftp:tftp-server-address</code>	TFTP サーバの IP アドレスです。
<code>filename</code>	コピーされた実行コンフィギュレーションを格納するコピー先ファイルの名前です。

実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーするときは、コマンドを 1 行で入力します。次の例で、実行コンフィギュレーションは `start` ファイルとしてスタートアップ コンフィギュレーションにコピーされます。この例では、次のコマンドを 1 行で入力します。

```
se-10-0-0-0# copy running-config startup-config start
```

FTP または TFTP サーバに実行コンフィギュレーションをコピーする際、このコマンドはインタラクティブになり、システムにより情報の入力を求められます。パラメータを 1 行で入力することはできません。次の例は、このプロセスを示しています。次の例では、実行コンフィギュレーションが FTP サーバにコピーされます。FTP サーバは、ユーザ ID とパスワードを要求します。FTP サーバの IP アドレスは `172.16.231.193` です。実行コンフィギュレーションは、`saved_start` というファイル名で `configs` ディレクトリにコピーされます。

```
se-10-0-0-0# copy running-config ftp:
Address or name of remote host? admin:voice@172.16.231.193/configs
Source filename? saved_start
```



注意

Cisco Unified SIP Proxy では、一部のコマンドでコンフィギュレーションの変更を保存する場合に追加の要件があります。「[コンフィギュレーションの変更のコミット](#)」(P.8) を参照してください。

## コンフィギュレーションの変更のコミット

Cisco サービス統合型ルータでサポートされている他の Linux ベースのアプリケーションとは異なり、Cisco Unified SIP Proxy の一部のコマンドではコンフィギュレーションの変更を有効にする場合、まず `commit` コマンドを使用する必要があります。`commit` コマンドを使用しないと、これらのコマンドに対する変更はアクティブ コンフィギュレーションで反映されません。

`commit` コマンドの発行は、次のコンフィギュレーション コマンド（およびそれぞれのサブモードのコマンド）で必要になります。

- `policy lookup`
- `policy normalization`
- `policy time`
- `route group`
- `route table`
- `route table file`
- `server-group sip group`

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了するとき、変更をコミットするかどうかを確認するメッセージが表示されます。[no] を選択すると、変更はすべて破棄されます。

## サポートされるプラットフォームの確認

Cisco IOS ソフトウェアは、特定のプラットフォームをサポートするソフトウェア イメージで構成されるフィーチャ セットにパッケージ化されています。Cisco Unified SIP Proxy モジュール ハードウェアをサポートするには、特定のソフトウェア イメージが必要です。特定のプラットフォームで使用可能なフィーチャ セットは、バージョンに含まれる Cisco IOS ソフトウェア イメージによって異なります。特定のバージョンで使用できる一連のソフトウェア イメージを確認するか、または特定の機能が所定の Cisco IOS ソフトウェア イメージで使用できるかどうかを判断するには、Cisco Feature Navigator を使用してください。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、<http://www.cisco.com/go/cfn> を参照してください。Cisco.com のアカウントは不要です。

## 商用オープンソースライセンス

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 用に作成されたソフトウェアのコンポーネントの一部は、オープンソースライセンスまたは商用ライセンスを通じて提供されています。これらのコンポーネントおよび関連する著作権宣言文については、次の URL を参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/cusp/rel8\\_5/licensing/ipcentral.pdf](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cusp/rel8_5/licensing/ipcentral.pdf)





# Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 の マニュアル ロードマップ

---

## ドキュメント クイック リスト

- 『[Release Notes for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』
- 『[Open Source Licensing for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』
- 『[Install Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』
- 『[CLI Configuration Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』
- 『[CLI Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』
- 『[GUI Administration Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』

## リリース情報および一般的な情報

### ライセンス情報

#### 『[Open Source Licensing for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』

この製品で使用されているオープンソース ソフトウェアに関する情報が記載されています。

この資料は、

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products\\_licensing\\_information\\_listing.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products_licensing_information_listing.html) から入手  
できます。

### リリース ノート

#### 『[Release Notes for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』

システム要件、ライセンス情報、新しい機能、制限事項、参考資料が記載されています。

この資料は、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/prod_release_notes_list.html)

# リファレンス ガイド

## コマンド リファレンス

### 『*Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5*』

Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) を使用して Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ソフトウェアを設定する際に役立つヒントが記載されています。使用できる CLI コマンドと構文のリストも含まれています。

この資料は、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/prod\\_command\\_reference\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/prod_command_reference_list.html)

## インストールおよびアップグレード

### インストールおよびアップグレード ガイド

#### 『*Installation Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5*』

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のインストール方法、およびライセンスのインストールに関する情報が記載されています。

この資料は、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/prod_installation_guides_list.html)

## メンテナンスおよび操作

### メンテナンスおよび操作ガイド

#### 『*CLI Configuration Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5*』

Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) を使用して Cisco Unified SIP Proxy システムをセットアップ、設定、操作およびメンテナンスする方法が記載されています。

この資料は、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products\\_installation\\_and\\_configuration\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products_installation_and_configuration_guides_list.html)

#### 『*GUI Administration Guide for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5*』

この資料は、Cisco Unified SIP Proxy の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) で使用できるオンライン ヘルプと同じ内容です。これには、GUI を使用して Cisco Unified SIP Proxy システムをセットアップ、設定、操作、およびメンテナンスする方法が記載されています。

この資料は、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products\\_installation\\_and\\_configuration\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products_installation_and_configuration_guides_list.html)

## Cisco DocWiki のトラブルシューティングに関する情報

Cisco Unified SIP Proxy のトラブルシューティングに関する情報は、次の URL の Cisco DocWiki に掲載されています。

[http://docwiki.cisco.com/wiki/Cisco\\_Unified\\_SIP\\_Proxy](http://docwiki.cisco.com/wiki/Cisco_Unified_SIP_Proxy)

DocWiki に記載されている情報は、Cisco.com のユーザ ID とパスワードを持つ方なら誰でも更新できます。このように、トラブルシューティング情報は、シスコとお客様の共同作業で編集されます。

## 販売用資料

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 のデータシートを含む販売用資料は、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/en/US/products/ps10140/index.html>

## ソフトウェアのダウンロード

Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 ソフトウェアをダウンロードするには、次の URL にアクセスしてください。

<http://tools.cisco.com/support/downloads/pub/Redirect.x?mdfid=282713225>





## Cisco Unified SIP Proxy モジュール EXEC コマンド

---

- 「`culp`」
- 「`shutdown graceful`」
- 「`ip route`」

# cusp

Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードを開始するには、モジュール EXEC モードで **cusp** コマンドを使用します。Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

## cusp

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

### 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy モジュールにアクセスし、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードを開始する方法を示します。

```
Router# service-module integrated-service-engine 1/0 session
se-10-0-0-0> cusp
se-10-0-0-0 (cusp)>
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>configure</b>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>exit</b>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードまたは管理モードを終了して、上位モードに戻ります。

# shutdown graceful

Cisco Unified SIP Proxy モジュールのグレースフル シャットダウンを実行するには、モジュール EXEC モードで **shutdown graceful** コマンドを使用します。

**shutdown graceful** [*timeout*]

構文の説明	<i>timeout</i> (オプション) Cisco Unified SIP Proxy モジュールのタイムアウト値を指定します。有効な範囲は 10 ~ 180 秒です。デフォルトは 32 秒です。				
コマンド デフォルト	デフォルトのタイムアウト値は 32 秒です。				
コマンド モード	モジュール EXEC (>)				
コマンド履歴	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容</b> 1.0 このコマンドが追加されました。				
使用上のガイドライン	タイムアウト値は、Cisco Unified SIP Proxy が終了する前に、保留中のタスクが完了するまで待機する時間を指定します。				
例	次の例では、120 秒のタイムアウト値を指定して、Cisco Unified SIP Proxy モジュールのグレースフル シャットダウンを実行する方法を示します。 <pre>se-10-0-0-0# shutdown graceful 120</pre>				
関連コマンド	<table><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>reload</td><td><b>shutdown</b> コマンドの使用後に Cisco Unified SIP Proxy システムを再起動し、<b>restore</b> コマンドの使用後にアップロードされたファイル情報をアクティブにします。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	reload	<b>shutdown</b> コマンドの使用後に Cisco Unified SIP Proxy システムを再起動し、 <b>restore</b> コマンドの使用後にアップロードされたファイル情報をアクティブにします。
コマンド	説明				
reload	<b>shutdown</b> コマンドの使用後に Cisco Unified SIP Proxy システムを再起動し、 <b>restore</b> コマンドの使用後にアップロードされたファイル情報をアクティブにします。				

# ip route

Cisco Unified SIP Proxy の仮想インターフェイスおよび他のルータへのスタティック ルートを確立するには、モジュール コンフィギュレーション モードで **ip route** コマンドを使用します。

**ip route destination-ip destination-mask {gigabitethernet | ip-address}**

## 構文の説明

<i>destination-ip</i>	宛先ネットワークのアドレスです。
<i>destination-mask</i>	宛先ネットワークのアドレス マスクです。
<b>gigabitethernet</b>	ルーティング先となる仮想インターフェイスです。
<i>ip-address</i>	転送ルータのアドレスです。

## コマンド デフォルト

スタティック ルートは確立されません。

## コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

最後の引数は、ルーティング先の仮想インターフェイス、または転送ルータのアドレスのいずれかである、転送アドレスを指定します。

## 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy のギガビット イーサネット インターフェイス 0.2 へのスタティック ルートを確立する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(config)# ip route 10.10.10.2 255.255.255.0 GigabitEthernet0.2
```

次の例では、IP アドレスが 10.10.20.2 のルータへのスタティック ルートを確立する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(config)# ip route 10.10.10.2 255.255.255.0 10.10.20.2
```



## Cisco Unified SIP Proxy EXEC コマンド

---

- `configure`
- `copy configuration active`
- `rollback`
- `rollback factory-default`
- `show license`
- `show performance-data cps`
- `show route table`
- `show routes table`
- `show status queue`
- `show status sip`
- `show trace options`
- `trace disable`
- `trace enable`
- `trace level`

# configure

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **configure** コマンドを使用します。Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

## configure

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを開始するには、このコマンドを使用します。コンフィギュレーション モードから、すべてのコンフィギュレーション サブモードを開始できます。**configure** コマンドを入力すると、システム プロンプトの表示が *router-name(cusp)>* から *router-name(cusp-config)>* に変わります。これは、ルータが Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードになっていることを示します。Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了して Cisco Unified SIP Proxy EXEC プロンプトに戻るには、**end** を入力します。

### 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy モジュールにアクセスし、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードを開始して、最終的に Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
Router# service-module integrated-service-engine 1/0 session

se-10-0-0-0> cusp
se-10-0-0-0 (cusp)> configure
se-10-0-0-0 (cusp-config)>
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cusp</b>	Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードを開始します。
<b>end</b>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了します。
<b>exit</b>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードまたはサブモードを終了して、上位モードに戻ります。

# copy configuration active

指定するリモート ファイル システムにアクティブ コンフィギュレーションをコピーするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **copy configuration active** コマンドの次の構文を使用します。

**copy configuration active** *{ftp-url | pfs-url | tftp-url}*

指定するリモート ファイル システムをアクティブ コンフィギュレーションにコピーするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **copy configuration active** コマンドの次の構文を使用します。

**copy** *{ftp-url | pfs-url | tftp-url}* **configuration active**

構文の説明		
	<i>ftp-url</i>	アクティブ コンフィギュレーションがコピーされる FTP URL、またはアクティブ コンフィギュレーションにコピーされる FTP URL を指定します。
	<i>pfs-url</i>	アクティブ コンフィギュレーションがコピーされる Public File System (PFS) URL、またはアクティブ コンフィギュレーションにコピーされる PFS URL を指定します。PFS URL は、 <i>pfs:/cusp/config/file_path</i> という形式で指定する必要があります。
	<i>tftp-url</i>	アクティブ コンフィギュレーションがコピーされる TFTP URL、またはアクティブ コンフィギュレーションにコピーされる TFTP URL を指定します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

コマンド履歴	Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン リモート ファイル システムをアクティブ コンフィギュレーションにコピーした場合 (**copy** *{ftp-url | pfs-url | tftp-url}* **configuration active** 構文を使用した場合)、システムをリブートする必要があります。

例 次の例では、アクティブ コンフィギュレーションをリモート ファイル システムにコピーする方法を示します。

```
se-192-168-20-51(cusp)> copy configuration active ftp://192.168.1.47/pub/cusp/mycfg
Address or name of remote host [192.168.1.47]?
Destination filename [pub/cusp/mycfg]?
Loading configuration to ftp://192.168.1.47/pub/cusp/mycfg: !
[OK - 777 bytes]
777 bytes transferred in 0.029 secs (26793 bytes/sec)
se-192-168-20-51(cusp)>
```

## ■ copy configuration active

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show configuration active</code>	アクティブな Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを表示します。

# rollback

Cisco Unified SIP Proxy モジュールをリブートしたときに、直前にコミットされたコンフィギュレーションにロールバックするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **rollback** コマンドを使用します。

## rollback

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

モジュールのリブート後に有効になった、コミット済みのコンフィギュレーションを表示するには、**show configuration active** コマンドを使用します。

### 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy モジュールがリブートされたときに、直前にコミットされたコンフィギュレーションにシステムがロールバックされるように設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp) > rollback
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>rollback factory-default</b>	Cisco Unified SIP Proxy モジュールのリブート後に、システムを工場出荷時のデフォルト設定にロールバックします。
<b>show configuration active</b>	アクティブな Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを表示します。

# rollback factory-default

Cisco Unified SIP Proxy モジュールをリブートしたときにシステムを工場出荷時のデフォルト設定にロールバックするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **rollback factory-default** コマンドを使用します。

## rollback factory-default

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

モジュールのリブート後に有効になった工場出荷時のデフォルト設定を表示するには、**show configuration factory-default** コマンドを使用します。

### 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy モジュールがリブートされたときに、システムが工場出荷時のデフォルト設定にロールバックされるように設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp) > rollback factory-default
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>rollback</b>	Cisco Unified SIP Proxy モジュールをリブートしたときに、直前にコミットされたコンフィギュレーションにロールバックします。
<b>show configuration factory-default</b>	Cisco Unified SIP Proxy の工場出荷時のデフォルト設定を表示します。

# show license

初期インストール時に入力されたライセンス SKU、およびそのライセンスにより許可される Calls Per Second (CPS; 1 秒当たりのコール) 数を表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show license** コマンドを使用します。

## show license

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 例

次の例は、ライセンス FL-CUSP-10 により 10 CPS が許可されていることを示しています。

```
se-192-168-20-51(cusp)> show license
```

```
Installed license: FL-CUSP-10 (10 CPS)  
Exceeding this limit will result in dropped calls.
```

# show performance-data cps

Cisco Unified SIP Proxy が処理するコール数について、コール負荷などの有用なトラブルシューティング情報を表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show performance-data cps** コマンドを使用します。

## show performance-data cps

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.1.4	このコマンドが追加されました。
-------	-----------------

### 例

次の例は、Cisco Unified SIP Proxy パフォーマンス データの表示例です。

```
se-192-168-20-42 (cusp) > show performance-data cps

Rolling average data-
Rolling averages are used for license enforcement and cannot be cleared.
Rolling average for last 5 minutes (cps): 10.0
Rolling values (last ten 30-second windows):
300 300 300 300 300 300 300 300 300 300

Performance data since last clear-
Average call rate (cps): 10.0
Peak call rate (cps): 10.07
Number of dropped calls: 0
Performance data was last cleared at: Tue Sep 15 15:27:05 EDT 2009
```

# show route table

指定された検索ルールに基づいて、特定のテーブルおよびキーの Cisco Unified SIP Proxy ルート情報を表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show route table** コマンドを使用します。

**show route table table-name key key rule [exact | prefix | fixed number]**

構文の説明	パラメータ	説明
	<b>table table-name</b>	ルート テーブル名を指定します。
	<b>key key</b>	ルート テーブルのキーを指定します。key 引数にはワイルドカード (*) を使用できます。
	<b>rule</b>	一致に使用するためのルール (exact、prefix、または fixed) を指定します。
	<b>exact</b>	指定されたテーブル内のキーの完全一致ルールを使用して検索を行います。
	<b>prefix</b>	指定されたテーブル内のキーの最長プレフィクス一致ルールを使用して、検索を行います。
	<b>fixed</b>	完全一致ではなく、文字固定数一致ルールを使用して、指定されたテーブル内のキーの検索を行います。
	<b>number</b>	指定されたテーブル内でキーを一致させる、文字固定数。

**コマンド モード** Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

コマンド履歴	Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
	1.1.4	このコマンドが追加されました。

**例** 次の例は、プレフィクス一致ルールを使用した **show route table** コマンドの出力例です。

```
se-10.0.0.0(cusp)> show route table t1 key 1800 rule prefix
key 1800 default-sip n1
```

次の例は、ルート テーブルに「key 555」が存在しない場合に完全一致ルールを使用した、**show route table** コマンドの出力例です。

```
se-10.0.0.0(cusp)> show route table t1 key 555 rule exact
No matching route found.
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるルート テーブル内のメッセージを設定します。
	<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
	<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
	<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。

コマンド	説明
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>route table file</b>	ファイルからルート テーブルのルートをロードします。

# show routes table

特定のテーブルおよびキーに対して使用可能な複数の Cisco Unified SIP Proxy ルートを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show routes table** コマンドを使用します。

**show routes table** *table-name* **key** *key* [**max-size** *max-size*]

構文の説明	パラメータ	説明
	<b>table</b> <i>table-name</i>	ルート テーブル名を指定します。
	<b>key</b> <i>key</i>	ルート テーブルのキーを指定します。 <i>key</i> 引数にはワイルドカード (*) を使用できます。
	<b>max-size</b> <i>max-size</i>	返されるルートの最大数を指定します。デフォルトは 100 です。

**コマンド モード** Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

コマンド履歴	バージョン	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

**例** 次の例は、**show routes table** コマンドの出力例です。

```
se-10.0.0.0(cusp)> show routes table t1 key * max-size 10
First 10 matches in the t1 table that match the key *:
  key k3 default-sip n1
  key k2 request-uri-host-port ahost n1
  key k1 response 408
```

2 列目の出力は、ルート テーブルの検索キーです。3 列目はルートです。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるルート テーブル内のメッセージを設定します。
	<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
	<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
	<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
	<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
	<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
	<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。
	<b>route table file</b>	ファイルからルート テーブルのルートをロードします。

# show status queue

アクティブな SIP キューの統計情報を表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show status queue** コマンドを使用します。

## show status queue

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy パージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 例

次の例は、**show status queue** コマンドの出力例です。

```
se-192-168-20-51 (cusp) > show status queue
```

Queue Name	Current Length	Active Threads
timer	0	0
radius	0	0
st-callback	0	0
request	0	0
message	0	0
response	0	0
xcl	0	0

```
se-192-168-20-51 (cusp) >
```

表 3 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 3 show status queue のフィールドの説明

フィールド	説明
Queue Name	SIP キューの名前です。
Current Length	SIP キューの現在の長さです。
Active Threads	SIP キューのアクティブなスレッドの数です。

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show configuration active sip network</b>	SIP ネットワーク インターフェイス コンフィギュレーションを表示します。
<b>show configuration active sip record-route</b>	SIP レコードルート コンフィギュレーションを表示します。
<b>show status sip</b>	Cisco Unified SIP Proxy のステータスを表示します。
<b>sip queue</b>	SIP キューを作成し、SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始します。

# show status sip

Cisco Unified SIP Proxy のステータスを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show status sip** コマンドを使用します。

## show status sip

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、アクティブなクライアントおよびサーバ トランザクションに加え、TCP/TLS ライター スレッド情報を表示します。このコマンドは、SIP 関連のものではない可能性のあるキューを表示します。

### 例

次の例は、**show status sip** コマンドの出力例です。

```
se-192-168-20-51 (cusp) > show status sip

SIP Stack Status
Client Transactions:    7575
Server Transactions:   3473
Total Threads for TCP/TLS Writer:    0
Min Threads for TCP/TLS Writer:     0
Active Threads for TCP/TLS Writer:   0
se-192-168-20-51 (cusp) >
```

表 4 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 4 show status sip のフィールドの説明

フィールド	説明
Client Transactions	アクティブなクライアント トランザクションの数です。
Server Transactions	アクティブなサーバ トランザクションの数です。
Total Threads for TCP/TLS Writer	TCP/TLS ライター スレッドの総数です。
Min Threads for TCP/TLS Writer	TCP/TLS ライター スレッドの最小数です。
Active Threads for TCP/TLS Writer	TCP/TLS ライターのアクティブなスレッドの数です。

## ■ show status sip

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show configuration active sip network</b>	SIP ネットワーク インターフェイス コンフィギュレーションを表示します。
<b>show configuration active sip record-route</b>	SIP レコードルート コンフィギュレーションを表示します。
<b>show status queue</b>	現在アクティブな SIP キューの統計情報を表示します。

# show trace options

トレース ロギングがイネーブルまたはディセーブルのどちらになっているのかを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show trace options** コマンドを使用します。

## show trace options

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
-------------------------------	------

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドは設定済みのカテゴリまたはコンポーネントのレベルを表示します。

### 例

次の例は、ルート カテゴリおよびデバッグ レベルでトレースがイネーブルになっていることを示しています。

```
se-192-168-20-51(cusp)> show trace options
```

```
Trace is enabled.
```

Category	Level
root	debug

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trace disable</b>	トレースをディセーブルにします。
<b>trace enable</b>	トレースをイネーブルにします。
<b>trace level</b>	トレース レベルを設定します。

# trace disable

トレースをディセーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **trace disable** コマンドを使用します。トレースをイネーブルにするには、**trace enable** コマンドを使用します。

## trace disable

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

トレースはイネーブルです。

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

**trace disable** コマンドを使用すると、**trace level** コマンドで **category** に **root** を指定してトレースレベルを **off** に設定した場合と同じ効果が得られます。

### 例

次の例では、トレースをディセーブルにする方法を示します。

```
se-192-168-20-51 (cusp) > trace disable
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show trace options</b>	トレースがイネーブルかディセーブルかを表示します。
<b>trace enable</b>	トレースをイネーブルにします。
<b>trace level</b>	トレース レベルを設定します。

# trace enable

トレースをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **trace enable** コマンドを使用します。トレースをディセーブルにするには、**trace disable** コマンドを使用します。

## trace enable

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

トレースはイネーブルです。

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
-------------------------------	------

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

トレースをイネーブルにした後で、**trace level** コマンドを使用してトレース レベルを設定する必要があります。

### 例

次の例では、トレースをイネーブルにする方法を示します。

```
se-192-168-20-51 (cusp) > trace enable
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show trace options</b>	トレースがイネーブルかディセーブルかを表示します。
<b>trace disable</b>	トレースをディセーブルにします。
<b>trace level</b>	トレース レベルを設定します。

# trace level

トレース レベルを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **trace level** コマンドを使用します。トレース レベルをオフにするには、トレース レベルを **off** に設定します。

**trace level** [**debug** | **default** | **error** | **fatal** | **info** | **off** | **warn**] **category/component**  
*category/component-name*

## 構文の説明

<b>category/component</b>	<i>category/component-name</i> サブシステムからのメッセージだけをログに記録します。コンポーネントは、基本的にカテゴリの定義済みリストです。
<i>category/component-name</i>	メッセージがログに記録されるサブシステムです。
<b>debug</b>	重大度がデバッグまたはそれ以上のメッセージをログに記録します。
<b>default</b>	親のトレース レベルを使用します。
<b>error</b>	重大度がエラーまたはそれ以上のメッセージをログに記録します。
<b>fatal</b>	重大度が重大またはそれ以上のメッセージをログに記録します。
<b>info</b>	重大度が情報またはそれ以上のメッセージをログに記録します。
<b>off</b>	メッセージをログに記録しません。
<b>warn</b>	重大度が警告またはそれ以上のメッセージをログに記録します。

## コマンド デフォルト

トレース レベルはデバッグ カテゴリ ルートです。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。
1.1.4	このコマンドが変更されました。

## 使用上のガイドライン

**trace enable** コマンドを使用してトレースがイネーブルになっている場合に、トレース レベルを設定できます。リストの順序は、ログが最も多いものから少ないものになります。トレース レベルは次のとおりです。

- debug
- info
- warning
- error
- fatal

トレース レベルを **off** に設定すると、**category** が **root** である場合に **trace disable** コマンドを使用した場合と同じ効果が得られます。トレース レベルを **debug** に設定すると、パフォーマンスに大きな影響を与えます。

カテゴリまたはコンポーネントは、特定の機能に関するメッセージをログに記録する場合にだけ使用できます。コンポーネントは基本的にカテゴリの定義済みリストであるため、コンポーネント オプションを使用してデバッグすることを推奨します。トレース レベル設定は、永続的なものではなく、リブート後にリセットされます。現在使用できるカテゴリはルートだけです。

## 例

次の例では、ルート カテゴリでトレースをイネーブルにする方法を示します。

```
se-192-168-20-51(cusp)> trace level debug category root
```

次の例では、ルーティング コンポーネントでのトレースをイネーブルにする方法を示します。

```
se-192-168-20-51(cusp)> trace level debug component routing
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show trace options</b>	トレースがイネーブルかディセーブルかを表示します。
<b>trace disable</b>	トレースをディセーブルにします。
<b>trace enable</b>	トレースをイネーブルにします。

■ trace level



## Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション コマンド

---

- `clear`
- `commit`
- `end`
- `exit`
- `lite-mode`
- `load`
- `show configuration active`
- `show configuration candidate`
- `show configuration factory-default`
- `show sip`

# clear

候補コンフィギュレーション内にある未処理のコミット可能なコンフィギュレーション コマンドをクリアするには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **clear** コマンドを使用します。このコマンドの **no** 形式はありません。

## clear

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用後の候補コンフィギュレーションは、アクティブ コンフィギュレーションと同じものになります。

### 例

次の例では、候補コンフィギュレーションをクリアする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > clear
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show configuration candidate</b>	コミットされていないコンフィギュレーション コマンドの値がコミットされた場合に、Cisco Unified SIP Proxy の実行コンフィギュレーションを表示します。

# commit

反映する Cisco Unified SIP Proxy ポリシー、SIP サーバグループ、ルートグループ、ルートテーブル、および他のコミット可能なコンフィギュレーションの変更をイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **commit** コマンドを使用します。

## commit

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

通常の Cisco IOS ソフトウェア コマンドとは異なり、多くの Cisco Unified SIP Proxy コマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。Cisco Unified SIP Proxy では、候補コンフィギュレーションとアクティブ コンフィギュレーションの概念が使用されます。**commit** コマンドが入力される前は、コンフィギュレーションの変更は候補コンフィギュレーションに含まれています。**commit** コマンドが入力されると、コンフィギュレーションの変更はアクティブ コンフィギュレーションの一部になります。

次のコンフィギュレーション モードのコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを発行する必要があります。

- ポリシー ルックアップ
- ポリシー正規化
- ポリシー時間
- ルート グループ
- ルート テーブル
- サーバ グループ SIP (選択されたコマンドに限られます)



(注)

**commit** コマンドの前に入力したコンフィギュレーションの変更は、**show configuration active** コマンドを入力した場合には表示されませんが、**show configuration candidate** コマンドを入力した場合は表示されます。**commit** コマンドを使用すると、前回 **commit** コマンドを実行してから行われたコンフィギュレーションの変更が **show configuration active** コマンドの出力に表示されます。

次のコンフィギュレーション モードのコマンドでは、コマンドを反映するために **commit** コマンドを使用する必要は**ありません**。

- アカウンティング
- SIP ネットワーク
- CUSP コンフィギュレーション モードでの SIP コマンド
- トリガー

これらのコマンドは、コミットされる必要のないコマンドの一部でしかありません。コミットできないコマンドは検証され、アクティブ コンフィギュレーションにただちに適用されます。**commit** コマンドはこれらのコマンドに影響を与えません。

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了すると、コンフィギュレーションの変更をまだコミットしていない場合、その変更のコミットを求めるプロンプトが表示されます。

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了する前に変更をコミットするか、変更をコミットしないで単にコンフィギュレーション モードを終了することができます。コミットされていないすべてのコミット可能なコマンドは破棄できます。

## 例

次の例では、コンフィギュレーションの変更を反映できるように、時間ポリシーを設定し、**commit** コマンドを発行する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tpl
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> start-time 14:15:20 jan 01 2008
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> end-time 12:00:00 dec 01 2008
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> month jan - feb , may , oct - dec
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> exit
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> exit
se-10-0-0-0 (cusp-config)> commit
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show configuration active</b>	アクティブな Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを表示します。
<b>show configuration candidate</b>	候補 Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを表示します。

# end

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションまたは EXEC モードを終了し、モジュール EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

**end**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

すべての Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション サブモード

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了するとき、未処理のコミットされていないコマンドがある場合は、既存のアクティブ コンフィギュレーションをコミットするかどうかを確認するプロンプトが表示されます。コマンドをコミットしないで終了すると、未処理のコミット可能なコマンドはすべてクリアされます。

## 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードを終了し、モジュール EXEC モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp) > end
se-10-0-0-0 >
```

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了し、コミットされていないコマンドをコミットし、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > end

Commit before exiting? (yes/no/cancel) [cancel]:y
Building CUSP configuration...
[OK]

se-10-0-0-0 (cusp) >
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>configure</b>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>exit</b>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードまたは EXEC モードを終了して、上位モードに戻ります。

# exit

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションまたは EXEC モードを終了し、上位のモードに戻るには、**exit** コマンドを使用します。

## exit

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

すべての Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション サブモード

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了するとき、未処理のコミットされていないコマンドがある場合は、既存のアクティブ コンフィギュレーションをコミットするかどうかを確認するプロンプトが表示されます。コマンドをコミットしないで終了すると、未処理のコミット可能なコマンドはすべてクリアされます。

### 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードを終了し、モジュール EXEC モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp)> exit
se-10-0-0-0>
```

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了し、コミットされていないコマンドをコミットし、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> exit

Commit before exiting? (yes/no/cancel) [cancel]:y
Building CUSP configuration...
[OK]

se-10-0-0-0 (cusp)>
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>configure</b>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>end</b>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードまたは EXEC モードを終了して、EXEC モードに戻ります。

# lite-mode

レコードルート コンフィギュレーションを削除し、ライセンスの制限を変更するには、**lite-mode** コマンドを使用します。

## lite-mode

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

すべての Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション サブモード

### コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容	
8.5	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

なし。

### 例

次に、lite モードを有効にする例を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > lite-mode
```

# load

サンプル テンプレート コンフィギュレーション ファイルを Cisco Unified SIP Proxy にロードするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC コンフィギュレーション モードで **load** コマンドを使用します。このコマンドの **no** 形式はありません。

```
load {ftp-url | pfs-url | tftp-url}
```

## 構文の説明

<i>ftp-url</i>	ロードするサンプル テンプレート コンフィギュレーション ファイルの FTP URL を指定します。
<i>pfs-url</i>	アクティブ コンフィギュレーションがコピーされる Public File System (PFS) URL、またはアクティブ コンフィギュレーションにコピーされる PFS URL を指定します。PFS URL は、 <i>pfs:/cusp/config/file_path</i> という形式で指定する必要があります。
<i>tftp-url</i>	ロードするサンプル テンプレート コンフィギュレーション ファイルの TFTP URL を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

初期化プロセス中に、デフォルトのコンフィギュレーションが自動的にロードされます。サンプル テンプレート コンフィギュレーション ファイルをロードできるのは、システムが初期化され、デフォルトのコンフィギュレーションがシステムにロードされた後になります。



(注)

このコマンドは、特定のファイルに列挙されているコンフィギュレーション コマンドをロードします。ファイル内のコミットできないコマンドが、ファイル内にある一連のコミット可能なコマンドに依存している場合、ファイル内のコミットできないコマンドの前に **commit** コマンドも列挙する必要があります。

## 例

次の例では、XXXXX という名前のサンプル テンプレート コンフィギュレーション ファイルをロードする方法を示します。

```
se-10-0-0-0# load-config XXXXX
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show configuration active</b>	アクティブな Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを表示します。

# show configuration active

ルート テーブルとルートを除くアクティブな Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードと Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **show configuration active** コマンドを使用します。

## **show configuration active**

特定のコンフィギュレーション コンテキストを表示するオプション キーワードのあるコマンドは、次のとおりです。

**show configuration active accounting**

**show configuration active policy**

**show configuration active policy lookup**

**show configuration active policy normalization**

**show configuration active policy time**

**show configuration active route group**

**show configuration active route table**

**show configuration active server-group radius**

**show configuration active server-group sip**

**show configuration active server-group sip group**

**show configuration active server-group sip ping-options**

**show configuration active sip**

**show configuration active sip ip-address queue**

**show configuration active sip listen**

**show configuration active sip network**

**show configuration active sip record-route**

**show configuration active sip tls**

**show configuration active trigger**

**show configuration active trigger pre-normalization**

**show configuration active trigger post-normalization**

**show configuration active trigger routing**

**show configuration active verbose**

## ■ show configuration active

## 構文の説明

すべてのキーワード	(オプション) 特定のコンフィギュレーション コンテキストを表すキーワードを入力して、そのコンテキストのアクティブ コンフィギュレーションだけを表示できます。
<b>verbose</b>	(オプション) ルート テーブルとルートを表示します。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)  
Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0	このコマンドが追加されました。
8.5	このコマンドが更新されました。

## 使用上のガイドライン

コミットされたすべてのコミット可能なコマンドおよびすべてのコミットできないコマンドを表示するには、このコマンドを使用します。すべてのアクティブ コンフィギュレーションを表示するか、または特定のコンフィギュレーション コンテキストのアクティブ コンフィギュレーションだけを表示できます。

**verbose** 引数を追加しない限り、システムによりルート テーブルまたはルートは表示されません。

## 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy アクティブ コンフィギュレーションをすべて表示する方法を示します。

```
se-10.0.0.0(cusp)> show configuration active

Building CUSP configuration...
!
server-group sip global-load-balance request-uri
server-group sip retry-after 0
server-group sip element-retries udp 3
server-group sip element-retries tls 1
server-group sip element-retries tcp 1
sip dns-srv
  enable
  use-naptr
end dns!
!
no sip header-compaction
no sip logging
!
sip max-forwards 70
sip network al standard
no non-invite-provisional
allow-connections
retransmit-count invite-server-transaction 9
retransmit-count invite-client-transaction 5
retransmit-count non-invite-client-transaction 9
retransmit-timer clientIn 64000
retransmit-timer serverIn 64000
retransmit-timer T4 5000
retransmit-timer T2 4000
retransmit-timer T1 500
retransmit-timer TU2 32000
```

```
    retransmit-timer TU1 5000
  end network
!
no sip peg-counting

sip tcp connection-timeout 240
sip tcp max-connections 256
!
sip overload reject retry-after 0
!
accounting
  no enable
  no client-side
  no server-side
end accounting
!
policy lookup p1
  end policy
!
no server-group sip global-ping
!
end
```

次の例では、RADIUS アカウンティング コンテキストだけのアクティブ コンフィギュレーションを表示する方法を示します。

```
se-10.0.0.0 (cusp)> show configuration active accounting
```

```
Building CUSP configuration...
!
accounting
  enable
  client-side
  server-side
end accounting
```

次の例では、SIP リッスン ネットワーク コンテキストだけのアクティブ コンフィギュレーションを表示する方法を示します。

```
se-192-168-20-42 (cusp)> show configuration active sip listen
```

```
Building CUSP configuration...
!
sip ip-address listen external udp 192.168.20.42 5061
sip ip-address listen internal udp 192.168.20.42 5060
```

次の例では、SIP ネットワーク コンテキストだけのアクティブ コンフィギュレーションを表示する方法を示します。

```
se-10.0.0.0 (cusp)> show configuration active sip network
```

```
Building CUSP configuration...
!
sip ip-address network external standard
  allow connections
end network
!
sip ip-address network internal standard
  allow connections
end network
```

## ■ show configuration active

次の例では、トリガー条件コンテキストだけのアクティブ コンフィギュレーションを表示する方法を示します。

```
se-10.0.0.0(cusp)> show configuration active trigger condition

Building CUSP configuration...
!
trigger condition default-condition
  sequence 1
    in-network internal
  end sequence
end trigger condition
!
trigger condition mid-dialog
  sequence 1
    message request
    route-uri-user rr
  end sequence
end trigger condition
!
trigger condition radius-interim
  sequence 1
    message response
    method UPDATE
  end sequence
end trigger condition
```

次の例では、トリガー条件正規化前コンテキストだけのアクティブ コンフィギュレーションを表示する方法を示します。

```
se-192-168-20-42(cusp)> show configuration active trigger pre-normalization
Building CUSP configuration...
!
trigger pre-normalization sequence 1 policy norm2 condition default-condition
```

次の例では、サーバグループ SIP グループ コンテキストだけのアクティブ コンフィギュレーションを表示する方法を示します。

```
se-192-168-20-42(cusp)> show configuration active server-group sip group
Building CUSP configuration...
!
server-group sip group sgl.cisco.com external
  element ip-address 192.168.1.47 5060 udp q-value 0.5 weight 0
  element ip-address 192.168.1.47 5061 udp q-value 0.7 weight 0
  failover-resp-codes 500 , 503 , 506
  lbtype global
  ping
end server-group
```

次の例では、ポリシー正規化コンテキストだけのアクティブ コンフィギュレーションを表示する方法を示します。

```
se-192-168-20-42(cusp)> show configuration active policy normalization
Building CUSP configuration...
!
policy normalization norm2
  header add SUPPORTED sequence 1 first 100rel
  header update REQUIRE first path
  header update SUBJECT first Hello
end policy
```

次の例では、ポリシー検索コンテキストだけのアクティブ コンフィギュレーションを表示する方法を示します。

```
se-192-168-20-42(cusp)> show configuration active policy lookup
Building CUSP configuration...
!
policy lookup lnx-policy
sequence 1 to-lnx header ruri uri-component user
rule prefix
end sequence
sequence 2 to-sun header ruri uri-component user
rule exact
end sequence
end policy
!
policy lookup mid-dialog-policy
sequence 1 mid-table header ruri uri-component uri
rule exact
end sequence
end policy
se-192-168-20-42(cusp)>
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show configuration candidate</b>	コミットされていないコンフィギュレーション コマンドの値がコミットされた場合に、Cisco Unified SIP Proxy の実行コンフィギュレーションを表示します。
<b>show configuration factory-default</b>	工場出荷時のデフォルト設定を表示します。

# show configuration candidate

コミットされていないコンフィギュレーション コマンドの値がコミットされた場合に Cisco Unified SIP Proxy の実行コンフィギュレーションを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy 管理モードまたは Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **show configuration candidate** コマンドを使用します。

## show configuration candidate

特定のコンフィギュレーション コンテキストを表示するオプション キーワードのあるコマンドは、次のとおりです。

**show configuration candidate accounting**

**show configuration candidate policy lookup**

**show configuration candidate policy normalization**

**show configuration candidate policy time**

**show configuration candidate route group**

**show configuration candidate route table**

**show configuration candidate server-group radius**

**show configuration candidate server-group sip**

**show configuration candidate server-group sip group**

**show configuration candidate server-group sip ping-options**

**show configuration candidate sip listen**

**show configuration candidate sip network**

**show configuration candidate sip record-route**

**show configuration candidate trigger condition**

**show configuration candidate trigger pre-normalization**

**show configuration candidate trigger post-normalization**

**show configuration candidate trigger routing**

**show configuration candidate verbose**

## 構文の説明

すべてのキーワード	(オプション) 特定のコンフィギュレーション コンテキストを表すキーワードを入力して、そのコンテキストのコミットされていないコンフィギュレーションだけを表示できます。
<b>verbose</b>	(オプション) ルート テーブルとルートを表示します。

**コマンド モード**

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)  
Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

**コマンド履歴****Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0	このコマンドが追加されました。
8.5	このコマンドが更新されました。

**使用上のガイドライン**

**commit** コマンドを入力する場合にアクティブ コンフィギュレーションの内容を表示するには、このコマンドを使用します。このコマンドは、アクティブ コンフィギュレーションに加え、前回 **commit** コマンドが入力されてから行われたすべての変更を表示します。

**verbose** 引数を追加しない限り、システムによりルート テーブルまたはルートは表示されません。

**例**

次の例では、**commit** コマンドが入力された場合に Cisco Unified SIP Proxy 実行コンフィギュレーションをすべて表示する方法を示します。

```
se-10.0.0.0(cusp)> show configuration candidate
```

```
Building CUSP configuration...
!
server-group sip element-retries udp 3
server-group sip element-retries tls 1
server-group sip element-retries tcp 1
server-group sip global-load-balance request-uri
server-group sip retry-after 0
!
no sip 100-response
no sip dns srv-records
no sip header-compaction
no sip logging
!
sip max-forwards 70
sip network a1 standard
allow-connections
end network
!
sip overload reject retry-after 0
!
no sip peg-counting
!
sip tcp connection-timeout 240
sip tcp max-connections 256
!
accounting
no enable
no client-side
no server-side
end accounting
!
policy lookup p1
end policy
!
no server-group sip global-ping
!
end
```

## ■ show configuration candidate

次の例では、RADIUS アカウンティング コンテキストだけのコミットされていないコンフィギュレーションを表示する方法を示します。

```
se-10.0.0.0 (cusp)> show configuration candidate accounting
```

```
Building CUSP configuration...
!
accounting
  enable
  client-side
  server-side
end accounting
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>show configuration active</b>	アクティブな Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを表示します。
<b>show configuration factory-default</b>	工場出荷時のデフォルト設定を表示します。

# show configuration factory-default

工場出荷時のデフォルト設定を表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show configuration factory-default** コマンドを使用します。

## show configuration factory-default

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

Cisco Unified SIP Proxy の工場出荷時のデフォルト設定を表示するには、このコマンドを使用します。システムを工場出荷時のデフォルト設定にリセットする場合、システム上に格納されているこの設定になります。

### 例

次の例では、工場出荷時のデフォルト設定を表示する方法を示します。

```
se-10.0.0.0 (cusp)> show configuration factory-default
```

```
Building CUSP configuration...
!
server-group sip global-load-balance call-id
server-group sip retry-after 0
server-group sip element-retries tcp 1
server-group sip element-retries udp 3
server-group sip element-retries tls 1
sip dns-srv
  no enable
  use-naptr
  end dns
!
no sip header-compaction
no sip logging
!
sip max-forwards 70
!
no sip peg-counting
!
sip privacy service
sip queue message
  drop-policy head
  low-threshold 80
  size 2000
  thread-count 20
  end queue
!
sip queue radius
```

## ■ show configuration factory-default

```
drop-policy head
low-threshold 80
size 2000
thread-count 20
end queue
!
sip queue request
drop-policy head
low-threshold 80
size 2000
thread-count 20
end queue
!
sip queue response
drop-policy head
low-threshold 80
size 2000
thread-count 20
end queue
!
sip queue st-callback
drop-policy head
low-threshold 80
size 2000
thread-count 10
end queue
!
sip queue timer
drop-policy none
low-threshold 80
size 2500
thread-count 8
end queue
!
sip queue xcl
drop-policy head
low-threshold 80
size 2000
thread-count 2
end queue
!
route recursion
!
sip tcp connection-timeout 240
sip tcp max-connections 256
!
no sip tls
!
accounting
no enable
no client-side
no server-side
end accounting
!
no server-group sip global-ping
!
end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show configuration active</b>	アクティブな Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを表示します。
<b>show configuration candidate</b>	コミットされていないコンフィギュレーション コマンドの値がコミットされた場合に、Cisco Unified SIP Proxy の実行コンフィギュレーションを表示します。

# show sip

SIP ログ ファイルを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show sip** コマンドを使用します。

```
show sip {message | peg-counting} log [options]
```

構文の説明		
	<b>message</b>	SIP メッセージ ログを表示します。
	<b>peg-counting</b>	SIP ペグ カウント ログを表示します。
	<i>options</i>	ログ ファイルを表示するオプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ログの末尾から数えて指定した行数にある内容を表示します。</li> <li>• 別のコマンドに出力を送信します。</li> <li>• ログの最新のエントリを表示し、その内容を更新し続けます。</li> </ul>

**コマンド モード** Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

コマンド履歴	Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** SIP メッセージ ログ ファイルは、10 MB ごとまたは毎晩交換され、pfs://cusp/log/sipmsg に格納されます。SIP ペグ カウント ログ ファイルは、10 MB ごとまたは毎晩交換され、pfs://cusp/log/pegcount に格納されます。

**例** 次の例は、**show sip message log** コマンドの出力例です。

```
se-10.0.0.0(cusp)> show sip message log

Request received at Wed, 19 Nov 2008 21:01:25,081 GMT on 192.168.20.101 on port 6060 from
the Remote IP 192.168.20.25 on port 6080

INVITE sip:735551212@192.1.1.75:6061 SIP/2.0
Via: SIP/2.0/UDP 192.168.20.5:6080;branch=z9hG4bK-1-0
Max-Forwards: 70
To: sut <sip:735551212@192.1.1.75:6061>
From: sipp <sip:sipp@192.168.20.5:6080>;user=phone;vnd.pimg.port=1;tag=1
Contact: sip:sipp@192.168.20.5:6080
Call-ID:1-7675@192.168.20.5
CSeq: 1 INVITE
Content-Length:135
P-Asserted-Identity: <sip:alice@home1.net>
Cisco-Guid: 1234567890
Subject: Performance Test
Content-Type: application/sdp

v=0
o=user1 53655765 2353687637 IN IP4 192.168.20.5
s=-
```

```
c=IN IP4 192.168.20.5
t=0 0
m=audio 6070 RTP/AVP 0
a=rtpmap:0 PCMU/8000
```

```
MESSAGE COMPLETE
```

次の例は、**show sip peg-counting log** コマンドの出力例です。

```
se-10.0.0.0(cusp)> show sip peg-counting log
```

Message	Delta In Initial	Delta Out Initial	Delta In Retrans	Delta Out Retrans	Total In Initial	Total Out Initial	Total In Retrans	Total Out Retrans
INVITE	0	0	0	0	0	0	0	0
ACK	0	0	0	0	0	0	0	0
CANCEL	0	0	0	0	0	0	0	0
BYE	0	0	0	0	0	0	0	0
OPTIONS	0	0	0	0	0	0	0	0
REGISTER	0	0	0	0	0	0	0	0
SUBSCRIBE	0	0	0	0	0	0	0	0
NOTIFY	0	0	0	0	0	0	0	0
PRACK	0	0	0	0	0	0	0	0
REFER	0	0	0	0	0	0	0	0
UPDATE	0	0	0	0	0	0	0	0
PUBLISH	0	0	0	0	0	0	0	0
INFO	0	0	0	0	0	0	0	0
100	0	0	0	0	0	0	0	0
180	0	0	0	0	0	0	0	0
181	0	0	0	0	0	0	0	0
182	0	0	0	0	0	0	0	0
183	0	0	0	0	0	0	0	0
200	0	0	0	0	0	0	0	0
202	0	0	0	0	0	0	0	0
300	0	0	0	0	0	0	0	0
301	0	0	0	0	0	0	0	0
302	0	0	0	0	0	0	0	0
305	0	0	0	0	0	0	0	0
380	0	0	0	0	0	0	0	0
400	0	0	0	0	0	0	0	0
401	0	0	0	0	0	0	0	0
402	0	0	0	0	0	0	0	0
403	0	0	0	0	0	0	0	0
404	0	0	0	0	0	0	0	0
405	0	0	0	0	0	0	0	0
406	0	0	0	0	0	0	0	0
407	0	0	0	0	0	0	0	0

■ show sip



## Cisco Unified SIP Proxy SIP コマンド

---

- 「sip network」
  - 「allow-connections」
  - 「header-hide」
  - 「udp max-datagram-size」
  - 「non-invite-provisional」
  - 「retransmit count (SIP ネットワーク)」
  - 「retransmit-timer (SIP ネットワーク)」
- 「sip listen」
- 「sip record-route」
- 「sip max-forwards」
- 「sip header-compaction」
- 「sip overload redirect」
- 「sip overload reject」
- 「sip tcp connection-timeout」
- 「sip tcp max-connections」
- 「sip queue」
  - 「drop-policy」
  - 「low-threshold」
  - 「size」
  - 「thread-count」
- 「sip dns-srv」
  - 「enable (SIP DNS サーバ)」
  - 「use-naptr」
- 「sip alias」
- 「sip logging」
- 「sip peg-counting」
- 「sip privacy trusted-destination」
- 「sip privacy trusted-source」

- 「[sip privacy service](#)」
- 「[sip tls](#)」
- 「[sip tls trusted-peer](#)」
- 「[route recursion](#)」

# sip network

論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip network** コマンドを使用します。このコマンドの **no** 形式はありません。

**sip network network [icmp | nat | noicmp | standard]**

## 構文の説明

<i>network</i>	SIP ネットワーク インターフェイスの名前を指定します。
<b>standard</b>	(オプション) 標準 SIP を使用するには、ネットワーク インターフェイスを設定します。ネットワークは UDP に完全に対応しています。ネットワーク インターフェイスは、ICMP、および各エンドポイントで使用できるさまざまなソケットに対応しています。これはデフォルトの設定です。
<b>nat</b>	(オプション) Network Address Translation (NAT) を使用するためのネットワーク インターフェイスを設定します。
<b>icmp</b>	(オプション) インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) を使用するためのネットワーク インターフェイスを設定します。
<b>noicmp</b>	(オプション) 各エンドポイントで別のソケットを使用しないようにネットワーク インターフェイスを指定します。この設定によって、ICMP 以外のエラーがサポートされます。

## コマンド デフォルト

Standard

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ネットワーク インターフェイスで使用されるソケットのタイプにはさまざまな特性があります。

- Standard
  - ネットワーク インターフェイスは UDP に完全に対応しています。
  - ネットワーク インターフェイスは ICMP に対応しています。
  - 各エンドポイントでさまざまなソケットを使用できます。
- ICMP
  - ネットワーク インターフェイスは ICMP に対応しています。
- No ICMP
  - ICMP エラーはサポートされません。
  - ネットワークでは各エンドポイントで別のソケットを使用しません。

- NAT
  - ネットワーク インターフェイスは NAT に対応しています。



注意

SIP ネットワークの作成後は、SIP ネットワークを削除することはできません。

## 例

次の例では、標準ネットワークを設定し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip network internal
se-10-0-0-0 (cusp-config-network)>
```

次の例では、ICMP に対応するように SIP ネットワークを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip network external icmp
```

次の例では、ICMP エラーがサポートされないように、SIP ネットワーク インターフェイスを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip network external noicmp
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>allow-connections</b>	TCP/TLS クライアント接続を許可するように、SIP ネットワークを設定します。
<b>header-hide</b>	ヘッダーをマスクするように SIP ネットワークを設定します。
<b>non-invite-provisional</b>	INVITE 以外の要求に対して 100 応答を送信できるようにします。
<b>retransmit-count</b>	SIP ネットワークの再送信回数を設定します。
<b>retransmit-timer</b>	SIP ネットワークの再送信タイマー値を設定します。
<b>show configuration active sip network</b>	設定された SIP ネットワークを表示します。

# allow-connections

TCP/TLS クライアント接続を許可するように SIP ネットワークを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードで **allow-connections** コマンドを使用します。SIP ネットワークで TCP/TLS 接続を許可しないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**allow-connections**

**no allow-connections**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

SIP ネットワークでの TCP/TLS クライアント接続はデフォルトで有効になります。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy SIP ネットワーク コンフィギュレーション (cusp-config-network)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 例

次の例では、「internal」という名前の標準 SIP ネットワークで TCP/TLS 接続を許可する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip network internal standard
se-10-0-0-0 (cusp-config-network)> allow-connections
```

次の例では、「internal」という名前の標準 SIP ネットワークで TCP/TLS 接続を無効にする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip network internal standard
se-10-0-0-0 (cusp-config-network)> no allow-connections
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>header-hide</b>	ヘッダーをマスクするように SIP ネットワークを設定します。
<b>non-invite-provisional</b>	INVITE 以外の要求に対して 100 応答を送信できるようにします。
<b>retransmit-count</b>	SIP ネットワークの再送信回数を設定します。
<b>retransmit-timer</b>	SIP ネットワークの再送信タイマー値を設定します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

# header-hide

ヘッダー値をマスクするように SIP ネットワークを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードで **header-hide** コマンドを使用します。ヘッダー値をマスクしないように SIP ネットワークを設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**header-hide** *header-name*

**no header-hide** *header-name*

## 構文の説明

*header-name* ネットワークに対してマスクされるヘッダー名を指定します。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy SIP ネットワーク コンフィギュレーション (cusp-config-network)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0 このコマンドが追加されました。

## コマンド デフォルト

ヘッダー値はマスクされません。

## 使用上のガイドライン

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 1.0 の有効なヘッダー名は **via** だけです。

## 例

次の例では、Via ヘッダーをマスクするように SIP ネットワークを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip network external standard
se-10-0-0-0(cusp-config-network)> header-hide via
```

次の例では、Via ヘッダーをマスクしないように SIP ネットワークを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip network external standard
se-10-0-0-0(cusp-config-network)> no header-hide via
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>non-invite-provisional</b>	INVITE 以外の要求に対して 100 応答を送信できるようにします。
<b>retransmit-count</b>	SIP ネットワークの再送信回数を設定します。
<b>retransmit-timer</b>	SIP ネットワークの再送信タイマー値を設定します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

# udp max-datagram-size

このネットワークの UDP データグラムの最大サイズを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードで **udp max-datagram-size** コマンドを使用します。UDP 最大データグラム サイズのデフォルト値を設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**udp max-datagram-size** *size*

**no udp max-datagram-size**

## 構文の説明

*size* ネットワークの UDP データグラムの最大サイズ (バイト単位) を指定します。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy SIP ネットワーク コンフィギュレーション (cusp-config-network)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.1.4 このコマンドが追加されました。

## コマンド デフォルト

**udp max-datagram-size** : 1500

## 使用上のガイドライン

ネットワーク上のパケットがこの指定されたサイズよりも大きいとき、ネットワークに対して設定された TCP リスニング ポイントが存在する場合、メッセージは TCP にアップグレードされます。

## 例

次の例では、このネットワークの UDP データグラムの最大サイズを 2000 バイトに設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip network external standard
se-10-0-0-0 (cusp-config-network)> udp max-datagram-size 2000
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>non-invite-provisional</b>	INVITE 以外の要求に対して 100 応答を送信できるようにします。
<b>retransmit-count</b>	SIP ネットワークの再送信回数を設定します。
<b>retransmit-timer</b>	SIP ネットワークの再送信タイマー値を設定します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

# non-invite-provisional

INVITE 以外の要求に対して 100 応答を送信できるようにするには、Cisco Unified SIP Proxy SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードで **non-invite-provisional** コマンドを使用します。INVITE 以外の要求に対して 100 応答を送信できないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**non-invite-provisional** {*TU3-timer-value*}

**no non-invite-provisional**

## 構文の説明

*TU3-timer-value* 使用する TU3 タイマーを指定します。

## コマンド デフォルト

INVITE 以外の要求に対して 100 応答は送信できません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy SIP ネットワーク コンフィギュレーション (cusp-config-network)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

TU3 送信タイプだけを使用して SIP ネットワークを設定するには、このコマンドを使用します。INVITE 以外の要求に対して 100 応答を送信できないようにする場合、TU3 タイマーを指定する必要があります。

## 例

次の例では、INVITE 以外の要求に対して 100 応答を送信できるようにし、TU3 タイマー値を 200 に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip network external standard
se-10-0-0-0(cusp-config-network)> non-invite-provisional 200
```

次の例では、INVITE 以外の要求に対して 100 応答を送信できないようにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip network external standard
se-10-0-0-0(cusp-config-network)> no non-invite-provisional
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>allow-connections</b>	TCP/TLS クライアント接続を許可するように、SIP ネットワークを設定します。
<b>header-hide</b>	ヘッダーをマスクするように SIP ネットワークを設定します。
<b>retransmit-count</b>	SIP ネットワークの再送信回数を設定します。
<b>retransmit-timer</b>	SIP ネットワークの再送信タイマー値を設定します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

## retransmit count (SIP ネットワーク)

SIP ネットワークの再送信回数を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードで **retransmit-count** コマンドを使用します。再送信回数の値をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

```
retransmit-count {invite-client-transaction | invite-server-transaction |
non-invite-client-transaction} count_value
```

```
no retransmit-count {invite-client-transaction | invite-server-transaction |
non-invite-client-transaction}
```

```
default retransmit-count {invite-client-transaction | invite-server-transaction |
non-invite-client-transaction}
```

構文の説明	
<b>invite-client-transaction</b>	INVITE 要求の再送信回数を指定します。デフォルトは 5 です。
<b>invite-server-transaction</b>	INVITE 要求の最終応答の再送信回数を指定します。デフォルトは 9 です。
<b>non-invite-client-transaction</b>	INVITE 以外の要求の再送信回数を指定します。デフォルトは 9 です。
<i>count_value</i>	再送信回数を指定します。有効な範囲は 0 ~ 127 です。デフォルトは、選択された再送信回数によって異なります。

**コマンド デフォルト** それぞれの再送信回数タイプのデフォルト値は次のとおりです。

- **invite-client-transaction** : 3
- **invite-server-transaction** : 3
- **non-invite-client-transaction** : 3

**コマンド モード** Cisco Unified SIP Proxy SIP ネットワーク コンフィギュレーション (cusp-config-network)

**コマンド履歴**

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** 再送信回数の値は、許可される SIP 再送信の最大数を指定します。ネットワークの再送信遅延特性が異なる場合、特定の回数の値を、ネットワークごとに別々に設定できます。SIP による再送信回数の詳細については、RFC 3261 を参照してください。

**例** 次の例では、INVITE クライアントの再送信回数を 5 に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip network external standard
se-10-0-0-0 (cusp-config-network)> retransmit-count invite-client-transaction 5
```

## retransmit count (SIP ネットワーク)

次の例では、クライアントの再送信回数を 18 に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip network external standard
se-10-0-0-0 (cusp-config-network)> retransmit-count non-invite-client-transaction 18
```

次の例では、INVITE クライアントの回数をデフォルト値に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip network external standard
se-10-0-0-0 (cusp-config-network)> no retransmit-count invite-client-transaction
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>allow-connections</b>	TCP/TLS クライアント接続を許可するように、SIP ネットワークを設定します。
<b>header-hide</b>	ヘッダーをマスクするように SIP ネットワークを設定します。
<b>non-invite-provisional</b>	INVITE 以外の要求に対する 100 応答を送信できるようにします。
<b>retransmit-timer</b>	SIP ネットワークの再送信タイマー値を設定します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

## retransmit-timer (SIP ネットワーク)

SIP ネットワークの SIP 再送信タイマーの値を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードで **retransmit-timer** コマンドを使用します。再送信タイマー値をデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

```
retransmit-timer {T1 | T2 | T4 | serverTn | clientTn | TU1 | TU2 } timer_value
```

```
no retransmit-timer {T1 | T2 | T4 | serverTn | clientTn | TU1 | TU2 }
```

```
default retransmit-timer {T1 | T2 | T4 | serverTn | clientTn | TU1 | TU2}
```

### 構文の説明

<b>T1</b>	最初の要求の再送信間隔を設定します。デフォルトは 500 ミリ秒です。
<b>T2</b>	要求の再送信の最大値を設定します。デフォルトは 4,000 ミリ秒です。
<b>T4</b>	要求または応答の再送信を処理するために、完了後に NONINVITE クライアント トランザクションまたは INVITE サーバ トランザクションがアクティブのままになる時間を設定します。デフォルトは 5,000 ミリ秒です。
<b>serverTn</b>	サーバ トランザクションの最大有効期間を設定します。デフォルトは 64,000 ミリ秒です。
<b>clientTn</b>	クライアント トランザクションの最大有効期間を設定します。デフォルトは 64,000 ミリ秒です。
<b>TU1</b>	応答の再送信を処理するために、2xx 応答の完了後に INVITE トランザクションがアクティブのままになる時間を設定します。デフォルトは 5,000 ミリ秒です。
<b>TU2</b>	トランザクションがタイムアウトしたと見なされてから、サーバが INVITE クライアント トランザクションまたは NONINVITE サーバ トランザクションの暫定応答または最終応答を待機する時間を設定します。デフォルトは 32,000 ミリ秒です。
<b>timer_value</b>	再送信タイマー値を指定します。デフォルト値は、選択された再送信タイマーによって異なります。

### コマンド デフォルト

それぞれの再送信タイマーのデフォルト値は次のとおりです。

- **T1** : 500 ミリ秒
- **T2** : 4,000 ミリ秒
- **T4** : 5,000 ミリ秒
- **serverTn** : 64,000 ミリ秒
- **clientTn** : 64,000 ミリ秒
- **TU1** : 5,000 ミリ秒
- **TU2** : 32,000 ミリ秒

**コマンド モード** Cisco Unified SIP Proxy SIP ネットワーク コンフィギュレーション (cusp-config-network)

**コマンド履歴** Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

再送信タイマー値は、SIP 再送信の期間を定義します。ネットワークの再送信遅延特性が異なる場合、特定のタイマーの値を、ネットワークごとに別々に設定できます。SIP による再送信タイマーの詳細については、RFC 3261 を参照してください。

### 例

次の例では、T1 再送信タイマーを 1,000 ミリ秒に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip network external standard
se-10-0-0-0 (cusp-config-network)> retransmit-timer T1 1000
```

次の例では、TU1 再送信タイマーをデフォルト値に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip network external standard
se-10-0-0-0 (cusp-config-network)> no retransmit-timer TU1
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>allow-connections</b>	TCP/TLS クライアント接続を許可するように、SIP ネットワークを設定します。
<b>header-hide</b>	ヘッダーをマスクするように SIP ネットワークを設定します。
<b>non-invite-provisional</b>	INVITE 以外の要求に対して 100 応答を送信できるようにします。
<b>retransmit-count</b>	SIP ネットワークの再送信回数を設定します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

# sip listen

特定の SIP ネットワーク、ホスト、およびポート上の SIP トラフィックをリッスンするリスナーを作成するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip listen** コマンドを使用します。SIP ネットワークからリスナーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
sip listen network_name {tcp | tls | udp} ip_address port
```

```
no sip listen network_name {tcp | tls | udp} ip_address port
```

## 構文の説明

<i>network_name</i>	SIP ネットワーク名を指定します。
<b>tcp</b>	リスナーの転送プロトコルとして TCP が使用されるように指定します。
<b>tls</b>	リスナーの転送プロトコルとして TLS が使用されるように指定します。
<b>udp</b>	リスナーの転送プロトコルとして UDP が使用されるように指定します。これはデフォルトです。
<i>ip_address</i>	着信要求を受け入れるインターフェイス IP アドレスです。
<i>port</i>	サーバが着信メッセージをリッスンするポートです。有効な範囲は 1024 ~ 65535 です。デフォルト値は 5060 です。

## コマンド デフォルト

SIP ネットワーク上のリスナーはイネーブルになっていません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

リスナーは、サーバが着信パケットをリッスンする、インターフェイス、ポート、および転送タブです。1 台のサーバに複数のリスナーを構成できますが、サーバで SIP トラフィックを受け入れるように少なくとも 1 つのリスナーを構成する必要があります。ネットワークには複数のリスナーを構成できません。ネットワークの設定の変更を行う場合に、ネットワーク上のリスナーをディセーブルにする必要はありません。



### 注意

TCP リスナーおよび TLS リスナーを同じポート上で実行することはできません。



### 注意

他のすべての設定タスクを完了するまで、**sip listen** コマンドをイネーブルにしないでください。このコマンドをイネーブルにすると、システムでは、指定された SIP ネットワークから着信要求を受信し始めます。

## ■ sip listen

**例**

次の例では、TCP を使用する「external」という SIP ネットワーク上のリスナーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip listen external tcp 10.2.3.4 5060
```

次の例では、UDP を使用する「internal」という SIP ネットワーク上のリスナーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip listen internal udp 192.168.1.3 5061
```

次の例では、SIP ネットワーク上のリスナーをディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no sip listen external tcp 10.2.3.4 5060
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

# sip record-route

SIP ネットワークのレコードルーティングをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip record-route** コマンドを使用します。SIP ネットワークのレコードルーティングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
sip record-route network_name {tcp | tls | udp} ip_address [port]
```

```
no sip record-route network_name
```

## 構文の説明

<i>network_name</i>	レコードルート コンフィギュレーションに論理的に関連付けられる、SIP ネットワーク名を ( <b>sip network</b> コマンドを使用して設定したように) 指定します。
<b>tcp</b>	TCP により Record-Route ヘッダー フィールドにデータが入力されるように指定します。
<b>tls</b>	TLS により Record-Route ヘッダー フィールドにデータが入力されるように指定します。
<b>udp</b>	UDP により Record-Route ヘッダー フィールドにデータが入力されるように指定します。これはデフォルトです。
<i>ip_address</i>	Record-Route ヘッダー フィールドに入力する、インターフェイス ホスト名または IP アドレスを指定します。
<i>port</i>	(オプション) Record-Route ヘッダー フィールドに入力するポートを指定します。このオプションを指定しない場合、5060 が入力されます。有効な範囲は 1024 ~ 65535 です。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

レコードルーティングにより、ダイアログ内のすべての SIP メッセージが同じルートを経由することができます。SIP Record-Route ヘッダー フィールドには、メッセージが強制的に目的の SIP エンティティを経由するようにする、コンフィギュレーション インターフェイス、ポート、および転送値が含まれます。レコードルート機能は、サーバグループの SIP トラフィックを管理するロード バランサに、メッセージを送るようになるために重要です。

## 例

次の例では、「internal」という SIP ネットワークのレコードルーティングをイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip record-route internal udp cuspl.example.com
```

## ■ sip record-route

次の例では、「external」という SIP ネットワークのレコードルーティングをイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip record-route external tcp 192.168.1.3 5061
```

次の例では、「external」という SIP ネットワークのレコードルーティングをディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no sip record-route external
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show configuration active sip record-route</b>	SIP レコードルート コンフィギュレーションを表示します。

# sip max-forwards

SIP Max-Forwards ヘッダー フィールドの値を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip max-forwards** コマンドを使用します。SIP Max-Forwards ヘッダー フィールドから値を削除し、デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip max-forwards** *max\_forward\_value*

**no sip max-forwards** *max\_forward\_value*

<b>構文の説明</b>	<i>max_forward_value</i>	Max-Forwards ヘッダー フィールドの値を指定します。指定できる値は 0 ~ 255 です。デフォルト値は 70 です。
--------------	--------------------------	---

<b>コマンド デフォルト</b>	70
-------------------	----

<b>コマンド モード</b>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)
-----------------	---

<b>コマンド履歴</b>	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容</b>
	1.0 このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** SIP 要求の Max-Forwards ヘッダー フィールドは、要求を別のサーバに転送できる最大回数を指定します。要求がサーバによって受信されるたびに、この値が 1 減ります（要求に Max-Forwards ヘッダーがない場合は、値に 1 追加されます）。値が 0 になると、サーバは 483 (Too Many Hops) 応答で応答し、トランザクションを終了します。

Max-Forwards ヘッダー フィールドを使用して、ネットワーク内の転送ループを検出できます。



**(注)** このコマンドの値は 10 以上 100 以下に設定することを推奨します。

**例** 次の例では、SIP Max-Forwards ヘッダー フィールドの値を 100 に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip max-forwards 100
```

<b>関連コマンド</b>	<b>コマンド</b>	<b>説明</b>
	<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

# sip header-compaction

SIP ヘッダー圧縮をイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip header-compaction** コマンドを使用します。SIP ヘッダー圧縮をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip header-compaction**

**no sip header-compaction**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

SIP ヘッダー圧縮はディセーブルです。

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

イネーブルの場合、次の SIP ヘッダーに対して圧縮ヘッダー形式が使用されます。

- Call-ID
- Contact
- Content-Encoding
- Content-Length
- Content-Type
- From
- Subject
- To
- Via

ヘッダー圧縮がディセーブルの場合、ヘッダー形式にかかわらず、すべての発信メッセージで SIP ヘッダー全体が使用されます。

## 例

次の例では、SIP ヘッダー圧縮をイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip header-compaction
```

次の例では、SIP ヘッダー圧縮をディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > no sip header-compaction
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>sip network</code>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

# sip overload redirect

サーバが過負荷状態になったときに 300 (Redirect) 応答を送信するようにサーバを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip overload redirect** コマンドを使用します。サーバが過負荷状態になったときにリダイレクト応答を送信しないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
sip overload redirect redirect_ip [port redirect_port] [transport {tcp | tls | udp}]
```

```
no sip overload redirect redirect_ip [port redirect_port] [transport {tcp | tls | udp}]
```

## 構文の説明

<i>redirect_ip</i>	SIP Contact ヘッダー フィールドで送信されるリダイレクト インターフェイス ホスト名または IP アドレスです。以降の要求はこのアドレスでサーバにリダイレクトされます。
<b>port</b> <i>redirect_port</i>	(オプション) リダイレクトホストのポート。有効な範囲は 1024 ~ 65535 です。デフォルトは 5060 です。
<b>transport</b>	(オプション) リダイレクトホストにより使用される転送プロトコルです。
<b>tcp</b>	TCP を転送プロトコルとして使用します。
<b>tls</b>	TLS を転送プロトコルとして使用します。
<b>udp</b>	UDP を転送プロトコルとして使用します。UDP は、転送プロトコルが選択されていない場合のデフォルト値です。

## コマンド デフォルト

デフォルト ポートは 5060 で、デフォルトの転送プロトコルは UDP です。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、サーバが過負荷状態になった場合のサーバの動作を設定します。拒否とリダイレクトという 2 つの動作モードがあります。リダイレクト モードを設定するには、**sip overload redirect** コマンドを使用し、拒否モードを設定するには **sip overload reject** コマンドを使用します。一度に設定できるのは 1 つのモードだけです。

拒否モードが設定されている場合、プロキシはメッセージを拒否し、過負荷状態になった場合には 503 (Server Unavailable) 応答で応答します。

リダイレクト モードが設定されている場合、プロキシはメッセージをリダイレクトし、過負荷状態になった場合には 300 (Redirect) 応答で応答します。

**例** 次の例では、サーバが過負荷状態になった場合に 300 (Redirect) 応答で応答するようにサーバを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip overload redirect 192.168.20.5 transport udp
```

次の例では、サーバが過負荷状態になった場合の 300 (Redirect) 応答での応答をディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no sip overload redirect 192.168.20.5
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>sip overload reject</b>	サーバが過負荷状態になったときに 503 (Server Unavailable) 応答を送信するようにサーバを設定します。

# sip overload reject

サーバが過負荷状態になったときに 503 (Server Unavailable) 応答を送信するようにサーバを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip overload reject** コマンドを使用します。サーバが過負荷状態になったときに拒否応答を送信しないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip overload reject [retry-after *retry\_after\_time*]**

**no sip overload reject [retry-after *retry\_after\_time*]**

## 構文の説明

**retry-after *retry\_after\_time*** (オプション) 送信者がトランザクションを再度試行できる場合に指定する、503 (Server Unavailable) 応答の SIP Retry-After ヘッダー フィールドの送信秒数。このオプションを指定しない場合、503 (Server Unavailable) 応答に Retry-After ヘッダー フィールドが含まれません。指定できる最小値は 0 です。デフォルト値は 0 です。

## コマンド デフォルト

デフォルト値は 0 です。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、サーバが過負荷状態になった場合のサーバの動作を設定します。拒否とリダイレクトという 2 つの動作モードがあります。リダイレクト モードを設定するには、**sip overload redirect** コマンドを使用し、拒否モードを設定するには **sip overload reject** コマンドを使用します。一度に設定できるのは 1 つのモードだけです。

拒否モードが設定されている場合、プロキシはメッセージを拒否し、過負荷状態になった場合には 503 (Server Unavailable) 応答で応答します。

リダイレクト モードが設定されている場合、プロキシはメッセージをリダイレクトし、過負荷状態になった場合には 300 (Redirect) 応答で応答します。

## 例

次の例では、サーバが過負荷状態になった場合に 503 (Server Unavailable) 応答を送信するようにサーバを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip overload-reject
```

次の例では、サーバが過負荷状態になった場合に 503 (Server Unavailable) 応答を送信するようにサーバを設定し、**retry-after-time** を 60 秒に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip overload-reject 60
```

次の例では、サーバが過負荷状態になった場合の 503 (Server Unavailable) 応答の送信をディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no sip overload-reject
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>sip overload redirect</b>	サーバが過負荷状態になったときに 300 (Redirect) 応答を送信するようにサーバを設定します。

# sip tcp connection-timeout

サーバが SIP TCP 接続を開いたままにする時間（分）を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip tcp connection-timeout** コマンドを使用します。SIP TCP 接続タイムアウト値をそのデフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip tcp connection-timeout** *timeout\_value*

**no sip tcp connection-timeout**

## 構文の説明

<i>timeout_value</i>	アイドル TCP/TLS 接続が正常に閉じられるまでの時間（分）を指定します。受け入れられる値は 0 以上の値です。デフォルト値は 30 分です。
----------------------	---

## コマンド デフォルト

30 分

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、SIP TCP 接続タイムアウト値を 120 分に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip tcp connection-timeout 120
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>sip tcp max-connections</b>	TCP/TLS 接続の最大数を設定します。

# sip tcp max-connections

TCP/TLS 接続の最大数を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip tcp max-connections** コマンドを使用します。システムをデフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip tcp max-connections** *value*

**no sip tcp max-connections** *value*

<b>構文の説明</b>	<i>value</i>	許可される TCP/TLS 接続の最大数。デフォルトは 256 で、最小値は 1 です。
--------------	--------------	--

**コマンド デフォルト** 許可される TCP/TLS 接続の最大数は 256 です。

**コマンド モード** Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

<b>コマンド履歴</b>	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容</b>
1.0	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** TCP/TLS 接続が最大数に達した場合、パッシブ（着信）接続は受け入れられず、追加のアクティブ（発信）接続は行うことができます。

**例** 次の例では、TCP/TLS 接続の最大数を 512 に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip tcp max-connections 512
```

<b>関連コマンド</b>	<b>コマンド</b>	<b>説明</b>
	<b>sip tcp connection-timeout</b>	サーバで SIP TCP 接続を開いたままにする時間（分）を設定します。

# sip queue

SIP キューのプロパティを設定し、SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip queue** コマンドを使用します。SIP キュー コンフィギュレーション サブモードのすべてのプロパティをデフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

```
sip queue {message | request | st-callback | ct-callbackresponse | timer | xcl | radius}
```

```
no sip queue {message | request | st-callback | ct-callbackresponse | timer | xcl | radius}
```

```
default sip queue {message | request | st-callback | ct-callbackresponse | timer | xcl | radius}
```

## 構文の説明

<b>message</b>	SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始して、メッセージキューのプロパティを設定します。メッセージキューは、トランスポート レイヤから受信される着信 SIP メッセージを管理します。
<b>request</b>	SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始して、要求キューのプロパティを設定します。要求キューは、サーバでただちに処理できない着信 SIP 要求を管理します。
<b>st-callback</b>	SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始して、st-callback キューのプロパティを設定します。st-callback キューは、サーバ トランザクションへの ACK および CANCEL コールバックを管理します。
<b>ct-callbackresponse</b>	SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始して、ct-callback キューのプロパティを設定します。ct-callbackresponse キューは、クライアント送信に対するコールバックを管理します。
<b>timer</b>	SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始して、タイマー キューのプロパティを設定します。タイマー キューは SIP タイマー イベントを管理します。
<b>xcl</b>	SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始して、XCL キューのプロパティを設定します。xcl キューは XCL 要求を管理します。
<b>radius</b>	SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始して、RADIUS キューのプロパティを設定します。RADIUS キューは、RADIUS アカウンティング要求を管理します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

**使用上のガイドライン**

ランタイム中に SIP キューがプロキシにより作成されました。キューは、サービスがアクティブになると、デフォルト値を使用してプロキシにより作成されます。キューがまだ存在していない場合、コマンドは失敗します。作成された SIP キューを確認するには、**show status queue** コマンドを使用します。

**例**

次の例では、SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始してタイマー キューを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip queue timer
se-10-0-0-0 (cusp-config-queue)>
```

次の例では、SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始して st-callback キューを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip queue st-callback
se-10-0-0-0 (cusp-config-queue)>
```

次の例では、すべての SIP RADIUS キュー パラメータの設定をそれぞれのデフォルト値に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no sip queue radius
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>drop-policy</b>	SIP キューのドロップ ポリシーを設定します。
<b>low-threshold</b>	SIP キューの low-water-mark を設定します。
<b>show status queue</b>	アクティブな SIP キューの統計情報を表示します。
<b>size</b>	特定のキューで保持できるメッセージの最大数を設定します。
<b>thread-count</b>	特定の SIP キューのスレッド数を設定します。

# drop-policy

SIP キューのドロップ ポリシーを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy SIP キュー コンフィギュレーション モードで **drop-policy** コマンドを使用します。設定されたドロップ ポリシーを削除し、デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

**drop-policy** {head | tail | none}

**no drop-policy** {head | tail | none}

**default drop-policy** {head | tail | none}

## 構文の説明

<b>head</b>	最大キュー サイズに達したら、トランスポート レイヤで最も古いイベントをキューの先頭からドロップするように指示します。これはデフォルト値です。
<b>tail</b>	最大キュー サイズに達したら、トランスポート レイヤで最も新しいイベントをキューの末尾からドロップするように指示します。
<b>none</b>	トランスポート レイヤで最大キュー サイズの制限を無視し、すべてのイベントを格納するように指示します。

## コマンド デフォルト

先頭ドロップ ポリシーが使用されます。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy SIP キュー コンフィギュレーション (cusp-config-queue)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、SIP メッセージ キューのドロップ ポリシーを head 設定に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip queue message
se-10-0-0-0 (cusp-config-queue) > drop-policy head
```

次の例では、SIP st-callback キューのドロップ ポリシーを tail 設定に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip queue st-callback
se-10-0-0-0 (cusp-config-queue) > drop-policy tail
```

次の例では、RADIUS キューのドロップ ポリシーをバインド解除設定に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip queue radius
se-10-0-0-0 (cusp-config-queue) > drop-policy none
```

次の例では、RADIUS キューのドロップ ポリシーをデフォルト値に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip queue radius
se-10-0-0-0 (cusp-config-queue) > no drop-policy
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>low-threshold</b>	SIP キューの low-water-mark を設定します。
<b>sip queue</b>	SIP キューを作成し、SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>size</b>	特定のキューで保持できるメッセージの最大数を設定します。
<b>thread-count</b>	特定の SIP キューのスレッド数を設定します。

# low-threshold

SIP キューの `low-water-mark` を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy SIP キュー コンフィギュレーション モードで `low-threshold` コマンドを使用します。SIP キューから `low-water-mark` の値を削除し、デフォルト値に戻すには、このコマンドの `no` 形式または `default` 形式を使用します。

`low-threshold low-water-mark`

`no low-threshold`

`default low-threshold`

構文の説明	<code>low-water-mark</code>	最大キュー サイズの割合を指定します。有効な範囲は 1 ~ 100 です。デフォルトは 80 % です。						
コマンド デフォルト	80 %							
コマンド モード	Cisco Unified SIP Proxy SIP キュー コンフィギュレーション (cusp-config-queue)							
コマンド履歴	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容</b>							
	1.0	このコマンドが追加されました。						
使用上のガイドライン	low-water-mark 値は、サーバが過負荷状態であると見なされなくなり、新しいイベントを受け入れ始める容量を指定します。							
例	<p>次の例では、SIP メッセージ キューの low-water-mark を 100 % に設定する方法を示します。</p> <pre>se-10-0-0-0(cusp-config)&gt; sip queue message se-10-0-0-0(cusp-config-queue)&gt; low-threshold 100</pre> <p>次の例では、RADIUS キューの low-water-mark を 50 % に設定する方法を示します。</p> <pre>se-10-0-0-0(cusp-config)&gt; sip queue radius se-10-0-0-0(cusp-config-queue)&gt; low-threshold 50</pre> <p>次の例では、ct-callback キューの low-water-mark をデフォルト値に戻す方法を示します。</p> <pre>se-10-0-0-0(cusp-config)&gt; sip queue ct-callback se-10-0-0-0(cusp-config-queue)&gt; no low-threshold</pre>							
関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><code>drop-policy</code></td> <td>SIP キューのドロップ ポリシーを設定します。</td> </tr> <tr> <td><code>sip queue</code></td> <td>SIP キューを作成し、SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	<code>drop-policy</code>	SIP キューのドロップ ポリシーを設定します。	<code>sip queue</code>	SIP キューを作成し、SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始します。	
コマンド	説明							
<code>drop-policy</code>	SIP キューのドロップ ポリシーを設定します。							
<code>sip queue</code>	SIP キューを作成し、SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始します。							

コマンド	説明
<b>size</b>	特定のキューで保持できるメッセージの最大数を設定します。
<b>thread-count</b>	特定の SIP キューのスレッド数を設定します。

# size

特定のキューで保持できるメッセージの最大数を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy SIP キュー コンフィギュレーション モードで **size** コマンドを使用します。設定された SIP キュー サイズを削除し、デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

**size queue-size**

**no size queue-size**

**default size queue-size**

構文の説明	<i>queue-size</i>	特定のキューで保持できるメッセージの最大数。有効な範囲は 10 ~ 50,000 です。デフォルトは 2,000 です。
コマンド デフォルト	2,000	
コマンド モード	Cisco Unified SIP Proxy SIP キュー コンフィギュレーション (cusp-config-queue)	
コマンド履歴	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン</b>	<b>変更内容</b>
	1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン



### 注意

このパラメータをより大きな値に設定する場合、メモリ消費がこのキュー サイズに正比例するため、慎重に判断する必要があります。

## 例

次の例では、メッセージ キュー サイズを 10,000 に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip queue message
se-10-0-0-0(cusp-config-queue)> size 10000
```

次の例では、RADIUS キュー サイズを 5,000 に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip queue radius
se-10-0-0-0(cusp-config-queue)> size 5000
```

次の例では、RADIUS キュー サイズをデフォルト値に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip queue radius
se-10-0-0-0(cusp-config-queue)> no size 5000
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>drop-policy</b>	SIP キューのドロップ ポリシーを設定します。
<b>low-threshold</b>	SIP キューの low-water-mark を設定します。
<b>sip queue</b>	SIP キューを作成し、SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>thread-count</b>	特定の SIP キューのスレッド数を設定します。

# thread-count

特定の SIP キューに割り当てられるスレッドの最大数を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy SIP キュー コンフィギュレーション モードで **thread-count** コマンドを使用します。SIP キューからスレッド数の値を削除し、デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

**thread-count** *thread\_count*

**no thread-count** *thread\_count*

**default thread-count** *thread\_count*

## 構文の説明

<i>thread_count</i>	指定されたキューに割り当てられるスレッドの最大数。指定できる最小値は 1 です。デフォルトは 20 です。
---------------------	---

## コマンド デフォルト

20 個のスレッドが SIP キューに割り当てられます。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy SIP キュー コンフィギュレーション (cusp-config-queue)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、SIP メッセージ キューのスレッド数を 40 に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip queue message
se-10-0-0-0 (cusp-config-queue)> thread-count 40
```

次の例では、メッセージ キュー スレッド数をデフォルト値に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip queue message
se-10-0-0-0 (cusp-config-queue)> no thread-count 40
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>drop-policy</b>	SIP キューのドロップ ポリシーを設定します。
<b>low-threshold</b>	SIP キューの low-water-mark を設定します。
<b>sip queue</b>	SIP キューを作成し、SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始します。

# sip dns-srv

SIP DNS SRV 検索コマンドを設定し、SIP DNS SRV コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip dns-srv** コマンドを使用します。すべての DNS SRV コンフィギュレーション サブモード パラメータをデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip dns-srv**

**no sip dns-srv**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

特定のホスト名のサーバグループが設定されていない場合、最初に、/etc/hosts を使用した DSN 解決が試行されます。この処理に失敗した場合、DNS lookup が使用されます。SIP DNS SRV コンフィギュレーション サブモードでのコマンドは、DNS NAPTR/SRV lookup 関連情報を設定します。

## 例

次の例では、SIP DNS SRV コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip dns-srv
se-10-0-0-0 (cusp-config-dns) >
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>enable (SIP DNS サーバ)</b>	ドメイン名/IP アドレス マッピングの、DNS サーバ NAPTR または SRV クエリー レコードをイネーブルにします。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>use-naptr</b>	ドメイン名/IP アドレス マッピングの、DNS NAPTR の使用をイネーブルにします。

## enable (SIP DNS サーバ)

ドメイン名/IP アドレス マッピングの、DNS サーバ NAPTR または SRV クエリーの使用をイネーブルにするには、SIP DNS サーバ コンフィギュレーション モードで **enable** コマンドを使用します。DNS サーバ NAPTR または SRV クエリー レコードをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**enable**

**no enable**

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

DNS サーバ SRV クエリー レコードの使用はディセーブルです。

### コマンド モード

SIP DNS サーバ コンフィギュレーション (cusp-config-dns)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドがディセーブルになっている場合、DNS サーバ NAPTR/SRV レコードの使用はディセーブルになり、オペレーティング システムの DNS コンフィギュレーションを使用して簡易な名前解決だけが実行されます。Cisco Unified SIP Proxy ロード バランシングには DNS SRV (RFC 3263) が使用されます。

### 例

次の例では、DNS サーバ SRV クエリー レコードの使用をイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip dns-srv
se-10-0-0-0 (cusp-config-dns) > enable
```

次の例では、DNS サーバ SRV クエリー レコードの使用をディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip dns-srv
se-10-0-0-0 (cusp-config-dns) > no enable
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>sip dns-srv</b>	SIP DNS SRV コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>use-naptr</b>	ドメイン名/IP アドレス マッピングの、DNS NAPTR の使用をイネーブルにします。

# use-naptr

ホスト名/IP アドレス マッピングの DNS NAPTR の使用をイネーブルにするには、SIP DNS サーバ コンフィギュレーション モードで **use-naptr** コマンドを使用します。ドメイン名/IP アドレス マッピングの DNS NAPTR の使用をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**use-naptr**

**no use-naptr**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

ドメイン名/IP アドレス マッピングの、DNS NAPTR の使用はディセーブルです。

## コマンド モード

SIP DNS サーバ コンフィギュレーション モード (cusp-config-dns)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、ホスト名/IP アドレス マッピングの DNS NAPTR の使用をイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip dns-srv
se-10-0-0-0 (cusp-config-dns)> use-naptr
```

次の例では、ホスト名/IP アドレス マッピングの DNS NAPTR の使用をディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip dns-srv
se-10-0-0-0 (cusp-config-dns)> no use-naptr
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>enable</b> (SIP DNS サーバ)	ドメイン名/IP アドレス マッピングの、DNS サーバ NAPTR または SRV クエリー レコードをイネーブルにします。
<b>sip dns-srv</b>	SIP DNS SRV コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

# sip alias

このインスタンスのホスト名を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip alias** コマンドを使用します。DNS サーバリストからホスト名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
sip alias {hostname}
```

```
no sip alias {hostname}
```

## 構文の説明

<i>hostname</i>	グローバルに到達可能なシステムのホスト名を指定し、それをサーバのホスト名リストに追加します。
-----------------	--

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、`cusp.example.com` をホスト名リストに追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip alias cusp.example.com
```

次の例では、`cusp.example.com` をサーバのホスト名リストから削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no sip alias cusp.example.com
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

# sip logging

すべての着信および発信 SIP メッセージのロギングをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip logging** コマンドを使用します。着信および発信 SIP メッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip logging**

**no sip logging**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

SIP ロギングはディセーブルです。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容	
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

SIP ロギングをオンにすると、Cisco Unified SIP Proxy のパフォーマンスに大きな影響を与えます。

## 例

次の例では、すべての着信および発信 SIP メッセージのロギングをイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip logging
```

次の例では、すべての着信および発信 SIP メッセージのロギングをディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > no sip logging
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>sip queue</b>	SIP キューを作成し、SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始します。

# sip peg-counting

すべての着信および発信 SIP メッセージの SIP トランザクション ペグ カウントをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip peg-counting** コマンドを使用します。SIP トランザクション ペグ カウントをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip peg-counting** *interval*

**no sip peg-counting**

## 構文の説明

*interval* ペグ カウント収集間隔 (秒単位)。

## コマンド デフォルト

SIP ペグ カウントはディセーブルです。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

SIP ペグ カウントをイネーブルにすると、Cisco Unified SIP Proxy のパフォーマンスに大きな影響を与えます。ただし、SIP ログギングをイネーブルにした場合ほどの影響はありません。

## 例

次の例では、60 秒ごとに SIP トランザクション ペグ カウントをイネーブルにします。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip peg-counting 60
```

次の例では、SIP トランザクション ペグ カウントをディセーブルにします。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no sip peg-counting
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>sip logging</b>	すべての着信および発信 SIP メッセージのログギングをイネーブルにします。

# sip privacy trusted-destination

要求されたプライバシー サービスが提供されるかどうかを判断する、プライバシーをアサートする場所を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip privacy trusted-destination** コマンドを使用します。アサート プライバシー コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip privacy trusted-destination sequence *sequence\_number* [condition *condition*]**

**no sip privacy trusted-destination sequence *sequence\_number* [condition *condition*]**

構文の説明	<b>sequence <i>sequence_number</i></b>	確認する条件の順番を記述する、シーケンス番号を指定します。
	<b>condition <i>condition</i></b>	(オプション) プライバシー アサーション サポートを適用する、トリガー条件名 ( <b>trigger condition</b> コマンドを使用して設定されます) を指定します。 <b>condition</b> キーワードが指定されていない場合、プライバシー アサーションは無条件になります。

**コマンド デフォルト** すべてのピアは信頼できないピアです。

**コマンド モード** Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

コマンド履歴	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容</b>	
	1.0	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用して「id」プライバシー サービスの信頼できるピアの条件を設定します。Cisco Unified SIP Proxy では、要求が信頼できないピアからのものである場合、要求から P-Asserted-Identity ヘッダーを削除し、信頼できないピアに送信される要求である場合、要求から P-Asserted-Identity を削除します。プライバシー サービスは、draft-levi-sip-diversion-08.txt の後の Diversion ヘッダーに対しても提供されます。

**例** 次の例では、in-network 条件が満たされる場合に宛先を信頼できるピアとして設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip privacy trusted-destination sequence 1 condition in-network
```

次の例では、すべての宛先を無条件に信頼できないものとして設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > no sip privacy trusted-destination sequence 1
```

関連コマンド	<b>コマンド</b>	<b>説明</b>
	<b>sip privacy trusted-source</b>	要求されたプライバシー サービスが提供されるかどうかを判断する、プライバシーをアサートする場所を設定します。

# sip privacy trusted-source

要求されたプライバシー サービスが提供されるかどうかを判断する、プライバシーをアサートする場所を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip privacy trusted-source** コマンドを使用します。アサート プライバシー コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip privacy trusted-source sequence sequence\_number [condition condition]**

**no sip privacy trusted-source sequence sequence\_number [condition condition]**

## 構文の説明

<b>sequence sequence_number</b>	確認する条件の順番を記述する、シーケンス番号を指定します。
<b>condition condition</b>	(オプション) プライバシー アサーション サポートを適用する、トリガー条件名 ( <b>trigger condition</b> コマンドを使用して設定されます) を指定します。 <b>condition</b> キーワードが指定されていない場合、プライバシー アサーションは無条件になります。

## コマンドデフォルト

すべてのピアは信頼できないピアです。

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して「id」プライバシー サービスの信頼できるピアの条件を設定します。CUSP では、要求が信頼できないピアからのものである場合、要求から P-Asserted-Identity ヘッダーを削除し、信頼できないピアに送信される要求である場合、要求から P-Asserted-Identity を削除します。プライバシー サービスは、draft-levi-sip-diversion-08.txt の後の Diversion ヘッダーに対しても提供されます。

## 例

次の例では、すべての発信元を無条件に信頼できるものとして設定し、値を sequence 1 に割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip privacy trusted-source sequence 1
```

次の例では、すべての発信元を無条件に信頼できないものとして設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no sip privacy trusted-source sequence 1
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>sip privacy trusted-destination</b>	要求されたプライバシー サービスが提供されるかどうかを判断する、プライバシーをアサートする場所を設定します。
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# sip privacy service

SIP プライバシー サービスをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip privacy service** コマンドを使用します。SIP プライバシー サービスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip privacy service**

**no sip privacy service**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

SIP プライバシー サービスはイネーブルです。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容	
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

Cisco Unified SIP Proxy は「id」プライバシー (RFC 3325) だけを実装するため、プライバシー値に「session」、「user」、または「header」のいずれかに加え「critical」が含まれているときに、SIP プライバシー サービスがイネーブルになっている場合、Cisco Unified SIP Proxy は RFC 3323 の後に 500 件の応答を返します。

## 例

次の例では、SIP プライバシー サービスをイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip privacy service
```

# sip tls

インターネット経由のセキュアな通信を提供する、他の SIP エンティティによる SIP トランスポート層セキュリティ (TLS) 接続をイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードで **sip tls** コマンドを使用します。SIP TLS 転送をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip tls**

**no sip tls**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

SIP TLS はイネーブルではありません。

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

TLS 転送を使用する SIP リスナーを設定する前に、このコマンドを使用します。

ネットワーク経由のセキュアな通信を提供する、他の SIP エンティティによる SIP TLS 接続の使用をイネーブルにするには、このコマンドを使用します。デフォルトでは、Cisco Unified SIP Proxy に **trusted certificate** があるすべての要求中のクライアントからの TLS 接続が許可されます。このコマンドは、データ暗号化が必要で、信頼関係は必要ない場合にだけ便利です。

TLS 暗号化には、キーストアおよび対応する信頼証明書を指定するために、2 つの参加グループが必要です。TLS がイネーブルである場合、キーストア ファイルが読み取られます。結果として、**sip tls** コマンドをイネーブルにする前に、**crypto key generate** コマンドを使用してキーストアを最初に作成する必要があります。

Cisco Unified SIP Proxy は、一方向および双方向 TLS の両方をサポートします。



(注)

TLS 転送がイネーブルになっているアクティブな SIP リスナーがある場合、このコマンドはディセーブルにできません。

## 例

次の例では、SIP TLS 接続の使用をイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > sip tls
```

次の例では、SIP TLS 接続の使用をディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > no sip tls
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>crypto key generate</b>	証明書と秘密キーのペアを生成します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>sip tls trusted-peer</b>	信頼できる SIP TLS ピアを設定します。

# sip tls trusted-peer

信頼できる SIP TLS ピアを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **sip tls trusted-peer** コマンドを使用します。信頼できる SIP TLS ピアを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
sip tls trusted-peer {peer 's-hostname}
```

```
no sip tls trusted-peer {peer 's-hostname}
```

## 構文の説明

*peer's-hostname* ピアのホスト名を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

リモート側の ID と、信頼できる設定済みのピアの ID が一致しない限り、TLS 接続の確立は失敗します。信頼できるピアが設定されていない場合、TLS ハンドシェイクが成功すれば、接続は受け入れられます。

## 例

次の例では、example.com を信頼できる TLS ピアとして設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> sip tls trusted-peer example.com
```

次の例では、TLS 信頼済みピアとして設定された example.com を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no sip tls trusted-peer example.com
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
sip-tls	他の SIP エンティティを使用して SIP トランスポート層セキュリティ (TLS) 接続をイネーブルにします。

# route recursion

Cisco Unified SIP Proxy の SIP ルート再帰をシステム全体でイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **route recursion** コマンドを使用します。SIP ルート再帰をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**route recursion**

**no route recursion**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

ルート再帰はデフォルトでイネーブルです。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

Cisco Unified SIP Proxy は、リダイレクト応答（つまり、3xx 応答）を受信する場合、受信した Contact でルーティング ロジックが再帰的に実行されるように設定できます。受信した Contact が事前正規化された着信要求の要求 URI に配置され、サーバのルーティングおよび正規化後ロジックは新しい宛先に基づいて実行されます。複数の Contact を受信した場合、設定された q-value に基づいて順番に処理されます。複数の Contact に同じ q-value がある場合、それらは出現順に処理されます。

## 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy でルート再帰をイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route recursion
```

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy でルート再帰をディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no route recursion
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

■ route recursion



## Cisco Unified SIP Proxy SIP サーバ コマンド

---

- 「server-group sip element-retries」
- 「server-group sip global-load-balance」
- 「server-group sip global-ping」
- 「server-group sip group」
  - 「element ip-address (SIP サーバ グループ)」
  - 「element reference」
  - 「failover-resp-code」
  - 「lb-type」
  - 「ping (SIP サーバ グループ)」
- 「server-group sip retry-after」
- 「server-group sip ping-options」
  - 「method (SIP サーバ グループ ping オプション)」
  - 「ping-type」
  - 「timeout」
- 「show status server-group sip」

# server-group sip element-retries

すべての SIP サーバ グループでグループ要素の再試行回数を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **server-group sip element retries** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**server-group sip element retries {tcp | tls | udp} number-of-retries**

**no server-group sip element retries {tcp | tls | udp}**

## 構文の説明

<b>tcp</b>	TCP をリスナーの転送プロトコルとして指定します。
<b>tls</b>	TLS をリスナーの転送プロトコルとして指定します。
<b>udp</b>	UDP をリスナーの転送プロトコルとして指定します。これはデフォルト値です。
<i>number-of-retries</i>	要素がダウンしたと見なされるまでに、指定されたプロトコルを通じてサーバ グループ要素に要求を送信した場合の、連続して失敗した試行の最大回数。試行が失敗する原因は、タイムアウト、ICMP エラー、または障害応答の受信 ( <b>failover-response</b> コマンドを使用して設定されます) が考えられます。有効な範囲は 0 ~ 65535 です。転送プロトコルのデフォルトの再試行回数は、TCP の場合は 1、TLS の場合は 1、UDP の場合は 2 です。

## コマンド デフォルト

UDP はデフォルトの転送プロトコルで、UDP の場合のデフォルトの再試行回数は 2 です。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

要素がダウンしたと見なされるまでに、指定されたプロトコルを通じてサーバ グループ要素に要求を送信しようとする場合の、失敗の最大回数を設定するには、このコマンドを使用します。試行が失敗する原因は、タイムアウトまたはネットワーク エラーが考えられます。

このコマンドは、グローバル値であり、すべての SIP サーバ グループ要素に適用されます。

## 例

次の例では、UDP の再試行値を 5 に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> server-group sip element-retries udp 5
```

次の例では、UDP の再試行値をデフォルト値に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no server-group sip element-retries udp
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>server-group sip global-load-balance</b>	すべての SIP サーバグループのロードバランス値を設定します。
<b>server-group sip global-ping</b>	すべての SIP サーバグループのグローバル ping をイネーブルにします。
<b>server-group sip ping-options</b>	SIP サーバグループの ping オプションを設定します。
<b>server-group sip retry-after</b>	SIP サーバグループのフェールオーバー応答タイムアウト値を設定します。

# server-group sip global-load-balance

すべての SIP サーバグループのロード バランシング アルゴリズムを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **server-group sip global-local-balance** コマンドを使用します。ロード バランシング アルゴリズムをすべてのグローバル SIP サーバグループのデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**server-group sip global-load-balance { call-id | highest-q | request-uri | to-uri | weight }**

**no server-group sip global-load-balance**

## 構文の説明

<b>call-id</b>	Call-ID によるハッシュ アルゴリズムを実行して要素を選択するよう指定します。
<b>highest-q</b>	使用可能な要素のリストで、同一の最も高い q-value を持つ最初の要素を選択するよう指定します。
<b>request-uri</b>	要求 URI によるハッシュ アルゴリズムを実行して要素を選択するよう指定します。これはデフォルト値です。
<b>to-uri</b>	To ヘッダー URI によるハッシュ アルゴリズムを実行して要素を選択するよう指定します。
<b>weight</b>	同じ q-value を持つ他の要素の重みに対して、その重みに比例して要素が選択されるよう指定します。この値を適用できるのは、重み付けに基づくルーティングが実装されている場合だけです。

## コマンド デフォルト

要求 URI ロード バランシング アルゴリズムが使用されます。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

メッセージがサーバグループに転送されると、要求を処理するために、最も高い q-value を持つ使用可能な要素が選択されます。使用可能な複数の要素が同一の最も高い q-value を共有している場合、選択されたロード バランシング アルゴリズムにより、これらの要素のいずれがネクストホップになるのが決定されます。

複数の要素が同一の最も高い q-value に割り当てられている場合、リストの次の要素が使用される前に、最初の要素が最大負荷容量に達します。このカスケード ロード バランシング 動作のために、すべてのサーバグループ要素の q-value が異なる場合には、**highest-q** アルゴリズムだけを使用することを推奨します。

ハッシュ アルゴリズム (**request-uri**、**call-id**、または **to-uri**) のいずれかを使用する場合、ハッシュ アルゴリズムが決定論的であっても、キーの値に基づいてこれらの要素にわたって負荷が分散されません。ハッシュ アルゴリズムにより選択される要素が別のサーバグループへの参照である場合、選択手順もそのサーバグループに再帰的に適用されます。

**(注)**

すべての SIP サーバ グループのロード バランシング アルゴリズムを決定するには、このコマンドを使用します。このコマンドの設定後に、SIP サーバ グループ コンフィギュレーション モードで **lb-type** コマンドを使用して、特定の SIP サーバ グループのロード バランシング アルゴリズムを変更できます。

**例**

次の例では、すべてのグローバルな SIP サーバ グループのロード バランシング アルゴリズムを **call-id** に基づくように設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip global-load-balance call-id
```

次の例では、すべてのグローバルな SIP サーバ グループのロード バランシング アルゴリズムを要求 URI に基づくように設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip global-load-balance request-uri
```

次の例では、すべてのグローバルな SIP サーバ グループのロード バランシング アルゴリズムをデフォルト値（要求 URI）に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no server-group sip global-load-balance
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>server-group sip element-retries</b>	SIP サーバ グループ要素の再試行回数を設定します。
<b>server-group sip global-ping</b>	すべての SIP サーバ グループのグローバル ping をイネーブルにします。
<b>server-group sip ping-options</b>	SIP サーバ グループの ping オプションを設定します。
<b>server-group sip retry-after</b>	SIP サーバ グループのフェールオーバー応答タイムアウト値を設定します。

# server-group sip global-ping

すべての SIP サーバグループのグローバル ping をイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **server-group sip global-ping** コマンドを使用します。すべての SIP サーバグループのグローバル ping をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**server-group sip global-ping**

**no server-group sip global-ping**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

すべての SIP サーバグループのグローバル ping はディセーブルです。

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

ping メカニズムを通じてグローバルに、サーバグループ要素ステータスのモニタリングをイネーブルまたはディセーブルにするには、このコマンドを使用します。ping オプションは **server-group sip ping-options** コマンドを使用して設定します。

## 例

次の例では、SIP サーバグループのグローバル ping をイネーブルにします。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > server-group sip global-ping
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>server-group sip element-retries</b>	SIP サーバグループ要素の再試行回数を設定します。
<b>server-group sip global-load-balance</b>	すべての SIP サーバグループのロードバランス値を設定します。
<b>server-group sip ping-options</b>	SIP サーバグループの ping オプションを設定します。
<b>server-group sip retry-after</b>	SIP サーバグループのフェールオーバー応答タイムアウト値を設定します。

# server-group sip group

SIP サーバ グループを設定し、SIP サーバ グループ コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **server-group sip group** コマンドを使用します。SIP サーバ グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**server-group sip group** *server-group-name* *network*

**no server-group sip group** *server-group-name* *network*

## 構文の説明

<i>server-group-name</i>	SIP サーバ グループ名を指定します。  (注) 使用されるサーバ グループ名は、発信要求の SIP URI に挿入されます。Cisco Unified CM などの一部のデバイスでは、処理前に要求の URI を検証するため、サーバ グループ名の設定は慎重に行う必要があります。この機能性を実現するために、完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用してエンド デバイスを設定することが必要になる場合があります。
<i>network</i>	SIP サーバ グループ用に使用する、あらかじめ設定済みのネットワーク インターフェイスを指定します。

## コマンド デフォルト

SIP サーバ グループは設定されていません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、*network* 引数により指定されたネットワークを設定する必要があります。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。サーバ グループ要素が設定されたら、そのサーバ グループをアクティブにする前に、**commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、「internal」というネットワークを使用する SIP サーバ グループ「sg1」を作成し、サーバ グループ SIP コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip group sg1 network internal
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)>
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element ip-address</b> (SIP サーバグループ)	SIP サーバグループの IP 要素を作成し、その特性を決定します。
<b>element reference</b>	SIP サーバグループの参照要素を作成し、その特性を決定します。
<b>failover-resp-code</b>	SIP サーバグループのフェールオーバー応答コードを設定します。
<b>lb-type</b>	単一の SIP サーバグループのロード バランシング タイプを設定します。
<b>ping</b> (SIP サーバグループ)	サーバグループの ping をイネーブルにします。
<b>server-group sip element-retries</b>	SIP サーバグループ要素の再試行回数を設定します。
<b>server-group sip global-load-balance</b>	すべての SIP サーバグループのロードバランス値を設定します。
<b>server-group sip global-ping</b>	すべての SIP サーバグループのグローバル ping をイネーブルにします。
<b>server-group sip ping-options</b>	SIP サーバグループの ping オプションを設定します。
<b>server-group sip retry-after</b>	SIP サーバグループのフェールオーバー応答タイムアウト値を設定します。
<b>show status server-group sip</b>	すべての SIP サーバグループのステータス、または単一の SIP サーバグループを表示します。

## element ip-address (SIP サーバグループ)

SIP サーバグループの IP 要素を作成し、その特性を決定するには、SIP サーバグループ コンフィギュレーション モードで **element ip-address** コマンドを使用します。IP 要素を SIP サーバグループから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
element ip-address ipaddress port {udp | tcp | tls} [q-value q-value] [weight weight]
```

```
no element ip-address ipaddress port {udp | tcp | tls} [q-value q-value] [weight weight]
```

### 構文の説明

<i>ipaddress</i>	サーバグループ要素のインターフェイス ホスト名または IP アドレスを指定します。
<i>port</i>	サーバグループ要素で使用されるポートを指定します。有効な値は 1024 ~ 65535 です。デフォルトは 5060 です。
<b>udp</b>	UDP をサーバグループ要素の転送タイプとして指定します。これはデフォルト値です。
<b>tcp</b>	TCP をサーバグループ要素の転送タイプとして指定します。
<b>tls</b>	TLS をサーバグループ要素の転送タイプとして指定します。
<b>q-value q-value</b>	(オプション) サーバグループ内の他の要素に対する、サーバグループ要素のプライオリティを指定する実数を指定します。有効な値は 0.0 ~ 1.0 です。デフォルトの q-value は 1.0 です。
<b>weight weight</b>	(オプション) 重み付けに基づくルーティングを実装する場合には、サーバグループの IP 要素に割り当てられる割合を指定します。有効な範囲は 0 ~ 100 です。デフォルトの重みは 0 です。

### コマンド デフォルト

SIP サーバグループは設定されません。

### コマンド モード

SIP サーバグループ コンフィギュレーション (cusp-config-sg)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

### 例

次の例では、q-value が 1.0 で、重みが 0 (デフォルト値) のサーバグループに対して要素を作成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip sg1
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> element ip-address 10.1.2.3 5060 udp
```

## ■ element ip-address (SIP サーバ グループ)

次の例では、q-value が 0.5 で、重みが 0 の TCP を使用するサーバ グループに対して要素を作成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > server-group sip sgl
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg) > element ip-address 10.1.2.3 5060 tcp q-value 0.5
```

次の例では、サーバ グループから要素を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > server-group sip sgl
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg) > no element ip-address 10.1.2.3 5060 tcp
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element reference</b>	SIP サーバ グループの参照要素を作成し、その特性を決定します。
<b>server-group sip group</b>	SIP サーバ グループを設定します。

# element reference

SIP サーバ グループの参照要素を作成し、その特性を決定するには、SIP サーバ グループ コンフィギュレーション モードで **element reference** コマンドを使用します。参照要素を SIP サーバ グループから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**element reference** *reference* [**q-value** *q-value*] [**weight** *weight*]

**no element reference** *reference*

## 構文の説明

<i>reference</i>	既存のサーバ グループの名前を指定します。
<b>q-value</b> <i>q-value</i>	(オプション) サーバ グループ内の他の要素に対する、サーバ グループ要素のプライオリティを指定する実数。有効な値は 0.0 ~ 1.0 です。デフォルトの <b>q-value</b> は 1.0 です。
<b>weight</b> <i>weight</i>	(オプション) 重み付けに基づくルーティングを実装する場合に参照要素に割り当てられる割合。有効な範囲は 0 ~ 100 です。デフォルトの重みは 0 です。

## コマンド デフォルト

参照要素は設定されていません。

## コマンド モード

SIP サーバ グループ コンフィギュレーション (cusp-config-sg)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、**q-value** が 1.0 で、重みが 0 (デフォルト) のグループに、サーバ グループ要素を追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip sg1
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> element reference sg2
```

次の例では、**q-value** が 0.5 で、重みが 0 のグループに、サーバ グループ要素を追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip sg1
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> element reference sg3 q-value 0.5
```

次の例では、サーバ グループから要素を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip sg1
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> no element reference sg2
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドの コンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element ip-address</b> (SIP サーバ グループ)	SIP サーバ グループの IP 要素を作成し、その特性を決定します。
<b>server-group sip group</b>	SIP サーバ グループを設定します。

# failover-resp-code

SIP サーバ グループのフェールオーバー応答コードを設定するには、SIP サーバ グループ コンフィギュレーション モードで **failover-resp-code** コマンドを使用します。フェールオーバー応答コードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**failover-resp-code** *response-codes* [- *response-codes*] [, *response-codes*]

**no failover-resp-code**

<b>構文の説明</b>	<i>response-codes</i>	ネクストホップ サーバが要求を処理できないことを示す応答コード。有効な値は、500 ~ 599 までの範囲の数字です。
--------------	-----------------------	---

<b>コマンド デフォルト</b>	フェールオーバーをトリガーする応答コードはありません。
-------------------	-----------------------------

<b>コマンド モード</b>	SIP サーバ グループ コンフィギュレーション (cusp-config-sg)
-----------------	---

<b>コマンド履歴</b>	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容</b>
	1.0 このコマンドが追加されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	複数のフェールオーバー応答コードを設定するには、個々のコードをカンマで区切り、ダッシュ記号を使用して範囲を指定します。カンマとダッシュの後にスペースを入力する必要があります。
-------------------	---



(注) このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

<b>例</b>	次の例では、応答コード 503、505、506、507、または 580 のいずれかが、次のサーバ グループ要素へのフェールオーバーをトリガーできるように、フェールオーバー応答コードを設定する方法を示します。
----------	---

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip server-group sg1
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> failover-resp-code 503 , 505 - 507 , 580
```

次の例では、応答コード 500 および 503 だけが次のサーバ グループ要素へのフェールオーバーをトリガーできるように、フェールオーバー応答コードを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip server-group sg1
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> failover-resp-code 500, 503
```

次の例では、応答コードにより次のサーバ グループ要素へのフェールオーバーがトリガーされないように、フェールオーバー応答コードを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> sip server-group sg1
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> no failover-resp-code
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element ip-address</b> (SIP サーバグループ)	SIP サーバグループの IP 要素を作成し、その特性を決定します。
<b>element reference</b>	SIP サーバグループの参照要素を作成し、その特性を決定します。
<b>lb-type</b>	単一の SIP サーバグループのロード バランシング タイプを設定します。
<b>ping</b> (SIP サーバグループ)	サーバグループの ping をイネーブルにします。
<b>server-group sip group</b>	SIP サーバグループを設定します。

# lb-type

SIP サーバグループのロード バランシング アルゴリズムを設定するには、SIP サーバグループ コンフィギュレーション モードで **lb-type** コマンドを使用します。ロード バランシング アルゴリズムを SIP サーバグループから削除し、デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**lb-type {global | highest-q | request-uri | call-id | to-uri | weight }**

**no lb-type {global | highest-q | request-uri | call-id | to-uri | weight }**

## 構文の説明

<b>global</b>	<b>server-group sip global-load-balance</b> コマンドを使用して、すべての SIP サーバグループに対して設定されたロード バランシング タイプを適用します。これはデフォルト値です。
<b>highest-q</b>	使用可能な要素のリストで、同一の最も高い q-value を持つ最初の要素を選択するよう指定します。
<b>request-uri</b>	ロード バランシング アルゴリズムが発信要求の Request-URI ヘッダーに基づくことを指定します。
<b>call-id</b>	ロード バランシング アルゴリズムが発信要求の Call-ID に基づくことを指定します。
<b>to-uri</b>	ロード バランシング アルゴリズムが発信要求の To-URI ヘッダーに基づくことを指定します。
<b>weight</b>	同じ q-value を持つ他の要素の重みに対して、その重みに比例して要素が選択されることを指定します。この値を適用できるのは、重み付けに基づくルーティングが実装されている場合だけです。

## コマンド デフォルト

**global** キーワードはデフォルトです。

## コマンド モード

SIP サーバグループ コンフィギュレーション (cusp-config-sg)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

複数の要素が同一の最も高い q-value に割り当てられている場合、リストの次の要素が使用される前に、最初の要素が最大負荷容量に達します。このカスケード ロード バランシング 動作のために、すべてのサーバグループ要素の q-value が異なる場合には、**highest-q** アルゴリズムだけを使用することを推奨します。

このコマンドでは、ロード バランス タイプが単一の SIP サーバグループにだけ適用されます。ロード バランス タイプをすべての SIP サーバグループに適用するには、**server-group sip global-load-balance** コマンドを使用します。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

**例**

次の例では、SIP サーバグループのロードバランシングタイプをグローバルに設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip sg1
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> lb-type global
```

次の例では、SIP サーバグループのロードバランシングアルゴリズムを、要求 URI に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip sg2
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> lb-type request-uri
```

次の例では、SIP サーバグループのロードバランシングタイプを、重み付けに基づくルーティングに設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip sg3
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> lb-type weight
```

次の例では、ロードバランシングタイプをデフォルト値 (global) に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip sg1
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> no lb-type weight
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element ip-address</b> (SIP サーバグループ)	SIP サーバグループの IP 要素を作成し、その特性を決定します。
<b>element reference</b>	SIP サーバグループの参照要素を作成し、その特性を決定します。
<b>failover-resp-code</b>	SIP サーバグループのフェールオーバー応答コードを設定します。
<b>ping</b> (SIP サーバグループ)	サーバグループの ping をイネーブルにします。
<b>server-group sip group</b>	SIP サーバグループを設定します。
<b>server-group sip global-load-balance</b>	すべての SIP サーバグループのロードバランス値を設定します。

# ping (SIP サーバグループ)

サーバグループの ping をイネーブルにするには、SIP サーバグループ コンフィギュレーション モードで ping コマンドを使用します。サーバグループの ping をディセーブルにするには、このコマンドの no 形式を使用します。

**ping**

**no ping**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

サーバグループの ping がイネーブルです。

## コマンド モード

SIP サーバグループ コンフィギュレーション (cusp-config-sg)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

特定のサーバグループの ping がイネーブルになっている場合でも、**server-group sip global-ping command** がイネーブルになるまで、ping は開始しません。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、サーバグループの ping をイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip sg1
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> ping
```

次の例では、サーバグループの ping をディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip sg1
se-10-0-0-0 (cusp-config-sg)> no ping
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element ip-address (SIP サーバグループ)</b>	SIP サーバグループの IP 要素を作成し、その特性を決定します。
<b>failover-resp-code</b>	SIP サーバグループのフェールオーバー応答コードを設定します。

## ■ ping (SIP サーバグループ)

コマンド	説明
<b>lb-type</b>	単一の SIP サーバグループのロード バランシング タイプを設定します。
<b>server-group sip group</b>	SIP サーバグループを設定します。

## server-group sip retry-after

すべての SIP サーバ グループのフェールオーバー応答タイムアウト値を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **server-group sip retry-after** コマンドを使用します。すべての SIP サーバ グループのフェールオーバー応答タイムアウト値をデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**server-group sip retry-after** *retry-after-time*

**no server-group sip retry-after**

### 構文の説明

*retry-after-time*

応答に Retry-After ヘッダー フィールドが含まれていない場合に、フェールオーバー応答を受信してから、過負荷状態になったサーバ グループ要素が再び使用可能になるまでの時間（ミリ秒）を指定します。応答に Retry-After ヘッダー フィールドが含まれている場合、ヘッダー フィールドの値が使用されます。最小値は 0 です。デフォルトは 0 です。

### コマンド デフォルト

デフォルトは 0 です。これは、タイムアウトせずに再試行されることを意味します。

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

### 例

次の例では、すべての SIP サーバ グループの再試行タイムアウト値を 6,000 ミリ秒に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > server-group sip retry-after 6000
```

次の例では、再試行タイムアウト値を 0（デフォルト）に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > no server-group sip retry-after
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>server-group sip element-retries</b>	SIP サーバ グループ要素の再試行回数を設定します。
<b>server-group sip global-load-balance</b>	すべての SIP サーバ グループのロード バランス値を設定します。
<b>server-group sip global-ping</b>	すべての SIP サーバ グループのグローバル ping をイネーブルにします。
<b>server-group sip ping-options</b>	SIP サーバ グループの ping オプションを設定します。

# server-group sip ping-options

SIP サーバ グループの ping オプションを設定し、SIP サーバ グループ ping オプション コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **server-group sip ping-options** コマンドを使用します。サブモードでコマンドの ping オプションをデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

**server-group sip ping-options network ip-address port**

**no server-group sip ping-options network**

**default server-group sip ping-options network**

## 構文の説明

<i>network</i>	この ping オプションのネットワーク インターフェイスの名前を指定します。
<i>ip-address</i>	SIP ping への応答をリッスンする、インターフェイス ホスト名または IP アドレスを指定します。  (注) ホスト名が指定されている場合、サーバでは DNS lookup を実行してホストを解決できることを確認します。その後、設定の保存時には、IP アドレスが使用されます。ホスト名を解決できない場合、[IP Address validation failed] エラーが表示されます。
<i>port</i>	SIP ping に対する応答をリッスンする UDP ポート。有効な範囲は 1024 ~ 65535 です。デフォルト値は 4000 です。
	 <b>注意</b> このポート番号は、サーバのリスナーに対して指定されたポート番号とは異なることを確認してください。

## コマンド デフォルト

SIP ネットワークの ping オプションは設定されていません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、転送タイプが UDP のサーバ グループ要素にだけ関連するものです。no コマンドを使用するには、ping オプションが存在する必要があります。

## 例

次の例では、IP アドレスが 10.2.3.4 で、「internal」という名前の SIP サーバ グループの ping オプションを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> server-group sip ping-options internal 10.2.3.4 4000
```

次の例では、「internal」という名前の SIP サーバ グループのすべての ping オプションをデフォルト値に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no server-group sip ping-options internal
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>server-group sip element-retries</b>	SIP サーバ グループ要素の再試行回数を設定します。
<b>server-group sip global-load-balance</b>	すべての SIP サーバ グループのロードバランス値を設定します。
<b>server-group sip global-ping</b>	すべての SIP サーバ グループのグローバル ping をイネーブルにします。
<b>server-group sip retry-after</b>	SIP サーバ グループのフェールオーバー応答タイムアウト値を設定します。

## method (SIP サーバ グループ ping オプション)

SIP サーバ グループ ping の要求方式を設定するには、SIP サーバ グループ ping オプション コンフィギュレーション モードで **method** コマンドを使用します。SIP サーバ グループ ping の要求方式を削除するには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

**method** *ping-request-method*

**no method**

**default method**

構文の説明	<i>ping-request-method-name</i> SIP ping の要求方式です。デフォルト値は OPTIONS です。				
コマンド デフォルト	デフォルトの ping 要求方式名は OPTIONS です。				
コマンド モード	SIP サーバ グループ ping オプション コンフィギュレーション (cusp-config-ping)				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Cisco Unified SIP Proxy バージョン</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.0</td> <td>このコマンドが追加されました。</td> </tr> </tbody> </table>	Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容	1.0	このコマンドが追加されました。
Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容				
1.0	このコマンドが追加されました。				
使用上のガイドライン	このコマンドは、単一の SIP サーバ グループの ping オプション方式にだけ適用されます。すべての SIP サーバ グループに対してグローバル ping オプションを適用するには、 <b>server-group sip global-ping-options</b> コマンドを使用します。				

**例** 次の例では、SIP サーバ グループ ping オプション方式を OPTIONS (デフォルト) に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> server-group sip ping-options internal 10.2.3.4
se-10-0-0-0(cusp-config-ping)> method OPTIONS
```

次の例では、SIP サーバ グループ ping オプション方式を PING に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> server-group sip ping-options internal 10.2.3.4
se-10-0-0-0(cusp-config-ping)> method PING
```

次の例では、SIP サーバ グループ ping オプション方式をデフォルト値に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> server-group sip ping-options internal 10.2.3.4
se-10-0-0-0(cusp-config-ping)> no method
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ping-type</b>	SIP サーバグループの ping タイプおよび間隔を設定します。
<b>server-group sip ping-options</b>	SIP サーバグループの ping オプションを設定します。
<b>timeout</b>	SIP サーバグループの ping タイムアウト間隔を設定します。

# ping-type

SIP サーバ グループの ping タイプおよび間隔を設定するには、SIP サーバ グループ ping オプション コンフィギュレーション モードで **ping-type** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

**ping-type** {**proactive** | **reactive** | **adaptive**} *ping-interval*  
[*adaptive-ping-interval-for-up-element*]

**no ping-type**

**default ping-type**

## 構文の説明

<b>proactive</b>	up 要素と down 要素の両方に対して ping が実行され、この両方が同じ間隔で ping されるよう指定します。
<b>reactive</b>	ping が down 要素でだけ実行されるように指定します。これはデフォルト値です。
<b>adaptive</b>	up 要素と down 要素の両方に対して ping が実行され、この両方が異なる間隔で ping されるよう指定します。
<i>ping-interval</i>	連続的な ping 間隔をミリ秒単位で指定します。アダプティブな ping の場合、この値は down 要素 ping 間隔を設定します。デフォルト値は 1,000 ミリ秒です。
<i>adaptive-ping-interval-for-up-element</i>	(アダプティブな ping の場合だけ必要)up 要素の連続的な ping 間隔を指定します。

## コマンド デフォルト

リアクティブな ping が 5,000 ミリ秒の間隔で実行されます。

## コマンド モード

SIP サーバ グループ ping オプション コンフィギュレーション (cusp-config-ping)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ping がバースト送信されないようにするために、要素は同時に ping されず、特定の間隔で ping されません。たとえば、ping 間隔が 50 ミリ秒に設定されており、サーバ グループに対して 3 つの要素が設定されているとします。ping は最初の要素に対して送信されます。50 ミリ秒後、2 つ目の要素に対して ping が送信されます。最後に、さらに 50 ミリ秒後、3 つ目の要素に対して ping が送信されます。

## 例

次の例では、ping 間隔を 1,000 ミリ秒にして、リアクティブな ping をサーバ グループに設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > server-group sip ping-options internal 10.2.3.4
se-10-0-0-0 (cusp-config-ping) > ping-type reactive 1000
```

次の例では、ping 間隔を 2,000 ミリ秒にして、プロアクティブな ping をサーバグループに設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip ping-options internal 10.2.3.4
se-10-0-0-0 (cusp-config-ping)> ping-type proactive 2000
```

次の例では、down 要素の ping 間隔を 1,000 ミリ秒、up 要素の ping 間隔を 2,000 ミリ秒にして、アダプティブな ping をサーバグループに設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip ping-options internal 10.2.3.4
se-10-0-0-0 (cusp-config-ping)> ping-type adaptive 1000 2000
```

次の例では、サーバグループの ping タイプのデフォルト値 (ping 間隔が 1,000 ミリ秒のリアクティブな ping) に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group sip ping-options internal 10.2.3.4
se-10-0-0-0 (cusp-config-ping)> no ping-type
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>element ip-address (SIP サーバグループ)</b>	SIP サーバグループの IP 要素を作成し、その特性を決定します。
<b>failover-resp-code</b>	SIP サーバグループのフェールオーバー応答コードを設定します。
<b>lb-type</b>	単一の SIP サーバグループのロード バランシング タイプを設定します。
<b>ping (SIP サーバグループ)</b>	サーバグループの ping をイネーブルにします。
<b>server-group sip group</b>	SIP サーバグループを設定します。

# timeout

SIP サーバ グループの ping タイムアウト間隔を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy SIP サーバ グループ ping オプション コンフィギュレーション モードで **timeout** コマンドを使用します。SIP サーバ グループから ping タイムアウト間隔を削除し、デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

**timeout ping-timeout**

**no timeout**

**default timeout**

## 構文の説明

<i>ping-timeout</i>	ping が失敗したと見なされるまでの、ping と応答の間隔の最大時間数（ミリ秒）を指定します。指定できる最小値は 0 です。デフォルト値は 500 です。
---------------------	---

## コマンド デフォルト

500 ミリ秒

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy SIP サーバ グループ ping オプション コンフィギュレーション (cusp-config-ping)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、SIP サーバ グループの ping タイムアウト間隔を 500 ミリ秒に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > server-group sip ping-options internal 10.2.3.4
se-10-0-0-0 (cusp-config-ping) > timeout 500
```

次の例では、SIP サーバ グループの ping タイムアウト間隔を 1000 ミリ秒に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > server-group sip ping-options internal 10.2.3.4
se-10-0-0-0 (cusp-config-ping) > timeout 1000
```

次の例では、SIP サーバの ping タイムアウト間隔をデフォルト値に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > server-group sip ping-options internal 10.2.3.4
se-10-0-0-0 (cusp-config-ping) > no timeout
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>method</b> (SIP サーバ グループ ping オプション)	SIP サーバ グループ ping の要求方式を設定します。
<b>ping-type</b>	SIP サーバ グループの ping タイプおよび間隔を設定します。
<b>server-group sip ping-options</b>	SIP サーバ グループの ping オプションを設定します。

# show status server-group sip

すべての SIP サーバ グループまたは単一の SIP サーバ グループのステータスを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show status server-group sip** コマンドを使用します。

**show status server-group sip** [*server-group-name*]

## 構文の説明

*server-group-name* (オプション) 単一の SIP サーバ グループのステータスを表示します。

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 例

次の例は、**show status server-group sip** コマンドの出力例です。

```
se-192-168-20-42 (cusp) > show status server-group sip
Server-group: sg2.cisco.com
Address      Transport  Q-Value  Weight  Status
192.168.20.6:5061  udp       0.7      0      up
192.168.20.6:5062  udp       0.5      0      up

Server-group: sg1.cisco.com
Address      Transport  Q-Value  Weight  Status
192.1.1.47:5060   udp       0.5      0      up
192.168.20.6:31000  udp       1.0      0      up

se-192-168-20-42 (cusp) >
```

表 5 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

**表 5** show status server-group sip のフィールドの説明

フィールド	説明
Servergroup	SIP サーバ グループの名前を表示します。
Q-Value	サーバ グループ内の他の要素に対する、サーバ グループ要素のプライオリティを指定する実数を表示します。
Weight	重み付けに基づくルーティングを実装する場合に、ルート グループの request-URI または route-URI 要素に割り当てられる割合を表示します。
Status	SIP サーバ グループの動作ステータスを表示します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show status servergroup radius</b>	すべての RADIUS サーバ グループまたは単一の RADIUS サーバ グループのステータスを表示します。

■ show status server-group sip



## Cisco Unified SIP Proxy RADIUS サーバ コマンド

---

- 「`server-group radius group`」
- 「`element ip-address (RADIUS サーバ グループ)`」
- 「`retransmit-count (RADIUS サーバ グループ)`」
- 「`retransmit-timeout (RADIUS サーバ グループ)`」
- 「`show status server-group radius`」

# server-group radius group

RADIUS サーバ グループを設定し、RADIUS サーバ グループ コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **server-group radius group** コマンドを使用します。RADIUS サーバ グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**server-group radius group radius\_server local-ipaddress**

**no server-group radius group radius\_server local-ipaddress**

## 構文の説明

<b>radius_server</b>	1 つの RADIUS サーバ グループ名を指定します。
<i>local-ipaddress</i>	プロキシ サーバが RADIUS メッセージを RADIUS サーバに送信するときに使用する、ローカル発信元 IP アドレスを指定します。ローカル IP アドレスは、グループを設定した後は変更できません。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、RADIUS サーバ グループを作成します。サーバは、設定された RADIUS サーバを通じてロード バランス アカウンティング メッセージを送信できます。Acct-Session-ID が同じすべてのアカウンティング メッセージは、同じ RADIUS サーバに送られます。



(注)

Cisco Unified SIP Proxy 1.0 では、1 つの RADIUS サーバ グループだけを設定できます。

## 例

次の例では、RADIUS サーバ グループを作成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group radius group radius_server 192.168.20.42
se-10-0-0-0 (cusp-config-radius)>
```

次の例では、RADIUS サーバ グループを削除して、そのグループ内のすべての server-group 要素を削除します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no server-group radius group radius_server 192.168.20.42
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>element ip-address</b> (RADIUS サーバ グループ)	RADIUS サーバ グループの IP 要素を作成し、その特性を決定します。
<b>retransmit-timeout</b> (RADIUS サーバ グループ)	RADIUS サーバ グループの再送信タイムアウト値を設定します。
<b>show status server-group radius</b>	すべての RADIUS サーバ グループまたは単一の RADIUS サーバ グループのステータスを表示します。

## element ip-address (RADIUS サーバ グループ)

RADIUS サーバ グループの IP 要素を作成し、その特性を決定するには、RADIUS サーバ グループ コンフィギュレーション モードで **element ip-address** コマンドを使用します。IP 要素を RADIUS サーバ グループから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**element ip-address** *ip-address port shared-secret* [*q-value q-value*]

**no element ip-address** *ip-address port*

### 構文の説明

<i>ip-address</i>	サーバ グループ要素のインターフェイス ホスト名または IP アドレスを指定します。
<i>port</i>	サーバ グループ要素で使用されるポートを指定します。有効な値は 1024 ~ 65535 です。デフォルト ポートは、アカウントティングの場合は 1813、認証や権限付与の場合は 1812 です。
<i>shared secret</i>	プロキシと RADIUS サーバ グループ要素の間の共有秘密キーを指定します。
<b>q-value q-value</b>	(オプション) サーバ グループ内の他の要素に対する、サーバ グループ要素のプライオリティを指定する実数を指定します。有効な値は 0.0 ~ 1.0 です。デフォルトは 1.0 です。

### コマンド デフォルト

RADIUS サーバ グループの要素は設定されません。

### コマンド モード

RADIUS サーバ グループ コンフィギュレーション (cusp-config-radius)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

### 例

次の例では、RADIUS サーバ グループの IP 要素を作成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > server-group radius group acct-group
se-10-0-0-0 (cusp-config-radius) > element ip-address 10.1.2.3 1813 cusp-secret
```

次の例では、RADIUS サーバ グループから IP 要素を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > server-group radius group acct-group
se-10-0-0-0 (cusp-config-radius) > no element ip-address 10.1.2.3 1813
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>retransmit-count</b> (RADIUS サーバ グループ)	RADIUS サーバ グループの再送信回数値を設定します。
<b>retransmit-timeout</b> (RADIUS サーバ グループ)	RADIUS サーバ グループの再送信タイムアウト値を設定します。
<b>server-group radius group</b>	RADIUS サーバ グループを設定し、サーバ グループ RADIUS コンフィギュレーション モードを開始します。

# retransmit-count (RADIUS サーバ グループ)

RADIUS サーバ グループの再送信回数値を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy RADIUS サーバ グループ コンフィギュレーション モードで **retransmit-count** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**retransmit-count** *count*

**no retransmit-count**

## 構文の説明

<i>count</i>	RADIUS サーバに対する RADIUS 要求の許可される再試行回数を指定します。再試行回数が最大に達した後に、成功しなかった応答が RADIUS サーバから取得された場合、RADIUS サーバはアウトオブサービスであるとしてマークされます。デフォルト値は 3 です。
--------------	---

## コマンド デフォルト

再試行回数は 3 回です。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy RADIUS サーバ グループ コンフィギュレーション (cusp-config-radius)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、再送信回数を 5 に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > server-group radius group acct-group 192.168.20.42
se-10-0-0-0 (cusp-config-radius) > retransmit-count 5
```

次の例では、デフォルトの retransmit-count 値に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > server-group radius group acct-group 192.168.20.42
se-10-0-0-0 (cusp-config-radius) > no retransmit-count
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>element ip-address</b> (RADIUS サーバ グループ)	RADIUS サーバ グループの IP 要素を作成し、その特性を決定します。
<b>retransmit-timeout</b> (RADIUS サーバ グループ)	RADIUS サーバ グループの再送信タイムアウト値を設定します。
<b>server-group radius group</b>	RADIUS サーバ グループを設定し、サーバ グループ RADIUS コンフィギュレーション モードを開始します。

## retransmit-timeout (RADIUS サーバ グループ)

RADIUS サーバ グループの再送信タイムアウト値を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy RADIUS サーバ グループ コンフィギュレーション モードで **retransmit-time** コマンドを使用します。デフォルトの再送信タイムアウト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

**retransmit-timeout** *timeout*

**no retransmit-timeout**

### 構文の説明

<i>timeout</i>	RADIUS サーバからの応答を待機できる最大時間数 (ミリ秒) を指定します。応答が受信されない場合、サーバを使用不可であると見なすまでに、サーバでは <b>retransmit-count</b> 値の回数まで要求を再実行します。デフォルト値は 500 です。
----------------	--

### コマンド デフォルト

500 ミリ秒

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy RADIUS サーバ グループ コンフィギュレーション (cusp-config-radius)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 例

次の例では、retransmit-timeout 値を 1000 に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group radius group acct-group 192.168.20.42
se-10-0-0-0 (cusp-config-radius)> retransmit-timeout 1000
```

次の例では、デフォルトの retransmit-timeout 値に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> server-group radius group acct-group 192.168.20.42
se-10-0-0-0 (cusp-config-radius)> no retransmit-timeout
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>element ip-address</b> (RADIUS サーバ グループ)	RADIUS サーバ グループの IP 要素を作成し、その特性を決定します。
<b>retransmit-count</b> (RADIUS サーバ グループ)	RADIUS サーバ グループの再送信回数値を設定します。
<b>server-group radius group</b>	RADIUS サーバ グループを設定し、サーバ グループ RADIUS コンフィギュレーション モードを開始します。

# show status server-group radius

すべての RADIUS サーバ グループまたは単一の RADIUS サーバ グループのステータスを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show status server-group radius** コマンドを使用します。

**show status server-group radius** [*server-group-name*]

## 構文の説明

*server-group-name* (オプション) 単一の RADIUS サーバ グループのステータスを表示します。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 例

次の例は、**show status server-group radius** コマンドの出力例です。

```
se-10.0.0.0(cusp)> show status server-group radius rgl

Servergroup: radius_server
Address          Secret          Q-Value  Status
192.168.20.6:1813 cusp-secret     1.0      up
192.168.20.7:1813 cusp-secret     1.0      up
se-192-168-20-42(cusp)>
```

表 6 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

**表 6** show status server-group radius のフィールドの説明

フィールド	説明
Servergroup	RADIUS サーバ グループの名前を表示します。
Q-Value	サーバ グループ内の他の要素に対する、サーバ グループ要素のプライオリティを指定する実数です。
Status	RADIUS サーバ グループの動作ステータスを表示します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show status server-group sip</b>	すべての SIP サーバ グループのステータス、または単一の SIP サーバ グループを表示します。



## Cisco Unified SIP Proxy トリガー コマンド

---

- 「trigger condition」
- 「trigger post-normalization」
- 「trigger pre-normalization」
- 「trigger routing」
- 「sequence (トリガー)」
  - 「header (トリガー シーケンス)」
  - 「in-network」
  - 「local-ip」
  - 「local-port」
  - 「message」
  - 「method (トリガー シーケンス)」
  - 「mid-dialog」
  - 「out-network」
  - 「protocol」
  - 「proxy-route header-param」
  - 「proxy-route uri-component」
  - 「proxy-route uri-param」
  - 「remote-ip」
  - 「remote-port」
  - 「request-uri uri-component」
  - 「request-uri uri-param」
  - 「response-code」
  - 「time」
  - 「user-agent-hdr」

# trigger condition

トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **trigger condition** コマンドを使用します。トリガー条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**trigger condition** *trigger-condition-name*

**no trigger condition** *trigger-condition-name*

## 構文の説明

*trigger-condition-name* トリガー条件の名前を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドはトリガー条件を設定します。トリガー条件は、トリガーと特定の条件（SIP メッセージ内の特定のヘッダーまたはフィールドに対する一致ルールを含む）を関連付けます。

トリガーは、それぞれの受信された要求に対して真偽を評価される名前付き条件です。条件が真である場合、プリセットされた動作が起動されます。

モジュールを実行するには、サーバで次のことを行う必要があります。

1. 適切なトリガーを特定します。
2. シーケンス番号によってトリガーの順序を決定します。
3. 要求に対して名前付きトリガー条件を評価します。条件が真である場合、次の手順が実行されます。真でない場合は、次のトリガーが確認されます。
4. 一致したトリガー条件に対応する、モジュール トリガーのパラメータからモジュール実行の詳細を判断します。

**trigger condition** コマンドは、トリガー ポイントの名前を指定し、条件の真偽テストを指定し、評価するトリガー セットでの位置を特定します。トリガー ポイントとして評価できる条件の種類は次のとおりです。

- メッセージが要求または応答のいずれであるか
- 要求方式のタイプ
- 応答コード（明示的なコードまたはコードのクラスのいずれか）
- User Agent ヘッダーフィールド値
- Request-URI の一致部分

- Route ヘッダー フィールドの一致部分
- IP アドレスおよびポートの一致

これらのトリガー ポイントは、トリガー コンフィギュレーション モードでコマンドを使用して設定します。

**trigger condition** コマンドは、トリガーを発生させるために一致する必要がある条件の正規表現を入力値とします。正規表現の詳細については、<http://java.sun.com/docs/books/tutorial/extra/regex/> を参照してください。



(注)

すべてのトリガー条件では「response」または「request」のいずれかにしかならない、MESSAGE フィールドを除く正規表現をサポートします。

## 例

次の例では、新しいトリガー条件 t1 を作成し、特定の条件が設定されるトリガー コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)>
```

次の例では、トリガー条件 t1 を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no trigger condition t1
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>header</b>	このヘッダーの正規表現と一致する場合に発生するトリガーを設定します。
<b>in-network</b>	サーバ側トランザクションについてトリガー条件の着信ネットワークを設定します。
<b>local-ip</b>	着信要求を受け入れるローカルリッスン IP アドレスをトリガー条件に割り当てます。
<b>local-port</b>	ローカル リッスン ポートをトリガー条件に割り当てます。
<b>message</b>	SIP メッセージのヘッダーが要求ヘッダーまたは応答ヘッダーのいずれであるかに基づいて、トリガー条件を発生させるかどうかを決定します。
<b>method</b> (トリガー シーケンス)	要求の特定の SIP 方式名でトリガーが発生する、トリガー条件を設定します。
<b>mid-dialog</b>	ダイアログ中の応答で発生するトリガーを設定します。
<b>out-network</b>	クライアント側トランザクションに対するトリガー条件の発信ネットワークを設定します。
<b>protocol</b>	トリガー条件にプロトコルを割り当てます。
<b>proxy-route header-param</b>	指定されたヘッダー パラメータの正規表現と一致する場合に発生するトリガーを設定します。
<b>proxy-route uri-component</b>	指定された URI コンポーネントの正規表現と一致する場合に発生するトリガーを設定します。
<b>proxy-route uri-param</b>	指定された URI パラメータの正規表現と一致する場合に発生するトリガーを設定します。
<b>remote-ip</b>	トリガー条件のリモート IP ネットワークを設定します。
<b>remote-port</b>	トリガー条件のリモート ポートを設定します。

## ■ trigger condition

コマンド	説明
<b>request-uri uri-param</b>	指定された URI パラメータの正規表現と一致する場合に発生するトリガーを設定します。
<b>response-code</b>	特定の応答で発生するトリガー条件を設定します。
<b>time</b>	指定された時間ポリシーを満たす場合に発生するトリガーを設定します。

# trigger post-normalization

特定の正規化ポリシーの発信 SIP メッセージの正規化後アルゴリズムを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **trigger post-normalization** コマンドを使用します。正規化ポリシーから正規化後ポリシー アルゴリズムを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**trigger post-normalization sequence** *sequence-number* {**by-pass** | **policy** *policy*}  
[**condition** *trigger-condition*]

**no trigger post-normalization sequence** *sequence-number* **policy** *policy* [**condition** *trigger-condition*]

## 構文の説明

<b>sequence</b> <i>sequence-number</i>	シーケンス番号を指定します。
<b>by-pass</b>	RFC 3263 を使用してルーティングが直接行われるように指定します。
<b>policy</b> <i>policy</i>	正規化後アルゴリズムを適用する、あらかじめ定義されたポリシー名を指定します。 <b>by-pass</b> が選択されていると、ルーティングは RFC 3263 を使用して直接行われます。
<b>condition</b> <i>trigger-condition</i>	(オプション) 正規化後アルゴリズムを適用する、あらかじめ定義されたトリガー条件を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

ルーティング ポリシーが適用された後にどの正規化ポリシーが実行されるのかを決定するには、このコマンドを使用します。ルーティング ポリシーが適用される前にどの正規化ポリシーが実行されるのかを決定するには、**trigger pre-normalization** コマンドを使用します。

## 例

次の例では、無条件に実行されるようにポリシー p1 を呼び出す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger post-normalization sequence 10 policy p1
```

次の例では、無条件に実行されるように by-pass ポリシーを呼び出す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger post-normalization sequence 10 by-pass
```

次の例では、正規化後のポリシー p1 に対する呼び出しを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no trigger post-normalization sequence 10 policy p1
```

## ■ trigger post-normalization

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trigger pre-normalization</b>	着信 SIP メッセージの正規化前アルゴリズムを正規化ポリシーに設定します。

# trigger pre-normalization

着信 SIP メッセージの正規化前アルゴリズムを正規化ポリシーに設定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **trigger pre-normalization** コマンドを使用します。正規化前ポリシー アルゴリズムを正規化ポリシーから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
trigger pre-normalization sequence sequence-number {by-pass | policy policy}
[condition trigger-condition]
```

```
no trigger pre-normalization sequence sequence-number {by-pass | policy policy}
[condition trigger-condition]
```

## 構文の説明

<b>sequence</b> <i>sequence-number</i>	シーケンス番号を指定します。
<b>by-pass</b>	RFC 3263 を使用してルーティングが直接行われるように指定します。
<b>policy</b> <i>policy</i>	正規化前アルゴリズムを適用する、あらかじめ定義されたポリシー名を指定します。 <b>by-pass</b> が選択されていると、ルーティングは RFC 3263 を使用して直接行われます。
<b>condition</b> <i>trigger-condition</i>	(オプション) 正規化前アルゴリズムを適用する、あらかじめ定義されたトリガー条件を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

ルーティング ポリシーが適用される *前*にどの正規化ポリシーが実行されるのかを決定するには、このコマンドを使用します。ルーティング ポリシーが適用された *後*にどの正規化ポリシーが実行されるのかを決定するには、**trigger post-normalization** コマンドを使用します。

## 例

次の例では、無条件に実行されるようにポリシー p1 を呼び出す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger pre-normalization sequence 10 policy p1
```

次の例では、無条件に実行されるように by-pass ポリシーを呼び出す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger pre-normalization sequence 10 by-pass
```

次の例では、正規化前のポリシー p1 に対する呼び出しを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no trigger pre-normalization sequence 10 policy p1
```

## ■ trigger pre-normalization

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>trigger post-normalization</b>	発信 SIP メッセージの正規化後アルゴリズムを特定の正規化ポリシーに設定します。

# trigger routing

ルーティング ポリシーをトリガー条件と関連付けるには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **trigger routing** コマンドを使用します。ルーティング ポリシーと条件の間の関連付けを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
trigger routing sequence sequence-number {by-pass | policy policy} [condition trigger-condition]
```

```
no trigger routing sequence sequence-number {by-pass | policy policy} [condition trigger-condition]
```

## 構文の説明

<b>sequence</b> <i>sequence-number</i>	シーケンス番号を指定します。
<b>by-pass</b>	RFC 3263 を使用してルーティングが直接行われるように指定します。
<b>policy</b> <i>policy</i>	ルーティング アルゴリズムを適用する、あらかじめ定義されたポリシー名を指定します。 <b>by-pass</b> が選択されていると、ルーティングは RFC 3263 を使用して直接行われます。
<b>condition</b> <i>trigger-condition</i>	(オプション) ルーティング ポリシーを適用する、あらかじめ定義されたトリガー条件を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

ルーティング トリガーにより、受信した要求に対して、設定されたルーティング ポリシーのどれが実行されるのが決定します。要求の特性が特定の条件と一致する場合、指定されたルーティング ポリシーが実行され、要求のネクストホップが決定します。

## 例

次の例では、ポリシー p1 を条件 t1 に関連付ける方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger routing sequence 10 policy p1 condition t1
```

次の例では、**by-pass** ポリシーを条件 mid-dialog に対して関連付ける方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger routing sequence 10 by-pass condition mid-dialog
```

次の例では、ポリシーと条件の関連付けを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no trigger routing sequence 10 sequence 10 policy p1
```

## ■ trigger routing

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

## sequence (トリガー)

既存のトリガー条件のシーケンス番号を設定し、トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードを開始するには、トリガー コンフィギュレーション モードで **sequence** コマンドを使用します。シーケンス番号をトリガー条件から削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sequence** *sequence*

**no sequence** *sequence*

構文の説明	<i>sequence</i>	トリガーが評価される順番を示す整数。
-------	-----------------	--------------------

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	Trigger コンフィギュレーション (cusp-config-trigger)
----------	---

コマンド履歴	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容</b>
	1.0 このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** すべてのトリガー シーケンス コンフィギュレーション モード コマンドは、*and* 条件を設定します。つまり、特定のトリガーが発生するためには、すべての条件が一致する必要があります。トリガー シーケンスのリストが *or* 条件のリストとして評価されるため、1 つが一致すると、それ以降のシーケンス番号は無視されます。

**例** 次の例では、シーケンス番号 1 を既存のトリガー条件 t1 に割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)>
```

次の例では、シーケンス番号 1 を既存のトリガー条件 t1 から削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> no sequence 1
```

関連コマンド	<b>コマンド</b>	<b>説明</b>
	<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

## header (トリガー シーケンス)

このヘッダーの正規表現と一致する場合に発生するトリガーを設定するには、トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **header** コマンドを使用します。トリガーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**header** *header-name* {**first** | **last** | **all**} *header-value*

**no header** *header-name* {**first** | **last** | **all**} *header-value*

### 構文の説明

<i>header-name</i>	ヘッダーの名前を指定します。
<b>first</b>	このヘッダーの最初の出現時にトリガーされるように設定します。
<b>last</b>	このヘッダーの最後の出現時にトリガーされるように設定します。
<b>all</b>	このヘッダーのすべての出現時にトリガーされるように設定します。
<i>header-value</i>	トリガーされるヘッダーの値を指定します。

### コマンド デフォルト

このヘッダーのトリガー条件は設定されません。

### コマンド モード

トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 例

次の例では、ヘッダー `user@example.com` の最初の出現時に、このトリガーが発生するように設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> header From first user@example.com
```

次の例では、`mid-dialog` を使用してトリガーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> no header
```

# in-network

サーバ側トランザクションに対するトリガー条件の着信ネットワークを設定するには、トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **in-network** コマンドを使用します。トリガー条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**in-network** *network-name*

**no in-network**

## 構文の説明

*network-name* トリガー条件の着信ネットワーク名を指定します。

## コマンド デフォルト

ネットワーク名は設定されていません。

## コマンド モード

トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドの値を正規表現として入力します。

## 例

次の例では、トリガー条件の「internal」というネットワークの **in-network** フィールドを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 22
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> in-network internal
```

次の例では、トリガー条件から **in-network** フィールドを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 22
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> no in-network
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>out-network</b>	クライアント側トランザクションに対するトリガー条件の発信ネットワークを設定します。
<b>sequence</b> <i>sequence-number</i>	シーケンス番号を指定します。
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# local-ip

特定のローカル IP アドレスでトリガーが発生する、トリガー条件を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **local-ip** コマンドを使用します。ローカル IP アドレスをトリガー条件から削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**local-ip local-listen-ip**

**no local-ip**

## 構文の説明

*local-listen-ip* 着信要求を受け入れるインターフェイス IP アドレスまたはホスト名。

## コマンド デフォルト

ローカル IP アドレスまたはホスト名は設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドの値を正規表現として入力します。

## 例

次の例では、トリガー条件のローカル リッスン IP アドレスを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)> sequence 18
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> local-ip 10.1.1.1
```

次の例では、トリガー条件からローカル リッスン IP アドレスを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)> sequence 18
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> no local-ip
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>local-port</b>	ローカル リッスン ポートをトリガー条件に割り当てます。
<b>remote-ip</b>	トリガー条件のリモート IP ネットワークを設定します。
<b>remote-port</b>	トリガー条件のリモート ポートを設定します。
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# local-port

特定のローカル リッスン ポートでトリガーが発生する、トリガー条件を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **local-port** コマンドを使用します。トリガー条件からローカルリッスン ポートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**local-port** *local-listen-port*

**no local-port**

## 構文の説明

*local-listen-port* ローカルリッスン ポート番号を指定します。

## コマンド デフォルト

ローカルリッスン ポートはトリガー条件に割り当てられません。

## コマンド モード

トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

正規表現としてこのコマンドの値を入力します。

## 例

次の例では、トリガー条件にローカルリッスン ポートを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 19
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> local-port 5060
```

次の例では、トリガー条件からローカルリッスン ポートを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 19
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> no local-port
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>local-ip</b>	着信要求を受け入れるローカルリッスン IP アドレスをトリガー条件に割り当てます。
<b>remote-ip</b>	トリガー条件のリモート IP ネットワークを設定します。
<b>remote-port</b>	トリガー条件のリモート ポートを設定します。
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# message

SIP メッセージのヘッダーが要求ヘッダーか応答ヘッダーかに基づいて、トリガー条件が発生するかどうかを決定するには、トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **message** コマンドを使用します。トリガー条件からメッセージ トリガーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**message {request | response}**

**no message**

## 構文の説明

<b>request</b>	SIP メッセージのヘッダーが要求ヘッダーの場合にトリガー条件が発生することを指定します。
<b>response</b>	SIP メッセージのヘッダーが応答ヘッダーの場合にトリガー条件が発生することを指定します。

## コマンドデフォルト

メッセージは設定されていません。

## コマンドモード

トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

このコマンドに正規表現は使用できません。

## 例

次の例では、着信メッセージが SIP 要求ヘッダーの場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> message request
```

次の例では、着信メッセージが SIP 応答ヘッダーの場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> message response
```

次の例では、トリガー条件から message フィールドを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> no message
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

## method (トリガー シーケンス)

要求に含まれる特定の SIP メソッド名でトリガーが発生するトリガー条件を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **method** コマンドを使用します。トリガー条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**method** *method-name*

**no method**

### 構文の説明

*method-name* 要求の SIP メソッド名を指定します。

### コマンド デフォルト

メソッド名は設定されません。

### コマンド モード

トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

正規表現としてこのコマンドの値は入力できません。

### 例

次の例では、トリガー条件のメソッド名を INVITE に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 3
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> method INVITE
```

次の例では、トリガー条件からメソッド名を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 3
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> no method
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# mid-dialog

ダイアログ中の応答で発生するトリガーを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **mid-dialog** コマンドを使用します。トリガー条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mid-dialog**

**no mid-dialog**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

トリガーはダイアログ中の応答で発生しません。

## コマンド モード

トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容	
1.0	このコマンドが追加されました。

## 例

次の例では、ダイアログ中の応答でトリガーを発生するよう設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> mid-dialog
```

次の例では、ダイアログ中の応答でトリガーを発生しないように設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> no mid-dialog
```

# out-network

クライアント側トランザクションのトリガー条件として発信ネットワークを設定するには、トリガーシーケンス コンフィギュレーション モードで **out-network** コマンドを使用します。トリガー条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**out-network** *network-name*

**no out-network**

## 構文の説明

*network-name* トリガー条件の発信ネットワークを指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドの値を正規表現として入力します。

## 例

次の例では、トリガー条件の「external」というネットワークの **out-network** フィールドを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 23
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> out-network external
```

次の例では、トリガー条件から **out-network** フィールドを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 23
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> no out-network
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>in-network</b>	サーバ側トランザクションについてトリガー条件の着信ネットワークを設定します。
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# protocol

特定のプロトコル名で発生するトリガーのトリガー条件を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **protocol** コマンドを使用します。トリガー条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
protocol {tcp | tls | udp}
```

```
no protocol
```

## 構文の説明

<b>tcp</b>	トリガー条件の転送プロトコルとして TCP を設定します。
<b>tls</b>	トリガー条件の転送プロトコルとして TLS を設定します。
<b>udp</b>	トリガー条件の転送プロトコルとして UDP を設定します。

## コマンドデフォルト

プロトコルは設定されません。

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、転送プロトコルとして UDP を使用するトリガー条件を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)> sequence 24
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> protocol udp
```

次の例では、トリガー条件から転送プロトコル名を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)> sequence 24
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> no protocol
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# proxy-route header-param

指定したヘッダーパラメータの正規表現に一致する場合に発生するトリガーを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **proxy-route header-param** コマンドを使用します。トリガー条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**proxy-route header-param** *header-param-name match-string*

**no proxy-route header-param** *header-param-name*

## 構文の説明

<i>header-param-name</i>	一致するヘッダーパラメータの名前を指定します。この引数に正規表現は使用できません。
<i>match-string</i>	ヘッダーパラメータが一致する必要がある値を指定します。

## コマンド デフォルト

トリガー条件にヘッダーパラメータは設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、ヘッダーパラメータ `service-ref` が `abczyx123` に一致する場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> proxy-route header-param service-ref abczyx123
```

次の例では、トリガー条件からヘッダーパラメータを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> no proxy-route header-param service-ref
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# proxy-route uri-component

指定した URI コンポーネントの正規表現に一致する場合に発生するトリガーを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガーシーケンスコンフィギュレーションモードで **proxy-route uri-component** コマンドを使用します。トリガー条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**proxy-route uri-component host host | port port | scheme scheme | uri uri | user user**

**no proxy-route uri-component host host | port port | scheme scheme | uri uri | user user**

## 構文の説明

<b>host host</b>	ホスト URI コンポーネントが一致する必要がある値を指定します。
<b>port port</b>	ポート URI コンポーネントが一致する必要がある値を指定します。
<b>scheme scheme</b>	スキーム URI コンポーネントが一致する必要がある値を指定します。
<b>uri uri</b>	URI URI コンポーネントが一致する必要がある値を指定します。
<b>user user</b>	ユーザ URI コンポーネントが一致する必要がある値を指定します。

## コマンド デフォルト

トリガー条件に URI コンポーネントは設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、ユーザ コンポーネントが 949 に一致する場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger) > sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq) > proxy-route uri-component user 949
```

次の例では、スキーム コンポーネントが sip に一致する場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger) > sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq) > proxy-route uri-component scheme sip
```

次の例では、ホスト コンポーネントが 10.3.29.107 に一致する場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger) > sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq) > proxy-route uri-component host 10.3.29.107
```

次の例では、ポート コンポーネントが 5060 に一致するときに発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1  
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1  
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> proxy-route uri-component port 5060
```

次の例では、URI が sip:9495550101@10.3.29.107 に一致する場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1  
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1  
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> proxy-route uri-component uri  
sip:9495550101@10.3.29.107
```

次の例では、トリガー条件からユーザ URI コンポーネントを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1  
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1  
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> no proxy-route uri-component user
```

# proxy-route uri-param

指定した URI パラメータの正規表現に一致する場合に発生するトリガーを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **proxy-route uri-param** コマンドを使用します。トリガー条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**proxy-route uri-param uri-param-name match-string**

**no proxy-route uri-param uri-param-name**

## 構文の説明

<i>uri-param-name</i>	一致する URI パラメータの名前を指定します。この引数に正規表現は使用できません。
<i>match-string</i>	パラメータが一致する必要がある値を指定します。

## コマンドデフォルト

トリガー条件に URI パラメータは設定されません。

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、URI パラメータ `transport` が `tcp` に一致する場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> proxy-route uri-param transport tcp
```

次の例では、トリガー条件からユーザ URI パラメータを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> no proxy-route uri-param transport
```

# remote-ip

ピア要素の特定のリモート IP アドレスでトリガーが発生するトリガー条件を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **remote-ip** コマンドを使用します。トリガー条件からリモート IP アドレスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**remote-ip** *remote-ip*

**no remote-ip** [*remote-ip*]

## 構文の説明

<i>remote-ip</i>	リモート IP アドレスを指定します。
------------------	---------------------

## コマンド デフォルト

リモート IP アドレスは設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、トリガー条件のリモート IP アドレスを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger) > sequence 20
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq) > remote-ip 10.1.1.2
```

次の例では、トリガー条件からリモート IP アドレスを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > trigger condition t1 sequence 20
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger) > sequence 20
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq) > no remote-ip
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# remote-port

ピア要素の特定のリモートポート番号でトリガーが発生するトリガー条件を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **remote-port** コマンドを使用します。トリガー条件からリモートポートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**remote-port** *remote-port*

**no remote-port** *remote-port*

## 構文の説明

*remote-port* リモートポート番号を指定します。

## コマンドデフォルト

リモートポート番号は設定されません。

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

正規表現としてこのコマンドの値を入力します。

## 例

次の例では、トリガー条件のリモートポートを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)> sequence 21
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> remote-port 5060
```

次の例では、トリガー条件からリモートポートを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)> sequence 21
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> no remote-port
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# request-uri uri-component

指定した URI コンポーネントの正規表現に一致する場合に発生するトリガーを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **request-uri uri-component** コマンドを使用します。トリガー条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**request-uri uri-component host** *host* | **port** *port* | **scheme** *scheme* | **uri** *uri* | **user** *user*

**no request-uri uri-component host** *host* | **port** *port* | **scheme** *scheme* | **uri** *uri* | **user** *user*

## 構文の説明

<b>host</b> <i>host</i>	ホスト URI コンポーネントが一致する必要がある値を指定します。
<b>port</b> <i>port</i>	ポート URI コンポーネントが一致する必要がある値を指定します。
<b>scheme</b> <i>scheme</i>	スキーム URI コンポーネントが一致する必要がある値を指定します。
<b>uri</b> <i>uri</i>	URI URI コンポーネントが一致する必要がある値を指定します。
<b>user</b> <i>user</i>	ユーザ URI コンポーネントが一致する必要がある値を指定します。

## コマンド デフォルト

トリガー条件に URI コンポーネントは設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、ユーザ コンポーネントが 949 に一致する場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> request-uri uri-component user 949
```

次の例では、スキーム コンポーネントが sip に一致する場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> request-uri uri-component scheme sip
```

次の例では、ホスト コンポーネントが 10.3.29.107 に一致する場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> request-uri uri-component host 10.3.29.107
```

## ■ request-uri uri-component

次の例では、ポート コンポーネントが 5060 に一致するときに発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> request-uri uri-component port 5060
```

次の例では、URI が sip:9495550101@10.3.29.107 に一致する場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> request-uri uri-component uri
sip:9495550101@10.3.29.107
```

次の例では、トリガー条件からユーザ URI コンポーネントを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> no request-uri uri-component user
```

# request-uri uri-param

指定した URI パラメータの正規表現に一致する場合に発生するトリガーを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **request-uri uri-param** コマンドを使用します。トリガー条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**request-uri uri-param uri-param-name match-string**

**no request-uri uri-param uri-param-name**

## 構文の説明

<i>uri-param-name</i>	一致する URI パラメータの名前を指定します。この引数に正規表現は使用できません。
<i>match-string</i>	パラメータが一致する必要がある値を指定します。

## コマンド デフォルト

トリガー条件に URI パラメータは設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、URI パラメータ `transport` が `tcp` に一致する場合に発生するトリガーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> request-uri uri-param transport tcp
```

次の例では、トリガー条件からユーザ URI パラメータを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq)> no request-uri uri-component transport
```

# response-code

特定の応答で発生するトリガー条件を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **response-code** コマンドを使用します。トリガー条件から応答コードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**response-code** *code*

**no response-code** *code*

## 構文の説明

<i>code</i>	トリガー条件の SIP 応答コードを指定します。数値を指定できます。または N(/d){2} という形式で設定できます (この N はクラス応答の数値です)。たとえば、2xx 応答には 2 を入力します。
-------------	--

## コマンド デフォルト

応答コードは設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、トリガー条件の応答コードを 408 に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)> sequence 4
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> response-code 408
```

次の例では、トリガー条件から応答コードを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)> sequence 4
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> no response-code
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# time

指定した時間ポリシーを満たす場合に発生するトリガーを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **time** コマンドを使用します。時間ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**time policy**

**no time**

## 構文の説明

*policy*

**policy time** コマンドを使用して以前に設定した時間ポリシーを指定します。

## コマンド デフォルト

時間ポリシーは設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0

このコマンドが追加されました。

## 例

次の例では、時間ポリシー **friday** を満たす場合に発生するトリガー条件 **t1** を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger) > sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq) > time fridays
```

次の例では、時間ポリシーを使用してトリガー条件を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config-rg) > trigger condition t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger) > sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-trigger-seq) > no time
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

# user-agent-hdr

User Agent ヘッダーフィールドの値で発生するトリガー条件を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション モードで **user-agent-hdr** コマンドを使用します。トリガー条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**user-agent-hdr** *user-agent-hdr-value*

**no user-agent-hdr** *user-agent-hdr-value*

## 構文の説明

*user-agent-hdr-value* user-agent ヘッダーフィールドを指定します。

## コマンド デフォルト

user-agent ヘッダーフィールドは設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy トリガー シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-trigger)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

正規表現としてこのコマンドの値を入力します。

## 例

次の例では、トリガー条件の user-agent ヘッダーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)> sequence 26
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> user-agent-hdr Cisco SIPGateway/IOS-12.x
```

次の例では、トリガー条件から user agent ヘッダーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> trigger condition t1
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger)> sequence 26
se-10-0-0-0(cusp-config-trigger-seq)> no user-agent-hdr
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。



## Cisco Unified SIP Proxy ルート コマンド

---

- 「route table file」
- 「route table」
  - 「key default-sip」
  - 「key group」
  - 「key policy」
  - 「key response」
  - 「key route-uri target-destination」
  - 「key target-destination」
- 「route group」
  - 「element route-uri」
  - 「element route-uri target-destination」
  - 「element target-destination」
  - 「failover-codes」
  - 「time-policy (要素)」
  - 「weight」

# route table file

ファイルからルート テーブルのルートを読み込むには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **route table** ファイル コマンドを使用します。ファイルからロードしたルート テーブルとルートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**route table** *table\_name* **file** *route-file*

**no route table** *table\_name* **file** *route-file*

## 構文の説明

<i>table_name</i>	<b>route table</b> コマンドを使用して設定されたルート テーブル名を指定します。
<b>file</b> <i>route-file</i>	ルート情報のロード元であるファイルを指定します。ファイルパスの先頭には <code>pfs:/cusp/routes/</code> を指定する必要があります。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。
8.5	このコマンドが次のように更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイルからロードされたルートと、システム上に設定されているルートの両方で構成されるルート テーブルを使用できます。</li> <li>ルート テーブル ファイルから情報をアップロードした後、ファイルをアップロードした場所に保存しておく必要がなくなりました。</li> </ul>

## 使用上のガイドライン

- ルート テーブルの制約事項：
  - Cisco Unified SIP Proxy Release 1.1.x では、ルート テーブルは、このコマンドを使用してファイルからロードされるルート、または **route table** サブモード コマンドを使用して設定されるルートで構成されます。ただし、ルート テーブルでは、ファイルからロードされるルートと、システム上で設定されるルートは混在できません。
  - Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 では、このコマンドを使用すると、ルート サブモードが開始されます。したがって、ファイルからルートをロードした後、ルート テーブルにさらに変更を加えることができます。ファイルからロードされたルートと、システム上に設定されているルートの両方で構成されるルート テーブルを使用できます。

- ルート テーブル ファイルの位置 :
  - Cisco Unified SIP Proxy Release 1.1.x では、アップロードしたファイルはその場所に残す必要がありました。ファイルを残さないと、リブート時にシステムからルート設定が失われるためです。
  - Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 では、アップロード後にファイルをその位置に残す必要はありません。



(注) このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ファイル routes.txt のルートをルート テーブル t1 にロードする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rt)> exit
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route table t1 file pfs:/cusp/routes/routes.txt
```

次の例では、ルート テーブルを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no route table t1
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>key target-destination</b>	request-URI をルーティング テーブルのキーに割り当てます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

# route table

ルートテーブルを作成し、ルートテーブルコンフィギュレーションモードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードで **route table** コマンドを使用します。ルートテーブルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**route table** *table\_name*

**no route table** *table\_name*

## 構文の説明

*table\_name* ルートテーブルの名前を指定します。

## コマンドデフォルト

ルートテーブルは設定されません。

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを入力してから、ルートテーブルコンフィギュレーションモードを開始します。ルートテーブルに追加するルートを設定するには、このコンフィギュレーションモードでコマンドを使用します。 **key group**、**key target-destination**、**key response**、および **key route-uri target-destination** コマンドを使用して指定したルートテーブルのキーに基づいて、検索は実行されます。空白スペースを含むキーは、引用符を使用して指定する必要があります。

ルートテーブルは、このコマンドを使用してアクセスされるサブモードコマンドを使用して設定されるルート、または **route table file** コマンドを使用してファイルからロードされるルートで構成されます。ただし、ルートテーブルでは、システム上で設定されるルートと、ファイルからロードされるルートは混在できません。



### (注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ルートテーブル **t1** を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)>
```

次の例では、ルートテーブルを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no route table t1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
	<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
	<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
	<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
	<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
	<b>route table file</b>	ファイルからルート テーブルのルートをロードします。

# key default-sip

RFC 3263 を使用して単純にルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定するには、ルート コンフィギュレーション モードで **key default-sip** コマンドを使用します。ルート テーブルからキーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**key** *key default-sip network*

**no key** *key default-sip*

## 構文の説明

<i>key</i>	ルート テーブルの検索キーを指定します。
<i>network</i>	( <b>sip network</b> コマンドを使用して以前に設定された) このルートに関連付けられている SIP ネットワークの名前を指定します。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

ルート テーブル コンフィギュレーション (cusp-config-rt)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。

## 例

次の例では、RFC 3263 を使用してルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> key 973 default-sip external
```

次の例では、ルート テーブルから検索キーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> no key 973 default-sip
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。

コマンド	説明
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

# key group

ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それを検索キーの番号に関連付けるには、ルート テーブル コンフィギュレーション モードで **key group** コマンドを使用します。ルーティング テーブルの検索キーからルート グループの割り当てを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**key key group route-group name**

**no key key**

## 構文の説明

<i>key</i>	ルート テーブルの検索キーを指定します。検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。
<i>route-group name</i>	route-group の名前を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

ルート テーブル コンフィギュレーション (cusp-config-rt)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

ルート グループと Request-URI を (**key target-destination** コマンドを使用して) 同じキー番号に割り当てることはできません。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、以前に設定したルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それにキー番号を割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route group users
se-10-0-0-0 (cusp-config-rg)> exit
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rt)> key 973 group users
```

次の例では、ルート テーブルから検索キーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rt)> no key 973
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定します。
<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

# key policy

検索ポリシーをルーティング テーブルのキーに割り当てるには、ルート テーブル コンフィギュレーション モードで **key policy** コマンドを使用します。ルーティング テーブルのキーからルート ポリシーの割り当てを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**key key policy route-policy**

**no key key policy route-policy**

## 構文の説明

<i>key</i>	ルート テーブルの検索キー番号を指定します。検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。
<i>route-policy</i>	ルーティング テーブルで使用するルート検索ポリシー ( <b>policy lookup</b> コマンドで設定したポリシー) を指定します。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

ルート テーブル コンフィギュレーション (cusp-config-rt)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

指定したネクストホップのタブルが、ルート アドバンス処理によって使い尽くされた場合にルーティングする先の定義済みのルーティング ポリシーをこのコマンドを使用して設定します。このコマンドは、まず **policy lookup** コマンドを使用してポリシーを設定する必要があります。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、以前に設定した検索ポリシーをルーティング テーブルに割り当て、それにキー番号を割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup)> exit
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rt)> key 973 policy p1
```

次の例では、ルート テーブルから検索キーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rt)> no key 973
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定します。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>policy lookup</b>	検索ポリシーを設定し、検索ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

# key response

応答コードをルーティング テーブルの検索キーに割り当てるには、ルート テーブル コンフィギュレーション モードで **key response** コマンドを使用します。ルーティング テーブルの検索キーから応答コードの割り当てを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**key** *key response response-code*

**no key** *key [response response-code]*

## 構文の説明

<i>key</i>	ルート テーブルの検索キー番号を指定します。検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。
<i>response-code</i>	<b>failover-resp-code</b> コマンドを使用して応答コードを設定済みとして指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

ルート テーブル コンフィギュレーション (cusp-config-rt)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、まず **failover-resp-code** コマンドを設定する必要があります。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、応答コードをルーティング テーブルに割り当て、それにキー番号を割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> server-group sip t1
se-10-0-0-0(cusp-config-sg)> failover-resp-code 404
se-10-0-0-0(cusp-config-sg)> exit
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> key 973 response 404
```

次の例では、ルート テーブルから検索キーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> no key 973
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>failover-resp-code</b>	SIP サーバグループのフェールオーバー応答コードを設定します。
<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定します。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

# key route-uri target-destination

route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えるには、Cisco Unified SIP Proxy ルート テーブル コンフィギュレーション モードで **key route-uri target-destination** コマンドを使用します。ルーティング テーブルの検索キーから route-URI の割り当てを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**key** *key route-uri route-uri target-destination target-destination network*

**no key** *key [route-uri route-uri target-destination target-destination network]*

## 構文の説明

<i>key</i>	ルート テーブルの検索キー番号を指定します。検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。
<b>route-uri</b> <i>route-uri</i>	ルーティング テーブルに割り当てる route ヘッダーフィールドの URI を指定します。
<b>target-destination</b> <i>target-destination</i>	request-URI のホストとポート、およびトランスポートを指定します。このフィールドの形式は host:port:transport です。port と transport は省略可能です。
<i>network</i>	<b>sip network</b> コマンドを使用して設定された SIP ネットワーク名を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ルート テーブル コンフィギュレーション (cusp-config-rt)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

route-URI は、まず **element route-uri** コマンドを使用して設定する必要があります。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、route-URI をルーティング テーブルに割り当て、それにキー番号を割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route group users
se-10-0-0-0 (cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0 (cusp-config-rg)> exit
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rt)> key 973 route-uri sip:external@example.com;lr
target-destination 192.168.1.1:5060 external
```

次の例では、ルート テーブルから検索キーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rt)> no key 973
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element route-uri</b>	route-URI ヘッダーを追加し、それをルート グループの request-URI ヘッダーに置き換え、要素コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定します。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

# key target-destination

宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えるには、ルート テーブル コンフィギュレーション モードで **key target-destination** コマンドを使用します。ルーティング テーブルのキーから request-URI を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**key** *key target-destination target-destination network*

**no key** *key [target-destination request-uri-host-port network]*

## 構文の説明

<i>key</i>	ルート テーブルの検索キー番号を指定します。検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。
<i>target-destination</i>	ルーティング テーブルに割り当てる request-URI のホストとポート、およびトランスポートを指定します。このフィールドの形式は host:port:transport です。port と transport は省略可能です。
<i>network</i>	SIP ネットワーク名を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

ルート テーブル コンフィギュレーション (cusp-config-rt)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

request-URI はまず **element target-destination** コマンドを使用して設定する必要があります。request-URI と (**key group** コマンドを使用する) ルート グループは、同じキー番号を使用できません。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、宛先をルーティング テーブルに割り当て、それにキー番号を割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group users
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element target-destination sip:external@example.com internal
1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> exit
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> key 973 target-destination hostnameB internal
```

次の例では、ルート テーブルから検索キーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rt)> no key 973
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定します。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

# route group

ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **route group** コマンドを使用します。ルート グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**route group** *route-group-name* [**time-policy**] [**weight**]

**no route group** *route-group-name*

## 構文の説明

<i>route-group-name</i>	ルート グループの名前を指定します。
<b>time-policy</b>	(オプション) <b>policy time</b> コマンドで設定された時間に基づくルーティング設定をイネーブルにします。この設定は、時間に基づくルーティングを実装する場合に、このルート グループが使用します。このオプションは、デフォルトではディセーブルです。
<b>weight</b>	(オプション) そのルート グループについて、重み付けに基づくルーティング設定をイネーブルにします。オンにすると、ルート グループは次のルートを選択するアルゴリズムとして重み付けを使用します。このオプションは、デフォルトではディセーブルです。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドはルート グループとそのルート グループ要素を設定します。ルート グループは、1 つまたは複数のルート グループ要素、またはネクストホップのタプル設定のセットです。ルート グループを使用すると、ネクストホップのデータ タプルの特定のセットを、複数のルート設定で再利用できます。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ルート グループ **gl** を作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route group gl
se-10-0-0-0 (cusp-config-rg)>
```

次の例では、重み付けに基づくルーティングを使用してルート グループを作成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route group g1 weight
```

次の例では、時間に基づくルーティングと重み付けに基づくルーティングを使用してルート グループを作成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route group g1 time-policy weight
```

次の例では、ルート グループを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no route group g1
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element route-uri</b>	request-URI 要素をルート グループに追加します。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>policy time</b>	時間ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>show routes table</b>	設定済みの Cisco Unified SIP Proxy ルートを表示します。

# element route-uri

route-URI ヘッダーを追加し、それをルート グループの request-URI ヘッダーに置き換える場合、および要素コンフィギュレーション モードを開始する場合、Cisco Unified SIP Proxy ルート グループ コンフィギュレーション モードで **element-route-uri** コマンドを使用します。ルート グループからルート エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**element route-uri route-uri network [q\_value]**

**no element route-uri route-uri network**

## 構文の説明

<b>route-uri</b> <i>route-uri</i>	Route-URI ヘッダーを指定します。
<b>request-uri</b> <i>request-uri</i>	Route-URI ヘッダーを置き換える Request-URI ヘッダーを指定します。
<i>network</i>	<b>sip network</b> コマンドを使用して設定された SIP ネットワークを指定します。
<i>q_value</i>	(オプション) サーバ グループ内の他のサーバ グループ要素に対するサーバ グループ要素のプライオリティを指定する実際の数値を表します。有効な値は 0.0 ~ 1.0 です。デフォルトは 1.0 です。

## コマンド デフォルト

route-URI 要素は設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ルート グループ コンフィギュレーション (cusp-config-rg)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

特定のネットワークに複数の route-URI を割り当てることができます。

**weight** オプションの場合、サーバ グループの各要素に重み付けが割り当てられます。それによって、サーバ グループ内で同じプライオリティ (q-value) を持つ他の要素の重み付けに対して、重み付けに比例するトラフィックの負荷を各要素が受信します。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、route-URI 要素をルート グループに追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com ;lr internal
se-10-0-0-0 (cusp-config-rg-element)>
```

次の例では、ルート グループから route-URI 要素を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rg)> no element route-uri sip:external@example.com ;lr internal
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>failover-codes</b>	request-URI 要素または route-URI 要素のフェールオーバーコードを設定します。
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>time-policy (要素)</b>	時間に基づくルーティングを実装する場合に使用する時間ポリシーを設定します。
<b>weight</b>	重み付けに基づくルーティングを実装する場合にルート グループの request-URI または route-URI に割り当てる割合を設定します。

# element route-uri target-destination

route-URI 要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy ルート グループ コンフィギュレーション モードで **element-route-uri** コマンドを使用します。ルート グループからルート エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**element route-uri route-uri request-uri-host-port request-uri-host-port network [q\_value]**

**no element route-uri route-uri network**

## 構文の説明

<i>route</i>	Route-URI ヘッダーを指定します。
<i>request-uri-host-port</i>	要求の Request-URI-host-port を指定します。このフィールドの形式は、host:port です。port は省略可能です。
<i>network</i>	<b>sip network</b> コマンドを使用して設定された SIP ネットワークを指定します。
<i>q_value</i>	(オプション) サーバ グループ内の他のサーバ グループ要素に対するサーバ グループ要素のプライオリティを指定する実際の数値を表します。有効な値は 0.0 ~ 1.0 です。デフォルトは 1.0 です。

## コマンド デフォルト

route-URI 要素は設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ルート グループ コンフィギュレーション (cusp-config-rg)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

特定のネットワークに複数の route-URI を割り当てることができます。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、route-URI 要素をルート グループに追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com;lr
request-uri-host-port 192.168.1.1:5060 internal
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)>
```

次の例では、ルート グループから route-URI 要素を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rg)> no element route-uri sip:external@example.com;lr
request-uri-host-port 192.168.1.1.:5060
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>failover-codes</b>	request-URI 要素または route-URI 要素のフェールオーバーコードを設定します。
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>time-policy (要素)</b>	時間に基づくルーティングを実装する場合に使用する時間ポリシーを設定します。
<b>weight</b>	重み付けに基づくルーティングを実装する場合にルート グループの request-URI または route-URI に割り当てる割合を設定します。

# element target-destination

宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始するには、ルート グループ コンフィギュレーション モードで **element target-destination** コマンドを使用します。ルート グループからルート エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**element target-destination target-destination network [q\_value]**

**no element target-destination target-destination**

## 構文の説明

<i>target-destination</i>	要求の宛先に基づいて、ネクストホップのタプルを指定します。このフィールドの形式は、host:port です。port は省略可能です。
<i>network</i>	<b>sip network</b> コマンドを使用して設定された SIP ネットワークを指定します。
<i>q_value</i>	(オプション) サーバグループ内の他のサーバグループ要素に対するサーバグループ要素のプライオリティを指定する実際の数値を表します。有効な値は 0.0 ~ 1.0 です。デフォルトは 1.0 です。

## コマンド デフォルト

request-URI 要素は設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ルート グループ コンフィギュレーション (cusp-config-rg)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、宛先要素をルート グループに追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rg)> element target-destination hostnameB internal
se-10-0-0-0 (cusp-config-rg-element)>
```

次の例では、ルート グループから宛先要素を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rg)> no element target-destination hostnameB
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element route-uri</b>	request-URI 要素をルート グループに追加します。
<b>failover-codes</b>	request-URI 要素または route-URI 要素のフェールオーバーコードを設定します。
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>time-policy (要素)</b>	時間に基づくルーティングを実装する場合に使用する時間ポリシーを設定します。
<b>weight</b>	重み付けに基づくルーティングを実装する場合にルート グループの request-URI または route-URI に割り当てる割合を設定します。

# failover-codes

要素の request-URI または要素の route-URI のフェールオーバー コードを設定するには、要素の request-URI コンフィギュレーション モードまたは要素の route-URI コンフィギュレーション モードで **failover-codes** コマンドを使用します。フェールオーバー コードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
failover-codes codes [ - code ] [ , continue ]
```

```
no failover-codes
```

## 構文の説明

<i>codes</i>	SIP 応答コードをカンマ区切りで指定します。複数の範囲を示すために使用するカンマとダッシュの前後には、単一の空白スペースを入力する必要があります。
--------------	--

## コマンド デフォルト

フェールオーバー コードは設定されません。

## コマンド モード

要素コンフィギュレーション (cusp-config-rg-element)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ルート アドバンスが発生するのは、ダウンストリーム要素から、指定した応答コードの 1 つをプロキシが受信した場合です。

## 例

次の例では、ルート グループの route-URI 要素に応答コードを追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> failover-codes 502 , 503
```

次の例では、ルート グループの route-URI 要素に応答コードを追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> failover-codes 502 , 504 - 508 , 588
```

次の例では、route-URI 要素からフェールオーバー コードを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> no failover-codes
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element route-uri</b>	request-URI 要素をルート グループに追加します。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>time-policy (要素)</b>	時間に基づくルーティングを実装する場合に使用する時間ポリシーを設定します。
<b>weight</b>	重み付けに基づくルーティングを実装する場合にルート グループの request-URI に割り当てる割合を設定します。

## time-policy (要素)

要素の request-URI または要素の route-URI の時間ポリシーを設定するには、要素の request-URI コンフィギュレーション モードまたは要素の route-URI コンフィギュレーション モードで **time-policy** コマンドを使用します。時間ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**time-policy policy**

**no time-policy**

構文の説明	<i>policy</i>	時間に基づくルーティングを実装する場合、 <b>policy time</b> コマンドを使用して以前に設定した時間ポリシーを指定します。このオプションが有効なのは、 <b>time-policy</b> オプションが <b>route group</b> コマンドで指定されている場合だけです。
-------	---------------	--

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 要素コンフィギュレーション (cusp-config-rg-element)

コマンド履歴	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容</b>
	1.0 このコマンドが追加されました。

例 次の例では、route-URI 要素の時間ポリシーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> time-policy tpl
```

次の例では、route-URI 要素から時間ポリシーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> no time-policy
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
	<b>element route-uri</b>	request-URI 要素をルート グループに追加します。
	<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始します。
	<b>failover-codes</b>	request-URI 要素または route-URI 要素のフェールオーバーコードを設定します。

コマンド	説明
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>weight</b>	重み付けに基づくルーティングを実装する場合にルート グループの request-URI に割り当てる割合を設定します。

# weight

重み付けに基づくルーティングを実装する場合に request-URI または route-URI に割り当てる重み付けの割合を設定するには、要素コンフィギュレーション モードで **weight** コマンドを使用します。重み付けを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**weight weight**

**no weight**

## 構文の説明

*weight*

重み付けに基づくルーティングを実装する場合にルート グループの request-URI または route-URI に割り当てる割合を設定します。有効な範囲は 0 ~ 100 です。設定しない場合、デフォルトの重み付けは 50 です。このオプションが有効なのは、**weight** オプションが **route group** コマンドで指定されている場合だけです。

## コマンド デフォルト

50

## コマンド モード

要素コンフィギュレーション (cusp-config-rg-element)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0

このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ルート グループの各要素に重み付けが割り当てられます。各要素は、その重み付けに比例したトラフィックの負荷を受信します。

## 例

次の例では、重み付けに基づくルーティングの 50% の重み付けがある route-URI 要素を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> weight 50
```

次の例では、route-URI 要素から重み付け値を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> no weight
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element route-uri</b>	request-URI 要素をルート グループに追加します。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>failover-codes</b>	request-URI 要素または route-URI 要素のフェールオーバーコードを設定します。
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>time-policy (要素)</b>	時間に基づくルーティングを実装する場合に使用する時間ポリシーを設定します。

■ weight



## Cisco Unified SIP Proxy ポリシー コマンド

---

- 「policy time」
  - 「sequence (ポリシー時間)」
    - 「end-time」
    - 「month」
    - 「start-time」
  - 「day-of-month」
  - 「day-of-week」
  - 「time (ポリシー時間シーケンス)」
- 「policy lookup」
  - 「sequence field」
    - 「rule」
    - 「ignore-plus」
    - 「ignore-tel-seperators」
    - 「modify-key」
  - 「sequence header uri-component」
- 「policy normalization」
  - 「header-param add」
  - 「header-param remove」
  - 「header-param update」
  - 「header add」
  - 「header remove」
  - 「header update」
  - 「sip-to-tel」
  - 「sip-to-tel request-uri」
  - 「tel-to-sip」
  - 「tel-to-sip request-uri」
  - 「uri-component update header」
  - 「uri-component update request-uri」

- 「uri-param add」
- 「uri-param add request-uri」
- 「uri-param remove」
- 「uri-param remove request-uri」
- 「uri-param update」
- 「uri-param update request-uri」

# policy time

Time-of-Day ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **policy time** コマンドを使用します。時間ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**policy time** *time\_policy\_name*

**no policy time** *time\_policy\_name*

## 構文の説明

*time\_policy\_name* 時間ポリシーに割り当てる名前を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

start-time と end-time の値は RFC 2445 iCA1 COS DATE-TIME 形式で入力します。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、時間ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)>
```

次の例では、時間ポリシーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no policy time tp1
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>day-of-month</b>	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
<b>day-of-week</b>	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
<b>end-time</b>	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。
<b>month</b>	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。

コマンド	説明
<b>sequence</b> (ポリシー時間)	開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始します。
<b>start-time</b>	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。
<b>time</b> (ポリシー時間シーケンス)	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

## sequence (ポリシー時間)

開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始するには、ポリシー時間コンフィギュレーション モードで **sequence** コマンドを使用します。時間ポリシーからステップを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sequence** *sequence*

**no sequence** *sequence*

### 構文の説明

*sequence* 時間ポリシーのシーケンス番号を指定します。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

ポリシー時間コンフィギュレーション (cusp-config-time)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

### 例

次の例では、時間ポリシー ステップを作成し、時間ポリシー ステップ コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。ポリシー ステップの開始時間と終了時間は次のように設定されます。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)>
```

次の例では、時間ポリシー ステップを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> no sequence 1
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>day-of-month</b>	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
<b>day-of-week</b>	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
<b>end-time</b>	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。

## ■ sequence (ポリシー時間)

コマンド	説明
<b>month</b>	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。
<b>policy time</b>	時間ポリシーを設定し、時間ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>start-time</b>	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。
<b>time (ポリシー時間シーケンス)</b>	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

# end-time

時間ポリシー ステップの終了時間を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション モードで **end-time** コマンドを使用します。時間ポリシー ステップから終了時間を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**end-time** *end-time*

**no end-time**

構文の説明	<i>end-time</i>	<i>end-time</i> は「HH:MM:SS <月><日><年>」の形式で指定します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	Cisco Unified SIP Proxy ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-time-seq)	
コマンド履歴	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン</b> 変更内容	
	1.0	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	時間ポリシー ステップはローカルの時間帯を使用します。end-time がいない場合、ポリシー ステップでは end-time に制約を設定しません。end-time が現在の時間より後ではない場合、エラーがスローされます。	
 (注)	このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために <b>commit</b> コマンドを使用する必要があります。	

**例** 次の例では、2008 年 8 月 1 日の 12:00 まで適用される時間ポリシー ステップを作成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> end-time 12:00:00 August 01 2008
```

次の例では、時間ポリシー ステップから終了時間を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> no end-time
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>day-of-month</b>	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
<b>day-of-week</b>	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
<b>month</b>	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。
<b>policy time</b>	時間ポリシーを設定し、時間ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>sequence</b> (ポリシー時間)	開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始します。
<b>start-time</b>	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。
<b>time</b> (ポリシー時間シーケンス)	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

# month

時間ポリシー ステップが適用される年の月を設定するには、ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション モードで **month** コマンドを使用します。時間ポリシー ステップに割り当てられた **month** 値を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**month begin month** [- end-month] [ , ] (continue) [end-month]

**no month begin month** [- end-month] [ , ] (continue) [end-month]

## 構文の説明

<i>begin month</i>	時間ポリシー ステップが適用される最初の月を指定します。月の先頭 3 文字として値を入力します。
<i>end-month</i>	(オプション) 時間ポリシー ステップが適用される最後の月を指定します。月の先頭 3 文字として値を入力します。  複数の範囲で追加の終了月を指定して、追加のオプション パラメータを指定できます。複数の範囲を入力する場合、カンマとダッシュを使用して範囲を指定します。複数の範囲を示すために使用するカンマとダッシュの前後には、単一の空白スペースを入力します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-time-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

*last-month* 値が入力されない場合、時間ポリシーは、*first-month* 値で指定した月にだけ適用されます。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、1 月にだけ有効にする時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> month jan
```

次の例では、1 月から 6 月まで有効になる時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> month jan - jun
```

次の例では、1月、2月、5月、10月、11月、および12月に有効になる時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tpl
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> month jan - feb , may , oct - dec
```

次の例では、時間ポリシーから月の制約を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tpl
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> no month
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>day-of-month</b>	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
<b>day-of-week</b>	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
<b>end-time</b>	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。
<b>policy time</b>	時間ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>sequence (ポリシー時間)</b>	開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始します。
<b>start-time</b>	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。
<b>time (ポリシー時間シーケンス)</b>	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

# start-time

時間ポリシー ステップの開始時間を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション モードで **start-time** コマンドを使用します。時間ポリシー ステップから開始時間を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**start-time** *start-time*

**no start-time** *start-time*

## 構文の説明

*start-time* start-time は「HH:MM:SS <月><日><年>」の形式で指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-time-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

時間ポリシー ステップはローカルの時間帯を使用します。start-time がない場合、ポリシー ステップは start-time に制約を設定しません。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、2008 年 7 月 1 日の 14:15:20 から適用される時間ポリシー ステップを作成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> start-time 14:15:20 July 01 2008
```

次の例では、時間ポリシー ステップから開始時間を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> no start-time
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>day-of-month</b>	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
<b>day-of-week</b>	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
<b>end-time</b>	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。
<b>month</b>	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。
<b>policy time</b>	時間ポリシーを作成し、ポリシー時間コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>time (ポリシー時間シーケンス)</b>	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

# day-of-month

時間ポリシー ステップが適用される月の日付を設定するには、ポリシー時間コンフィギュレーション モードで **day-of-month** コマンドを使用します。時間ポリシー ステップに割り当てられた **days-in-month** 値をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**day-of-month** *begin day* [- *end-day*] [ , ] (*continue*) [*end-day*]

**no day-of-month** *begin day* [- *end-day*] [ , ] (*continue*) [*end-day*]

## 構文の説明

<i>begin-day</i>	時間ポリシー ステップが適用される月の最初の日付。
<i>end-day</i>	(オプション) 時間ポリシー ステップが適用される月の最後の日付。 複数の範囲で追加の開始日と終了日を指定して、追加のオプションのパラメータを指定できます。複数の範囲を入力する場合、カンマとダッシュを使用して範囲を指定します。複数の範囲を示すために使用するカンマとダッシュの前後には、単一の空白スペースを入力します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

ポリシー時間コンフィギュレーション (cusp-config-time)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ポリシーが月の最初の日に適用される時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> day-of-month 1
```

次の例では、ポリシーが月の 1 日、10 日、11 日、12 日、13 日、14 日、15 日、および 28 日に適用される時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> day-of-month 1 , 10 - 15 , 28
```

次の例では、時間ポリシー ステップから **day-of-month** 値を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> no day-of-month
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>day-of-week</b>	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
<b>end-time</b>	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。
<b>month</b>	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。
<b>policy time</b>	時間ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>sequence</b> (ポリシー時間)	開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始します。
<b>start-time</b>	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。
<b>time</b> (ポリシー時間シーケンス)	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

# day-of-week

時間ポリシー ステップが適用される曜日を設定するには、ポリシー時間コンフィギュレーション モードで **day-of-week** コマンドを使用します。時間ポリシー ステップに割り当てられた **day-of-week** 値をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**day-of-week** *begin day* [- *end-day*] [ , ] (*continue*) [*end-day*]

**no day-of-week** *begin day* [- *end-day*] [ , ] (*continue*) [*end-day*]

## 構文の説明

<i>begin-day</i>	時間ポリシー ステップが適用される最初の曜日を指定します。値は曜日の先頭 3 文字を使用して入力します。
<i>end-day</i>	(オプション) 時間ポリシー ステップが適用される最後の曜日を指定します。値は曜日の先頭 3 文字を使用して入力します。 複数の範囲で追加の開始日と終了日を指定して、追加のオプションのパラメータを指定できます。複数の範囲を入力する場合、カンマとダッシュを使用して範囲を指定します。複数の範囲を示すために使用するカンマとダッシュの前後には、単一の空白スペースを入力する必要があります。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

ポリシー時間コンフィギュレーション (cusp-config-time)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ポリシーが特定の週の月曜日にだけ適用される時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> day-of-week mon
```

次の例では、ポリシーが特定の週の月曜日、水曜日、木曜日、および金曜日に適用される時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> day-of-week mon , wed - fri
```

次の例では、時間ポリシーから `day-of-week` 値を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tpl
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> no day-of-week
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>commit</code>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<code>day-of-month</code>	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
<code>end-time</code>	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。
<code>month</code>	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。
<code>policy time</code>	時間ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
<code>sequence</code> (ポリシー時間)	開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始します。
<code>start-time</code>	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。
<code>time</code> (ポリシー時間シーケンス)	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

## time (ポリシー時間シーケンス)

時間ポリシー ステップが適用される時刻を設定するには、ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション モードで **time** コマンドを使用します。時間ポリシー ステップに割り当てられた **times-in-day** 値をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**time** *begin time* [- *end-time*] [ , ] (*continue*) [*end-time*]

**no time** *begin time* [- *end-time*] [ , ] (*continue*) [*end-time*]

### 構文の説明

<i>begin-time</i>	ポリシーの開始時間 (GMT) を指定します。時間は HH:MM:SS の形式で入力されます。
<i>end-time</i>	<p>ポリシーの終了時間 (GMT) を指定します。時間は HH:MM:SS の形式で入力されます。</p> <p>複数の範囲で追加の開始時間と終了時間を指定して、追加のオプションのパラメータを指定できます。複数の範囲を入力する場合、カンマとダッシュを使用して範囲を指定します。複数の範囲を示すために使用するカンマとダッシュの前後には、単一の空白スペースを入力する必要があります。</p>

### コマンド デフォルト

なし。

### コマンド モード

ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-time-seq)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

時間の値は、グリニッジ標準時 (GMT) 形式で入力されます。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

### 例

次の例では、時間ポリシーで時刻を設定し、午前 9:00 から 午後 5:00 まで有効にする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time-seq)> time 09:00 - 17:00
```

次の例では、時間ポリシーから **times-in-day** 値を削除し、時間ポリシーを 1 日中有効にする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0 (cusp-config-time)> no time 09:00 - 17:00
```

## time (ポリシー時間シーケンス)

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>day-of-month</b>	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
<b>day-of-week</b>	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
<b>end-time</b>	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。
<b>month</b>	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。
<b>policy time</b>	時間ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>sequence (ポリシー時間)</b>	開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始します。
<b>start-time</b>	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。

# policy lookup

ルーティングの検索ポリシーを設定し、ポリシー検索コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **policy lookup** コマンドを使用します。検索ポリシーからフィールドシーケンス特性を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**policy lookup** *policy-name*

**no policy lookup** *policy-name*

## 構文の説明

*policy-name* 検索ポリシー名を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、検索ポリシーのフィールドシーケンス特性を設定し、検索コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy lookup p1  
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup)>
```

次の例では、検索ポリシーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no policy lookup p1
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>key-modifier</b>	検索ポリシーのキー修飾子を設定します。
<b>rule</b>	検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定します。
<b>sequence field</b>	検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定します。
<b>sequence header uri-component</b>	検索ポリシーの URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を設定します。

# sequence field

検索ポリシーのフィールドシーケンス特性を設定し、シーケンス フィールド コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索コンフィギュレーション モードで **sequence field** コマンドを使用します。検索ポリシーからフィールドシーケンス特性を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
sequence sequence-number table-name field {in-network | local-ip-address | local-ip-port | remote-ip-address | remote-ip-port}
```

```
no sequence sequence-number
```

## 構文の説明

<b>sequence</b> <i>sequence-number</i>	検索ポリシーのシーケンス番号を指定します。これは、検索ポリシーを実行する順序を表します。
<i>table-name</i>	<b>route table</b> コマンドを使用して設定されたルート テーブル名を指定します。
<b>field</b>	フィールド特性を指定します。  <b>In-network</b> : 着信ネットワーク名 <b>Local-ip-address</b> : 受信ローカル IP アドレスのアドレス <b>Local-ip-port</b> : 受信ローカル IP アドレスのアドレスとポート <b>Remote-ip-address</b> : リモート送信側の IP アドレスのアドレス <b>Remote-ip-port</b> : リモート送信側の IP アドレスのアドレスとポート
<i>in-network</i>	着信 SIP ネットワーク名を指定します。
<i>local-ip-address</i>	着信 SIP ネットワークの受信ローカル IP アドレスを指定します。
<i>local-ip-port</i>	受信ローカル IP アドレスとポートを指定します。
<i>remote-ip-address</i>	リモート送信側の IP アドレスを指定します。
<i>remote-ip-port</i>	リモート送信側の IP アドレスとポートを指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索コンフィギュレーション (cusp-config-lookup)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、SIP 以外のヘッダー関連情報を使用するルート テーブルとその検索キーで検索ポリシーを設定します。このコマンドは、検索ポリシーのキー修飾子とルールを設定するシーケンス フィールド コンフィギュレーション サブモードを開始します。サブモードのコマンドが設定されていない場合、プロキシはデフォルトのルールを使用し、キー修飾子は使用せずに設定されます。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

**例**

次の例では、検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定し、シーケンス フィールド コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup)> sequence 8 t1 field in-network
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup-seq)>
```

次の例では、検索ポリシーからフィールド シーケンス特性を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup)> no sequence 8
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>key-modifier</b>	検索ポリシーのキー修飾子を設定します。
<b>rule</b>	検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定します。

# rule

検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードで **rule** コマンドを使用します。検索ポリシーからルールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**rule** {*exact* | *prefix* | *subdomain* | *subnet* | *fixed length*} [*case-insensitive*]

**no rule** {*exact* | *prefix* | *subdomain* | *subnet* | *fixed length*} [*case-insensitive*]

## 構文の説明

<b>exact</b>	指定したテーブルのキーの完全一致を検索ポリシーで検索することを指定します。
<b>prefix</b>	最も長いプレフィクスの一致を検索ポリシーで検索することを指定します。
<b>subdomain</b>	テーブルのキーの最も長いサブドメインを検索ポリシーで検索することを指定します。
<b>subnet</b>	テーブルのキーの最も長い IP アドレスを検索ポリシーで検索することを指定します。
<b>fixed length</b>	キー全体ではなく、キーの文字の固定数が検索されることを指定します。
<b>case-insensitive</b>	(オプション) サブドメインの一致を使用する場合、このオプションは、一致で大文字と小文字を区別しないことを指定します。その結果、要求に <b>nonSIP request-URI</b> が含まれる場合、検索は失敗しません。ドメイン名の一致は通常は大文字と小文字を区別するため、この設定が必要になることもあります。

## コマンド デフォルト

**exact** ルーティング アルゴリズムが使用されます。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション (**culp-config-lookup-seq**)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

検索ポリシーで使用できるさまざまなアルゴリズム ルールのその他の情報は次のとおりです。

- **exact**

この検索の種類は、文字列の一致ルールを使用して実行されます。検索フィールドは、指定したルート テーブルのルートのキーと一致する必要があります。

- **prefix**

この検索の種類は、指定したルート テーブルの各ルートに含まれるキーに対して、最も長いプレフィックスの一致を実行します。たとえば、次のようになります。

検証する要求の一部に「5550100」という値が含まれ、指定したルート テーブルのルートに「555」というキーがある場合、一致があります。同じテーブルに「55501」というキーの別のルートがある場合、これも一致し、こちらの方が優先されます。一致するキーの桁数が多いためです。一致は、数字と任意の文字列の両方で実行できます。

- **subdomain**

この検索は、指定したルート テーブルの各ルートに含まれるキーに対して、Request-URI（完全修飾ドメイン名または IP アドレス）のホスト部分と一致します。



(注) ドメイン名の一致では大文字と小文字が区別され、最も詳細な一致が優先されます。IP アドレスの一致は完全一致である必要があります。要求に **nonSIP request-URI** が含まれる場合、この検索は失敗します。このエラーを回避するには、**case-insensitive** キーワード オプションを使用します。

- **subnet mask**

この検索は、指定したルート テーブルの各ルートに含まれるキーに対して、指定した Request-URI フィールド内の IP アドレスに一致します。

- **fixed**

この検索の種類は、指定したルート テーブルの各ルートに含まれるキーの先頭の  $n$  文字について、完全一致の検索を試みます。例：

Request-URI 内の電話番号が検証され、97395550100 という値を持つとします。一致する必要がある文字数が 3 に設定されている場合、指定したルーティング テーブルのルートに 973 というキーがある場合にだけ、一致が発生します。一致は、数字と任意の文字列の両方で実行できます。



(注) このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、最も長いプレフィックスの一致を検索するように検索ポリシー ルールを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> sequence 8 t1 field in-network
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup-seq)> rule prefix
```

次の例では、キーの最も長いサブドメインを検索し、大文字と小文字を区別しないように検索ポリシー ルールを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> sequence 8 t1 header request-uri
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup-seq)> rule subdomain case-insensitive
```

次の例では、検索ポリシー ルールを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> sequence 8 t1 field in-network
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup-seq)> no rule
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>key-modifier</b>	検索ポリシーのキー修飾子を設定します。
<b>policy lookup</b>	検索ポリシーを設定し、検索ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>sequence field</b>	検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定します。
<b>sequence header uri-component</b>	検索ポリシーの URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を設定します。

# ignore-plus

検索ポリシーの属性の値において先頭のプラス記号を無視するよう指定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードで **ignore-plus** コマンドを使用します。プラス記号を無視しないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ignore-plus**

**no ignore-plus**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション (cusp-config-lookup-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

8.5	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

検索ポリシーの属性の値において先頭のプラス記号を無視するかどうかを指定するには、このコマンドを使用します。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次に、このコマンドの使用例を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy lookup p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup) > sequence 8 t1 field in-network
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup-seq) > ignore-plus
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy lookup</b>	検索ポリシーを設定し、検索ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>rule</b>	検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定します。

コマンド	説明
<b>sequence field</b>	検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定します。
<b>sequence header uri-component</b>	検索ポリシーの URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を設定します。

# ignore-tel-seperators

システムにより、検索ポリシーの属性の値におけるすべての RFC 2806 で規定される区切り文字が無視されるように指定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードで **ignore-tel-seperators** コマンドを使用します。tel 区切り文字が無視されないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ignore-tel-seperators**

**no ignore-tel-seperators**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション (cusp-config-lookup-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

8.5	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

システムにより、検索ポリシーの属性の値におけるすべての RFC 2806 で規定される区切り文字が無視されるように指定するには、このコマンドを使用します。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次に、このコマンドの使用例を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup)> sequence 8 t1 field in-network
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup-seq)> ignore-tel-seperators
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy lookup</b>	検索ポリシーを設定し、検索ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>rule</b>	検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定します。

コマンド	説明
<b>sequence field</b>	検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定します。
<b>sequence header uri-component</b>	検索ポリシーの URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を設定します。

# modify-key

検索ポリシーのキー修飾子で一致検出および置換を実行するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードで **modify-key** コマンドを使用します。検索ポリシーからキー修飾子を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**modify-key** <regex-match> <regex-replace>

**no modify-key**

## 構文の説明

<i>regex-match</i>	正規表現に一致するキー修飾子を指定します。
<i>regex-replace</i>	正規表現を置き換えるキー修飾子を指定します。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション (cusp-config-lookup-seq)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

8.5 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

検索ポリシーのキー修飾子で一致検出および置換を実行するには、このコマンドを使用します。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次に、キーワード「yes」を、キーワード「no」で置換する例を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy lookup pl
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup)> sequence 8 t1 header request-uri
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup-seq)> modify-key yes no
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy lookup</b>	検索ポリシーを設定し、検索ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>rule</b>	検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定します。

コマンド	説明
<b>sequence field</b>	検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定します。
<b>sequence header uri-component</b>	検索ポリシーの URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を設定します。

# sequence header uri-component

検索ポリシーの URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を設定し、シーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索コンフィギュレーション モードで **sequence header uri-component** コマンドを使用します。検索ポリシーから URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
sequence sequence-number table-name header {diversion | from | p-asserted-identity |
remote-party-id | request-uri | to} uri-component {host | host-port| param name |
phone | uri | user}
```

```
no sequence sequence-number table-name header {diversion | from | p-asserted-identity
| remote-party-id | request-uri | to} uri-component {host | host-port| param name |
phone | uri | user}
```

## 構文の説明

<b>sequence</b> <i>sequence-number</i>	検索ポリシーのシーケンス番号を指定します。これは、検索ポリシーを実行する順序を表します。
<i>table-name</i>	<b>route table</b> コマンドを使用して設定されたルート テーブル名を指定します。
<b>header</b>	検索ポリシーを適用できるヘッダーを指定します。
<b>diversion</b>	Diversion ヘッダーに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>from</b>	From ヘッダーに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>paid</b>	P-Asserted-Identity ヘッダーに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>rpaid</b>	Remote-Party-Id ヘッダーに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>ruri</b>	Request-URI ヘッダーに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>uri-component</b>	ポリシーを適用できる URI コンポーネントを指定します。
<b>domain</b>	domain URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>param</b> <i>name</i>	URI コンポーネント パラメータ名を指定します。
<b>phone</b>	phone URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>uri</b>	URI 全体に適用する検索ポリシーを指定します。
<b>user</b>	uer URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索コンフィギュレーション (cusp-config-lookup)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、検索ポリシーの URI コンポーネント ヘッダー シーケンス特性を設定し、シーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup)> sequence 8 t1 header request-uri uri-component user
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup-seq)>
```

次の例では、検索ポリシーからヘッダー シーケンス特性を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-lookup)> no sequence 8
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>key-modifier</b>	検索ポリシーのキー修飾子を設定します。
<b>rule</b>	検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定します。
<b>sequence field</b>	検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定します。

# policy normalization

正規化ポリシーを作成し、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **policy normalization** コマンドを使用します。正規化ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**policy normalization** *policy\_name*

**no policy normalization** *policy\_name*

## 構文の説明

*policy\_name* 正規化ポリシーの名前を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

複数のトークンの正規化手順の順序は次のとおりです。

1. header (オペレーション)
2. header-param
3. tel-to-sip
4. sip-to-tel
5. uri-component
6. uri-param

同じトークンが含まれる正規化手順の順序はオペレーションに基づきます。またその順序は次のとおりです。

1. remove
2. update
3. add



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

**例**

次の例では、p1 という正規化ポリシーを作成し、ポリシー正規化コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)>
```

次の例では、正規化ポリシーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no policy normalization p1
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>header-param add</b>	ヘッダー パラメータを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>header-param remove</b>	ヘッダー パラメータを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>header-param update</b>	ヘッダー パラメータを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>header add</b>	ヘッダーを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>header remove</b>	ヘッダーを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>header update</b>	ヘッダーを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>sip-to-tel</b>	宛先の SIP URI を TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>tel-to-sip</b>	宛先の TEL URI を SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>uri-component update header</b>	ソース メッセージのヘッダー内にある URI コンポーネント フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>uri-param add</b>	ソース メッセージのヘッダー内に URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>uri-param remove</b>	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>uri-param update</b>	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定します。

# header-param add

ヘッダーパラメータを追加する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーションモードで **header-param-add** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**header-param add** *header-name* {**first** | **last** | **all**} *header-param-name* *value*

**no header-param add** *header-name* {**first** | **last** | **all**} *header-param-name*

## 構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
<b>first</b>	特定のヘッダーパラメータが複数ある場合、この正規化手順は最初のパラメータにだけ適用されることを指定します。
<b>last</b>	特定のヘッダーパラメータが複数ある場合、この正規化手順は最後のパラメータにだけ適用されることを指定します。
<b>all</b>	特定のヘッダーパラメータが複数ある場合、この正規化手順はすべてのパラメータに適用されることを指定します。
<i>header-param-name</i>	ヘッダーパラメータ名を指定します。
<i>value</i>	追加する値を指定します。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ヘッダーパラメータ「m」の値が「XX」である最初の Call-Info ヘッダーにヘッダーパラメータを追加する正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> header-param-add Call-Info first m XX
```

次の例では、ヘッダーパラメータを追加する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no header-param-add Call-Info first m
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>header-param remove</b>	ヘッダー パラメータを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>header-param update</b>	ヘッダー パラメータを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。

# header-param remove

ヘッダー パラメータを削除する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **header-param-remove** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**header-param remove** *header-name* {**first** | **last** | **all**} *header-param-name*

**no header-param remove** *header-name* {**first** | **last** | **all**} *header-param-name*

## 構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
<b>first</b>	特定のヘッダー パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最初のパラメータにだけ適用されることを指定します。
<b>last</b>	特定のヘッダー パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最後のパラメータにだけ適用されることを指定します。
<b>all</b>	特定のヘッダー パラメータが複数ある場合、この正規化手順はすべてのパラメータに適用されることを指定します。
<i>header-param-name</i>	ヘッダー パラメータ名を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、Call-Info ヘッダーに含まれるすべての「m」ヘッダー パラメータを削除する正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization policy1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > header-param-remove Call-Info all m
```

次の例では、ヘッダー パラメータを削除する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization policy1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > no header-param-remove From all tag
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>header-param add</b>	ヘッダー パラメータを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>header-param update</b>	ヘッダー パラメータを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。

# header-param update

ヘッダーパラメータを更新する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーションモードで **header-param update** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
header-param update header-name {first | last | all} header-param-name { all |
match-string} replace-string
```

```
no header-param update header-name {first | last | all} header-param-name
```

## 構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
<b>first</b>	特定のヘッダーパラメータが複数ある場合、この正規化手順は最初のパラメータにだけ適用されることを指定します。
<b>last</b>	特定のヘッダーパラメータが複数ある場合、この正規化手順は最後のパラメータにだけ適用されることを指定します。
<b>all</b>	特定のヘッダーパラメータが複数ある場合、この正規化手順はすべてのパラメータに適用されることを指定します。
<i>header-param-name</i>	ヘッダーパラメータ名を指定します。
<i>match-string</i>	一致するヘッダーパラメータの正規表現文字列を指定します。 <b>all</b> を選択すると、ヘッダー全体が置き換えられます。
<i>replace-string</i>	一致する文字列を置き換えるヘッダーパラメータの正規表現文字列を指定します。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

**例**

次の例では、ヘッダー パラメータ「m」の値が「XX」であるすべての Call-Info ヘッダーについてヘッダー パラメータを更新する正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> header-param-update update Call-Info all m XX
```

次の例では、すべての Call-Info ヘッダーについてヘッダー パラメータを更新する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> no header-param-update update Call-Info all m
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>header-param add</b>	ヘッダー パラメータを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>header-param remove</b>	ヘッダー パラメータを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。

# header add

ヘッダーを追加する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **header add** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
header add header-name sequence header-sequence-number {first | last | all} header-value
no header add header-name sequence header-sequence-number {first | last | all}
```

## 構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
<b>sequence</b> <i>header-sequence-number</i>	シーケンス番号を指定します。これは、正規化ポリシーを実行する順序を示します。
<b>first</b>	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順は最初のヘッダーにだけ適用されることを指定します。
<b>last</b>	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順は最後のヘッダーにだけ適用されることを指定します。
<b>all</b>	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順はすべてのヘッダーに適用されることを指定します。
<i>header-value</i>	ヘッダー値を指定します。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## コマンド デフォルト

なし

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、P-Asserted-Identity ヘッダーを追加する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> header add P-Asserted-Identity sequence 1 first
sip:9735550100@cusp.example.com;user=phone
```

次の例では、P-Asserted-Identity ヘッダーを追加する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization pl  
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> no header add P-Asserted-Identity sequence 1 first
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>header remove</b>	ヘッダーを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>header update</b>	ヘッダーを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。

# header remove

ヘッダーを削除する正規化手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **header remove** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**header remove** *header-name* **sequence** *header-sequence-number* {**first** | **last** | **all**}

**no header remove** *header-name* **sequence** *header-sequence-number* {**first** | **last** | **all**}

## 構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
<b>sequence</b> <i>header-sequence-number</i>	シーケンス番号を指定します。これは、正規化ポリシーを実行する順序を示します。
<b>first</b>	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順は最初のヘッダーにだけ適用されることを指定します。
<b>last</b>	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順は最後のヘッダーにだけ適用されることを指定します。
<b>all</b>	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順はすべてのヘッダーに適用されることを指定します。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## コマンド デフォルト

なし

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、最初の P-Asserted-Identity ヘッダーを削除する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > header remove P-Asserted-Identity first
```

次の例では、すべての Request-URI ヘッダーを削除する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization pl  
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> header remove request-uri all
```

次の例では、すべての P-Asserted-Identity ヘッダーを削除する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization pl  
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> no header remove P-Asserted-Identity all
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>header add</b>	ヘッダーを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>header update</b>	ヘッダーを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。

# header update

ヘッダーを更新する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **header update** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
header update header-name {first | last | all} {all | match-string} replace-string
```

```
no header update header-name {first | last | all} {all | match-string} replace-string
```

## 構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
<b>first</b>	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順は最初のヘッダーにだけ適用されることを指定します。
<b>last</b>	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順は最後のヘッダーにだけ適用されることを指定します。
<b>all</b>	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順はすべてのヘッダーに適用されることを指定します。
{ <b>all</b>   <i>match-string</i> }	指定したフィールドに対する一致に使用する正規表現を指定します。 <b>all</b> を選択すると、ヘッダー全体が置き換えられます。
<i>replace-string</i>	指定したフィールドの置換に使用する正規表現を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、最初の Call-Info ヘッダーを更新する正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > header update Call-Info first
<sip:monitor@cusp.example.com>;purpose=call=completion;m=BS
```

次の例では、すべての Call-Info ヘッダーを更新する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization pl  
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> no header update Call-Info all
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>header add</b>	ヘッダーを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>header remove</b>	ヘッダーを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。

# sip-to-tel

宛先の SIP URI を TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **sip-to-tel** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip-to-tel** *header-name* {**first** | **last** | **all**}

**no sip-to-tel** *header-name* {**first** | **last** | **all**}

## 構文の説明

<i>request-uri</i>	正規化手順を適用できる request-URI を指定します。
<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
<b>first</b>	特定の SIP URI が複数ある場合、この正規化手順は最初の URI にだけ適用されることを指定します。
<b>last</b>	特定の SIP URI が複数ある場合、この正規化手順は最後の URI にだけ適用されることを指定します。
<b>all</b>	特定の SIP URI が複数ある場合、この正規化手順はすべての URI に適用されることを指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、SIP URI sip:5085550111@example.com を TEL URI tel:5085550111 に変換する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > sip-to-tel From all
```

次の例では、SIP URI を TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > no sip-to-tel From all
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。
<b>tel-to-sip</b>	宛先の TEL URI を SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を設定します。

# sip-to-tel request-uri

宛先の SIP URI を Request-URI の TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **sip-to-tel request-uri** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**sip-to-tel request-uri**

**no sip-to-tel request-uri**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、SIP URI sip:5085551111@example.com を TEL URI tel:5085551111 に変換する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> sip-to-tel request-uri
```

次の例では、SIP URI を TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> no sip-to-tel request-uri
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。
<b>sip-to-tel</b>	宛先の SIP URI を TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を設定します。

# tel-to-sip

宛先の TEL URI を特定の `host-port` 値が指定された SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーションモードで **tel-to-sip** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**tel-to-sip** *header-name* {**first** | **last** | **all**} *host-port*

**no tel-to-sip** *header-name* {**first** | **last** | **all**} *host-port*

## 構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
<b>first</b>	特定の TEL URI が複数ある場合、この正規化手順は最初の URI にだけ適用されることを指定します。
<b>last</b>	特定の TEL URI が複数ある場合、この正規化手順は最後の URI にだけ適用されることを指定します。
<b>all</b>	特定の TEL URI が複数ある場合、この正規化手順はすべての URI に適用されることを指定します。
<i>host-port</i>	URI のホストとポートを指定します。このフィールドの形式は、 <code>host:port</code> です。port は省略可能です。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、TEL URI `tel:5085550111` を SIP URI `sip:5085550111@example.com` に変換する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> tel-to-sip From all example.com
```

次の例では、TEL URI を SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> no tel-to-sip From all
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。
<b>sip-to-tel</b>	宛先の SIP URI を TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を設定します。

# tel-to-sip request-uri

宛先の TEL URI を Request-URI の SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **sip-to-tel request-uri** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**tel-to-sip request-uri** *host-port*

**no tel-to-sip request-uri**

構文の説明	<i>host-port</i>	URI のホストとポートを指定します。このフィールドの形式は、 <i>host:port</i> です。port は省略可能です。
-------	------------------	---

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)
----------	---------------------------------------

コマンド履歴	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容</b>
	1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

**例** 次の例では、TEL URI `tel:5085551111` を SIP URI `sip:5085551111@example.com` に変換する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> tel-to-sip request-uri example.com
```

次の例では、TEL URI を SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> no tel-to-sip request-uri
```

関連コマンド	<b>コマンド</b>	<b>説明</b>
	<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
	<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。
	<b>tel-to-sip</b>	宛先の TEL URI を SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を設定します。

# uri-component update header

ソース メッセージのヘッダーに含まれる URI コンポーネント フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-component update header** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**uri-component update header** {first | last | all} {user | host | host-port | phone | uri} {all | match-string} replace-string

**no uri-component update header** {first | last | all} {user | host | host-port | phone | uri} {all | match-string} replace-string

## 構文の説明

<b>first</b>	特定の URI コンポーネントが複数ある場合、この正規化手順は最初のコンポーネントにだけ適用されることを指定します。
<b>last</b>	特定の URI コンポーネントが複数ある場合、この正規化手順は最後のコンポーネントにだけ適用されることを指定します。
<b>all</b>	特定の URI コンポーネントが複数ある場合、この正規化手順はすべてのコンポーネントに適用されることを指定します。
<b>user</b>	uer URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>host</b>	host URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>host-port</b>	host-port URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>phone</b>	phone URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>uri</b>	URI 全体に適用する検索ポリシーを指定します。
<i>match-string</i>	一致する URI コンポーネントの正規表現文字列を指定します。 <b>all</b> を選択すると、ヘッダー全体が置き換えられます。
<i>replace-string</i>	一致する文字列を置き換える URI コンポーネントの正規表現文字列を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

**例** 次の例では、From ヘッダーに含まれるすべての「host-port」URI コンポーネントを更新するポリシー正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> uri-component update header all host-port example.com
```

次の例では、From ヘッダーに含まれるすべての「domain」URI コンポーネントを更新するポリシー正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> no uri-component update header all
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。

# uri-component update request-uri

request-URI に含まれる URI コンポーネント フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-component update request-uri** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
uri-component update request-uri {user | host | host-port | phone | uri} {all |
match-string} replace-string
```

```
no uri-component update request-uri {user | host | host-port | phone | uri} {all |
match-string} replace-string
```

## 構文の説明

<b>user</b>	uer URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>host</b>	host URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>host-port</b>	host-port URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>phone</b>	phone URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
<b>uri</b>	URI 全体に適用する検索ポリシーを指定します。
<b>all</b>	特定の URI コンポーネントが複数ある場合、この正規化手順はすべてのコンポーネントに適用されることを指定します。
<i>match-string</i>	一致する URI コンポーネントの正規表現文字列を指定します。 <b>all</b> を選択すると、ヘッダー全体が置き換えられます。
<i>replace-string</i>	一致する文字列を置き換える URI コンポーネントの正規表現文字列を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

**例** 次の例では、Request-URI の user 部分に含まれる 9911 を 911 に置き換えるポリシー正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> uri-component update request-uri user 9911 911
```

次の例では、Request-URI の host-port を example.com に置き換えるポリシー正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> uri-component update request-uri host-port all example.com
```

次の例では、Request-URI のコンポーネントを置き換える正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> no uri-component update Request-URI
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。

# uri-param add

ソース メッセージのヘッダーに URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-param add** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**uri-param add header-name {first | last | all} uri-param-name value**

**no uri-param add header-name {first | last | all} uri-param-name value**

## 構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
<b>first</b>	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最初のパラメータにだけ適用されることを指定します。
<b>last</b>	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最後のパラメータにだけ適用されることを指定します。
<b>all</b>	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順はすべてのパラメータに適用されることを指定します。
<i>uri-param-name</i>	正規化ルールが適用される URI パラメータ名を指定します。
<i>value</i>	追加する値を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ソース メッセージ ヘッダーに URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > uri-param add To all user phone
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization pl  
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> no uri-param add To all user
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。
<b>uri-param remove</b>	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>uri-param update</b>	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定します。

# uri-param add request-uri

ソース メッセージのヘッダーに URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-param add request-uri** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**uri-param add request-uri uri-param-name uri-param-value**

**no uri-param add request-uri uri-param-name uri-param-value**

## 構文の説明

<i>uri-param-name</i>	正規化ルールが適用される URI パラメータ名を指定します。
<i>uri-param-value</i>	URI パラメータに追加する値を指定します。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ソース メッセージ ヘッダーに URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> uri-param add request-uri user phone
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no uri-param add request-uri user
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。

コマンド	説明
<b>uri-param remove</b>	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>uri-param update</b>	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定します。

# uri-param remove

ソース メッセージのヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-param remove** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**uri-param remove** *header-name* {**first** | **last** | **all**} *uri-param-name* *value*

**no uri-param remove** *header-name* {**first** | **last** | **all**} *uri-param-name* *value*

## 構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
<b>first</b>	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最初のパラメータにだけ適用されることを指定します。
<b>last</b>	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最後のパラメータにだけ適用されることを指定します。
<b>all</b>	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順はすべてのパラメータに適用されることを指定します。
<i>uri-param-name</i>	URI パラメータ名を指定します。
<i>value</i>	削除する値を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > uri-param remove request-URI top user
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization pl  
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> no uri-param remove From all tag
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。
<b>uri-param add</b>	ソース メッセージのヘッダー内に URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>uri-param update</b>	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定します。

# uri-param remove request-uri

ソース メッセージのヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-param remove request-uri** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
uri-param remove request-uri uri-param-name
```

```
no uri-param remove request-uri uri-param-name
```

## 構文の説明

*uri-param-name* URI パラメータ名を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > uri-param remove request-uri user
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > no uri-param remove From all tag
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。

コマンド	説明
<b>uri-param add</b>	ソース メッセージのヘッダー内に URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>uri-param update</b>	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定します。

# uri-param update

ソース メッセージのヘッダー内の URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-param update** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
uri-param update header-name {first | last | all} uri-param-name {all | match-string}
replace-string
```

```
no uri-param update header-name {first | last | all} uri-param-name
```

## 構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
<b>first</b>	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最初のパラメータにだけ適用されることを指定します。
<b>last</b>	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最後のパラメータにだけ適用されることを指定します。
<b>all</b>	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順はすべてのパラメータに適用されることを指定します。
<i>uri param-name</i>	ヘッダー パラメータ名を指定します。
<i>match-string</i>	一致する URI パラメータの正規表現文字列を指定します。 <b>all</b> を選択すると、ヘッダー全体が置き換えられます。
<i>replace-string</i>	一致する文字列を置き換える URI パラメータの正規表現文字列を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

**例**

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> uri-param update Route all transport TCP
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm)> no uri-param update To all user
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。
<b>uri-param add</b>	ソース メッセージのヘッダー内に URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>uri-param remove</b>	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定します。

# uri-param update request-uri

ソース メッセージのヘッダー内の URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-param update request-uri** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
uri-param update request-uri uri-param-name {match-string | all} replace-string
```

```
no uri-param update request-uri uri-param-name
```

## 構文の説明

<i>uri param-name</i>	ヘッダー パラメータ名を指定します。
<i>match-string</i>	一致する URI パラメータの正規表現文字列を指定します。 <b>all</b> を選択すると、ヘッダー全体が置き換えられます。
<i>replace-string</i>	一致する文字列を置き換える URI パラメータの正規表現文字列を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > uri-param update Route all transport UDP TCP
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > uri-param update Route all transport all TCP
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > policy normalization p1
se-10-0-0-0 (cusp-config-norm) > no uri-param update From all tag
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>policy normalization</b>	正規化ポリシーを作成します。
<b>uri-param add</b>	ソース メッセージのヘッダー内に URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
<b>uri-param remove</b>	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定します。

■ uri-param update request-uri



## Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コマンド

---

- 「`accounting`」
  - 「`client-side`」
  - 「`enable` (アカウンティング)」
  - 「`event`」
  - 「`header` (アカウンティング)」
  - 「`server-side`」

# accounting

アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **accounting** コマンドを使用します。アカウンティング コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト値に変更するには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

**accounting**

**no accounting**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

RADIUS アカウンティングはイネーブルではありません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始して RADIUS アカウンティングを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct)>
```

次の例では、アカウンティング コンフィギュレーション モードで入力されたすべての値をデフォルト値に戻す方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> no accounting
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>client-side</b>	クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>enable</b> (アカウンティング)	Cisco Unified SIP Proxy で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>event</b>	RADIUS アカウンティング イベントを設定します。
<b>header</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングのヘッダーを設定します。
<b>server-side</b>	サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。

# client-side

クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション モードで **client-side** コマンドを使用します。クライアント側で RADIUS アカウンティングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**client-side**

**no client-side**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

RADIUS のクライアント側アカウンティングはディセーブルです。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション (cusp-config-acct)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

クライアント側アカウンティングとは、REP SIP 要素（この場合は Cisco Unified SIP Proxy）がクライアントとして動作し、要求を送信する（INVITE/BYE を送信する）発信側のアカウンティングのことです。呼のクライアント側のアカウンティングは、全体について（またはノードについて）イネーブルまたはディセーブルに設定できます。イネーブルにした後に、クライアント側のトランザクションで定義されるアカウンティングのトリガーによって、アカウンティングの動作を詳しく定義します。

## 例

次の例では、クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct)> enable
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct)> client-side
```

次の例では、クライアント側で RADIUS アカウンティングをディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct)> no client-side
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>accounting</b>	RADIUS アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>enable</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングをイネーブルまたはディセーブルにします。
<b>event</b>	RADIUS アカウンティング イベントを設定します。

コマンド	説明
<b>header</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングのヘッダーを設定します。
<b>server-side</b>	サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。

# enable (アカウンティング)

Cisco Unified SIP Proxy で RADIUS アカウンティングをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション モードで **enable** コマンドを使用します。RADIUS アカウンティングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**enable**

**no enable**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

RADIUS アカウンティングはディセーブルです。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション (cusp-config-acct)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
-------------------------------	------

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

**enable** コマンドを入力すると、すべてのアカウンティング関連のコマンド設定が有効になります。コマンドが変更されなかった場合、デフォルトの設定値が有効になります。

RADIUS アカウンティングがディセーブルの場合、**client-side** コマンドと **server-side** コマンドがイネーブルの場合でも、アカウンティングは実行されません。RADIUS アカウンティングがイネーブルの場合、**client-side** コマンドがイネーブルの場合はクライアント側でアカウンティングが実行され、**server-side** コマンドがイネーブルの場合はサーバ側で実行されます。

## 例

次の例では、RADIUS アカウンティングをイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct)> enable
```

次の例では、RADIUS アカウンティングをディセーブルにし、Cisco Unified SIP Proxy のその他すべての設定よりも優先する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct)> no enable
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>accounting</b>	RADIUS アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>client-side</b>	クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>event</b>	RADIUS アカウンティング イベントを設定します。

## ■ enable (アカウンティング)

コマンド	説明
<b>header</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングのヘッダーを設定します。
<b>server-side</b>	サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。

# event

RADIUS アカウンティング イベントを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション モードで **event** コマンドを使用します。RADIUS アカウンティング イベントを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event {server | client} {request | response} sequence sequence-number {start | interim | stop | stop-fail} [condition condition]
```

```
no event {server | client} {request | response} sequence sequence-number {start | interim | stop | stop-fail} [condition condition]
```

## 構文の説明

<b>server</b>	サーバ側で RADIUS アカウンティング イベントをイネーブルにします。
<b>client</b>	クライアント側で RADIUS アカウンティング イベントをイネーブルにします。
<b>request</b>	SIP 要求の受信時に発生する RADIUS アカウンティング イベントをイネーブルにします。
<b>response</b>	SIP 応答の受信時に発生する RADIUS アカウンティング イベントをイネーブルにします。
<b>sequence sequence-number</b>	RADIUS アカウンティング イベントのシーケンス番号を指定します。
<b>start</b>	RADIUS アカウンティングの start イベントをイネーブルにします。start イベントは、正常な呼の確立の、INVITE 要求に対する 200 Ok 応答などです。
<b>interim</b>	RADIUS アカウンティングの interim イベントをイネーブルにします。interim イベントは、ダイアログ中の、re-INVITE 要求などです。
<b>stop</b>	RADIUS アカウンティングの stop イベントをイネーブルにします。stop イベントは、正常な呼の完了の、BYE 要求などです。
<b>stop-fail</b>	RADIUS アカウンティングの stop-fail イベントをイネーブルにします。stop-fail イベントは、呼の確立エラーの、INVITE 要求に対する非 200 最終応答などです。
<b>condition condition</b>	(オプション) <b>trigger condition</b> コマンドを使用して設定する条件の名前を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション (cusp-config-acct)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、サーバ トランザクション側で要求を受信したときに、トリガー条件 c1 を満たす場合に送信する RADIUS Start イベントを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct) > event server request sequence 1 start condition c1
```

次の例では、サーバ トランザクション側で応答を受信したときに、無条件に送信される RADIUS Stop イベントを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct) > event client response sequence 1 stop
```

次の例では、要求 トランザクションの start イベントの場合にサーバ側の RADIUS アカウンティングを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct) > no event server request sequence 1 start
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>accounting</b>	RADIUS アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>client-side</b>	クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>enable</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングをイネーブルまたはディセーブルにします。
<b>header</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングのヘッダーを設定します。
<b>server-side</b>	サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>trigger condition</b>	トリガー条件を作成し、Cisco Unified SIP Proxy トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。

## header (アカウンティング)

RADIUS メッセージに含める SIP ヘッダーを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション モードで **header** コマンドを使用します。RADIUS メッセージから SIP ヘッダーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
header header-name {request | response}
```

```
no header header-name {request | response}
```

### 構文の説明

<i>header-name</i>	SIP ヘッダーの名前を指定します。  Cisco Unified SIP Proxy 1.0 では、RADIUS アカウンティング イベントのサポートされる SIP ヘッダーは <b>via</b> ヘッダーだけです。
<b>request</b>	SIP 要求ヘッダーが RADIUS メッセージに含まれることを指定します。
<b>response</b>	SIP 応答ヘッダーが RADIUS メッセージに含まれることを指定します。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション (cusp-config-acct)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して指定したヘッダーは、(**event** コマンドを使用して設定される) **Start** および **Interim** RADIUS メッセージにだけ追加されます。**Stop** メッセージについては、ヘッダーは **Stop-fail** イベントのためにだけ存在します。

### 例

次の例では、要求 SIP メッセージの **via** ヘッダーを RADIUS アカウンティング メッセージに追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct)> header via request
```

次の例では、RADIUS アカウンティング レコードから、要求 SIP メッセージから取得した **via** ヘッダーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct)> no header via request
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>accounting</b>	RADIUS アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始します。
	<b>client-side</b>	クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
	<b>enable</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングをイネーブルまたはディセーブルにします。
	<b>event</b>	RADIUS アカウンティング イベントを設定します。
	<b>server-side</b>	サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。

# server-side

サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション モードで **server-side** コマンドを使用します。サーバ側で RADIUS アカウンティングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**server side**

**no server side**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

RADIUS のサーバ側アカウンティングはディセーブルです。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy アカウンティング コンフィギュレーション (cusp-config-acct)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

サーバ側アカウンティングとは、REP SIP 要素（この場合は Cisco Unified SIP Proxy）がサーバとして動作し、トランザクション要求 12（着信 INVITE/BYE）を受信する着信側のアカウンティングのことです。呼のこちら側のアカウンティングは、全体について（またはノードについて）イネーブルまたはディセーブルに設定できます。イネーブルにする場合、サーバ側のトランザクションで定義されるアカウンティングのトリガーによって、アカウンティングの動作を詳しく定義します。

## 例

次の例では、サーバ側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct)> enable
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct)> server-side
```

次の例では、サーバ側で RADIUS アカウンティングをディセーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config)> accounting
se-10-0-0-0 (cusp-config-acct)> no server-side
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>accounting</b>	RADIUS アカウンティング コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>client-side</b>	クライアント側で RADIUS アカウンティングをイネーブルにします。
<b>enable (アカウンティング)</b>	RADIUS アカウンティングをイネーブルまたはディセーブルにします。

コマンド	説明
<b>event</b>	RADIUS アカウンティング イベントを設定します。
<b>header</b> (アカウンティング)	RADIUS アカウンティングのヘッダーを設定します。



## Cisco Unified SIP Proxy セキュリティ コマンド

---

- 「[crypto key certreq](#)」
- 「[crypto key label default](#)」
- 「[crypto key delete](#)」
- 「[crypto key generate](#)」
- 「[show crypto key](#)」

# crypto key certreq

証明書署名要求 (CSR) を生成して、要求された証明書に署名する認証局をイネーブルにするには、モジュール コンフィギュレーション モードで **crypto key certreq** コマンドを使用します。このコマンドに **no** 形式または **default** 形式はありません。

```
crypto key certreq label label-name url {ftp: | http:}
```

## 構文の説明

<b>label</b> <i>label-name</i>	指定した証明書と秘密キーのペアの CSR を要求します。
<b>url</b> {ftp:   http:}	証明書およびキーの発信元としてリモート サーバを指定します。詳細の入力が求められます。

## コマンド デフォルト

このコマンドには、デフォルトはありません。

## コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

証明書署名要求は、キーの生成後にだけ有効になります。**crypto key** コマンドは Cisco Unified SIP Proxy で使用できないこと、およびモジュール コンフィギュレーション モードで入力する必要があることに注意してください。

## 例

次の例では、証明書署名要求 XXXX を生成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(config)# crypto key certreq label XXXX url ftp:
se-10-0-0-0(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>crypto key default</b>	システムのデフォルトとして証明書と秘密キーのペアを指定します。
<b>crypto key delete</b>	証明書と秘密キーのペアを削除します。
<b>crypto key generate</b>	証明書と秘密キーのペアを生成します。
<b>show crypto key</b>	設定されている証明書と秘密キーのペアを表示します。

# crypto key label default

システムのデフォルトとして証明書と秘密キーのペアを設定するには、モジュール コンフィギュレーション モードで **crypto key default** コマンドを使用します。証明書と秘密キーのペアからシステムのデフォルトの宛先を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**crypto key label *label-name* default**

**no crypto key label *label-name* default**

## 構文の説明

<b>label <i>label-name</i></b>	システムのデフォルトとして設定する証明書と秘密キーのペアの名前。
--------------------------------	----------------------------------

## コマンド デフォルト

このコマンドには、デフォルトはありません。

## コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**crypto key** コマンドは Cisco Unified SIP Proxy で使用できないこと、およびモジュール コンフィギュレーション モードで入力する必要があることに注意してください。

証明書と秘密キーのペアの設定によって、統合メッセージングなどのアプリケーションは、ペアの特定のラベル名を認識していなくても、SSL セキュリティのデフォルトの証明書を使用できます。

システムに複数の証明書と秘密キーのペアが存在し、いずれもシステムのデフォルトではない場合、このコマンドを使用していずれかをシステムのデフォルトに指定します。

ペアの指定を変更するには、このコマンドの **no** 形式を使用して元のペアから指定を削除します。次に、新しいペアに指定を割り当てます。

このコマンドの **no** 形式では、証明書または秘密キーは削除されません。このペアはシステム内に残りますが、システムのデフォルト ペアではなくなります。

証明書と秘密キーのペアのどちらかが存在しない場合、エラー メッセージが表示されます。

## 例

次の例では、システムのデフォルトとして `mainkey.ourcompany` というラベルの証明書と秘密キーのペアを指定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# crypto key label mainkey.ourcompany default
se-10-0-0-0(config)#
```

## ■ crypto key label default

次の例では、システムのデフォルトの指定を証明書とキーのペア `alphakey.myoffice` から `betakey.myoffice` に変更する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# no crypto key label alphakey.myoffice default
se-10-0-0-0(config)# crypto key label betakey.myoffice default
se-10-0-0-0(config)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>crypto key certreq</code>	要求された証明書に署名する認証局をイネーブルにする証明書署名要求 (CSR) を生成します。
<code>crypto key delete</code>	証明書と秘密キーのペアを削除します。
<code>crypto key generate</code>	証明書と秘密キーのペアを生成します。
<code>show crypto key</code>	設定されている証明書と秘密キーのペアを表示します。

# crypto key delete

システムから証明書と秘密キーのペアを削除するには、モジュール コンフィギュレーション モードで **crypto key delete** コマンドを使用します。このコマンドに **no** 形式または **default** 形式はありません。

**crypto key delete** {all | label *label-name*}

構文の説明	all	システム上のすべての証明書と秘密キーのペアを削除します。
	label <i>label-name</i>	指定した証明書と秘密キーのペアを削除します。

**コマンド デフォルト** このコマンドには、デフォルトはありません。

**コマンド モード** モジュール コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **crypto key** コマンドは Cisco Unified SIP Proxy で使用できません。モジュール コンフィギュレーション モードで入力する必要があります。

指定した証明書と秘密キーのペアが存在しない場合、エラー メッセージが表示されます。

**例** 次の例では、mainkey.ourcompany という名前の証明書と秘密キーのペアを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0 (config)# crypto key delete label mainkey.ourcompany
se-10-0-0-0 (config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>crypto key certreq</b>	要求された証明書に署名する認証局をイネーブルにする証明書署名要求 (CSR) を生成します。
	<b>crypto key default</b>	システムのデフォルトとして証明書と秘密キーのペアを指定します。
	<b>crypto key generate</b>	証明書と秘密キーのペアを生成します。
	<b>show crypto key</b>	設定されている証明書と秘密キーのペアを表示します。

# crypto key generate

自己署名証明書と秘密キーを生成するには、モジュール コンフィギュレーション モードで **crypto key generate** コマンドを使用します。このコマンドに **no** 形式または **default** 形式はありません。

**crypto key generate [rsa {label label-name | modulus modulus-size} | default]**

## 構文の説明

<b>rsa</b>	(オプション) 公開キーの暗号化アルゴリズムを指定します。
<b>label label-name</b>	(オプション) 証明書と秘密キーのペアに名前を割り当てます。
<b>modulus modulus-size</b>	(オプション) モジュールのサイズを指定します。これはキーを生成する際の基本の数値です。有効な値は 512 ~ 2048 です。また、8 の倍数にする必要があります。
<b>default</b>	(オプション) 生成された証明書と秘密キーのペアをシステムのデフォルトとして割り当てます。

## コマンド デフォルト

デフォルトの暗号化アルゴリズムは **ras** です。  
デフォルトのラベルの形式は **hostname.domainname** です。

## コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容	
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**crypto key** コマンドは Cisco Unified SIP Proxy で使用できません。モジュール コンフィギュレーション モードで入力する必要があります。

キーワードを選択しない場合、またはラベルを指定しない場合、**hostname.domainname** の形式の名前を使用して証明書と秘密キーのペアが自動的に生成されます。

証明書と秘密キーのペアをシステムのデフォルトとして設定するには、**crypto key generate** コマンドまたは **crypto key label default** コマンドを使用します。

## 例

次の例では、**mainkey.ourcompany** という名前でサイズが **750** の証明書と秘密キーを生成し、生成されたペアをシステムのデフォルトとして割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# crypto key generate label mainkey.ourcompany modulus 750 default
se-10-0-0-0(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>crypto key certreq</b>	要求された証明書に署名する認証局をイネーブルにする証明書署名要求 (CSR) を生成します。
<b>crypto key default</b>	システムのデフォルトとして証明書と秘密キーのペアを指定します。
<b>crypto key delete</b>	証明書と秘密キーのペアを削除します。
<b>show crypto key</b>	設定されている証明書と秘密キーのペアを表示します。

# show crypto key

設定されている証明書と秘密キーのペアを表示するには、モジュール EXEC モードで **show crypto key** コマンドを使用します。

**show crypto key** {all | label *label-name*}

## 構文の説明

<b>all</b>	設定されているすべての証明書と秘密キーのペアを表示します。
<b>label</b> <i>label-name</i>	指定した証明書と秘密キーのペアの特性を表示します。 <i>label-name</i> が存在しない場合、エラーメッセージが表示されます。

## コマンドモード

モジュール EXEC

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 例

次の例は、**show crypto key** コマンドの出力例です。

```
se-10-0-0-0# show crypto key label mainkey.ourcompany

Label name: mainkey.ourcompany [default]
Entry type:Key Entry
Creation date: Mon Jun 10 14:23:09 PDT 2002
Owner: CN=se-1-100-6-10.localdomain, OU='', O='', L='', ST='', C=''
Issuer: CN=se-1-100-6-10.localdomain, OU='', O='', L='', ST='', C=''
Valid from: Mon Jun 10 14:23:06 PDT 2002 until: Sun Sep 08 14:23:06 PDT 2002
```

表 7 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

**表 7** show crypto key のフィールドの説明

フィールド	説明
Label name	証明書と秘密キーのペアの名前です。
Entry type	証明書と秘密キーのペアの指定方法です。
Creation date	証明書と秘密キーのペアを作成した日付です。
Owner	証明書と秘密キーのペアの所有者です。
Issuer	証明書と秘密キーのペアの発行者です。
Valid from	証明書と秘密キーのペアの有効期間です。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>crypto key certreq</b>	要求された証明書に署名する認証局をイネーブルにする証明書署名要求 (CSR) を生成します。
<b>crypto key default</b>	システムのデフォルトとして証明書と秘密キーのペアを指定します。

コマンド	説明
<code>crypto key delete</code>	証明書と秘密キーのペアを削除します。
<code>crypto key generate</code>	証明書と秘密キーのペアを生成します。

■ show crypto key



## Cisco Unified SIP Proxy のモジュール コマンド

---

- 「[backup \(モジュール\)](#)」
- 「[backup category](#)」
- 「[backup security key](#)」
- 「[backup security enforced](#)」
- 「[backup security protected](#)」
- 「[backup server authenticate](#)」
- 「[clock timezone](#)」
- 「[continue](#)」
- 「[copy core](#)」
- 「[copy ftp:](#)」
- 「[copy ftp: configuration active](#)」
- 「[hostname](#)」
- 「[interface gigabitethernet](#)」
- 「[ip address](#)」
- 「[ip broadcast-address](#)」
- 「[ip tcp keepalive-time](#)」
- 「[license activate ports](#)」
- 「[license clear](#)」
- 「[license install](#)」
- 「[license modify priority](#)」
- 「[license revoke](#)」
- 「[license save](#)」
- 「[log console](#)」
- 「[log console monitor](#)」
- 「[log server](#)」
- 「[log trace boot](#)」
- 「[log trace buffer save](#)」

- 「ntp server」
- 「offline」
- 「reload」
- 「restore」
- 「restore factory default」
- 「security ssh known-hosts」
- 「show backup」
- 「show backup history」
- 「show backup server」
- 「show clock detail」
- 「show interfaces」
- 「show logs」
- 「show ntp associations」
- 「show ntp servers」
- 「show ntp source」
- 「show ntp status」
- 「show process」
- 「show running-config」
- 「show security ssh known-hosts」
- 「show software」
- 「show trace log」
- 「show startup-config」
- 「show version」
- 「software download abort」
- 「software download clean」
- 「software download server」
- 「software download status」
- 「software download upgrade」
- 「software install clean」
- 「software install downgrade」
- 「software install upgrade」
- 「software remove」
- 「write」

# backup (モジュール)

バックアップ パラメータを設定するには、モジュール コンフィギュレーション モードで **backup** コマンドを使用します。リビジョンの番号またはバックアップ サーバの URL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
backup {revisions number | server url ftp-url username ftp-username password
        ftp-password}
```

```
no backup {revisions number | server url ftp-url}
```

## 構文の説明

<b>revisions</b> <i>number</i>	Cisco Unified SIP Proxy データベースに保存されているリビジョン ファイルの番号です。
<b>server url</b> <i>ftp-url</i>	バックアップ ファイルが保存される FTP (またはセキュア FTP) サーバの URL です。
<b>username</b> <i>ftp-username</i>	FTP (またはセキュア FTP) サーバへのアクセスに必要なユーザ ID です。
<b>password</b> <i>ftp-password</i>	FTP (またはセキュア FTP) サーバへのアクセスに必要なパスワードです。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

ファイルをバックアップするには、まずこれらのパラメータを設定します。

保存するファイルの数を設定するときは、各バックアップ ファイルに必要な記憶域の容量を考慮してください。設定した数に達すると、保存されている最も古いバックアップ ファイルは次のバックアップ ファイルで上書きされます。

システムは、バックアップ ファイルに自動的に番号と日付を割り当て、**backupid** フィールドでリビジョン番号を識別します。ファイルを復元するときは、このバックアップ ID 値を参照してください。

実行するバックアップのタイプとタイミングが異なると、データ バックアップとコンフィギュレーション バックアップのバックアップ ID も異なります。たとえば、最後のデータ バックアップの ID が 3 で、最後のコンフィギュレーション バックアップの ID が 4 だとします。**all** バックアップを実行すると、データとコンフィギュレーションの両方のバックアップ ID が 5 になる場合があります。さまざまなバックアップのタイプについては、「[backup category](#)」コマンドを参照してください。

セキュア FTP の場合、URL は `sftp://...` という形式になります。

**backup** コマンドには、モジュール コンフィギュレーション モードでのコマンドと、オフライン EXEC モードでのコマンドの 2 種類があります。

## ■ backup (モジュール)

**backup** (モジュール) コマンドが設定されておらず、**backup** (オフライン EXEC) コマンドも設定されていない場合、このコマンドは失敗します。

**backup** (モジュール) コマンドが設定されていて、**backup** (オフライン EXEC) コマンドが設定されていない場合は、**backup** (モジュール) コマンドが使用されます。

**backup** (モジュール) コマンドが設定されておらず、**backup** (オフライン EXEC) コマンドが設定されている場合は、**backup** (オフライン EXEC) コマンドが使用されます。

両方のコマンドが設定されている場合は、**backup** (オフライン EXEC) コマンドが使用されます。

## 例

次の例では、FTP サーバ /branch/vmbackups で 7 つのリビジョンを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0> enable
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)> backup revisions 7
se-10-0-0-0(config)> backup server url ftp://branch/vmbackups username admin password
mainserver
```

次の例では、セキュア FTP サーバ /vmbackups で 5 つのリビジョンを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0> enable
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)> backup revisions 7
se-10-0-0-0(config)> backup server url sftp://vmbackups username admin password mainserver
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>backup category</b>	バックアップするデータのタイプを指定します。
<b>show backup history</b>	バックアップするファイルの統計情報を表示します。
<b>show backup server</b>	バックアップ ファイルを保存するよう設定した FTP サーバを表示します。

# backup category

バックアップするデータのタイプを指定するには、オフライン モードで **backup category** コマンドを使用します。

**backup category {all | configuration | data}**

## 構文の説明

<b>all</b>	すべてのデータをバックアップします。
<b>configuration</b>	システムおよびアプリケーションの設定だけをバックアップします。
<b>data</b>	ボイスメール メッセージおよびアプリケーション データだけをバックアップします。

## コマンド デフォルト

すべてのデータがバックアップされます。

## コマンド モード

オフライン

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、Cisco Unified SIP Proxy データのタイプを示します。

## 例

次の例では、すべてのバックアップ カテゴリを示しています。

```
se-10-0-0-0> enable
se-10-0-0-0# offline
!!!WARNING!!!: Putting the system offline will terminate all active calls.
Do you wish to continue[n]? : y
se-10-0-0-0 (offline)# backup category all
se-10-0-0-0 (offline)# continue
se-10-0-0-0#
```

```
se-10-0-0-0> enable
se-10-0-0-0# offline
!!!WARNING!!!: Putting the system offline will terminate all active calls.
Do you wish to continue[n]? : y
se-10-0-0-0 (offline)# backup category configuration
se-10-0-0-0 (offline)# continue
se-10-0-0-0#
```

```
se-10-0-0-0> enable
se-10-0-0-0# offline
!!!WARNING!!!: Putting the system offline will terminate all active calls.
Do you wish to continue[n]? : y
se-10-0-0-0 (offline)# backup category data
se-10-0-0-0 (offline)# continue
se-10-0-0-0#
```

## ■ backup category

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>continue</b>	バックアップまたは復元プロセスをアクティブ化します。
<b>offline</b>	Cisco Unified SIP Proxy オフライン モードを開始します。
<b>show backup history</b>	バックアップするファイルの詳細を表示します。
<b>show backup server</b>	バックアップ サーバの詳細を表示します。

# backup security key

バックアップ ファイルの暗号化および署名に使用するマスター キーの作成または削除を行うには、モジュール コンフィギュレーション モードで **backup security key** コマンドを使用します。

## backup security key {generate | delete}

構文の説明	generate	delete
	マスター キーを作成します。	マスター キーを削除します。

**コマンド デフォルト** キーは設定されていません。

**コマンド モード** モジュール コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **backup security key** コマンドを使用して、バックアップ ファイルの暗号化および署名に使用するマスター キーを作成または削除します。バックアップ セキュリティ キーを作成するときに、パスワードの入力を求められます。このパスワードからキーが作成されます。

このコマンドは、**write** コマンドを使用するときに、スタートアップ コンフィギュレーションに保存されません。

**例** 次の例では、マスター キーの作成方法を示します。

```
se-10-0-0-0(config)> backup security key generate
Please enter the password from which the key will be derived: *****
```

次の例では、マスター キーの削除方法を示します。

```
se-10-0-0-0(config)> backup security key delete
You have a key with magic string cfbdbbee
Do you want to delete it [y/n]?:
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>backup security enforced</b>	保護されているバックアップ ファイルおよび改ざんされていないバックアップ ファイルだけが復元可能であることを指定します。
	<b>backup security protected</b>	バックアップに対してセキュア モードをイネーブルにします。
	<b>write</b>	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

# backup security enforced

保護されているバックアップ ファイルおよび改ざんされていないバックアップ ファイルだけが復元できることを指定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **backup security enforced** コマンドを使用します。

## backup security enforced

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

次のタイプのバックアップ ファイルがすべて復元されます。

- 非保護 (クリア)
- 保護
- 改ざんなし

### コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **backup security key generate** コマンドを使用してバックアップセキュリティ キーを生成する必要があります。

保護されているバックアップ ファイルおよび改ざんされていないバックアップ ファイルだけが復元できることを指定するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **backup security enforced** コマンドを使用します。デフォルトでは、システムにより、保護されているバックアップ ファイルおよび改ざんされていないバックアップ ファイル以外に、保護されていない (クリア) バックアップ ファイルも復元されます。

### 例

次の例では、保護されているバックアップ ファイルおよび改ざんされていないバックアップ ファイルだけが復元可能であることを指定する方法を示しています。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# backup security enforced
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>backup security key generate</b>	バックアップ ファイルの暗号化および署名に使用するマスター キーを作成または削除します。
<b>backup security protected</b>	バックアップ に対してセキュア モードをイネーブルにします。

# backup security protected

バックアップに対してセキュア モードをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **backup security protected** コマンドを使用します。

## backup security protected

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

バックアップ ファイルは、リモート サーバに非保護モードで保存されます。

### コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **backup security key generate** コマンドを使用してバックアップ セキュリティ キーを生成する必要があります。

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **backup security protected** コマンドを使用して、バックアップに対してセキュア モードをイネーブルにします。セキュア モードでは、すべてのバックアップ ファイルが暗号化および署名を使用して保護されます。

### 例

次の例では、バックアップに対してセキュア モードをイネーブルにする方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# backup security protected
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>backup security enforced</b>	保護されているバックアップ ファイルおよび改ざんされていないバックアップ ファイルだけが復元可能であることを指定します。
<b>backup security key generate</b>	バックアップ ファイルの暗号化および署名に使用するマスター キーを作成または削除します。

# backup server authenticate

バックアップ サーバのホスト キーのフィンガープリントを取得するには、モジュール コンフィギュレーション モードで **backup server authenticate** コマンドを使用します。

## backup server authenticate

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

このコマンドには、デフォルト値はありません。

### コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

モジュール コンフィギュレーション モードで **backup server authenticate** コマンドを使用して、バックアップ サーバのホスト キーのフィンガープリントを取得します。このコマンドを使用するには、まずバックアップ サーバの URL およびログイン クレデンシヤルを設定する必要があります。バックアップ サーバの URL は「sftp://」で始まる必要があります。バックアップ サーバからフィンガープリントを取得した後、ユーザに確認のメッセージが表示されます。

このコマンドが受け入れられると、フィンガープリントは「**backup server authenticate fingerprint fingerprint-string**」の形で実行コンフィギュレーションに保存されます。**write** コマンドを使用する場合、このコマンドはスタートアップ コンフィギュレーションに保存されません。

### 例

次の例では、バックアップ サーバのホスト キーのフィンガープリントを取得する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# backup server authenticate
The fingerprint of host 10.30.30.100 (key type ssh-rsa) is:
  a5:3a:12:6d:e9:48:a3:34:be:8f:ee:50:30:e5:e6:c3
Do you want to accept it [y/n]?
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>security ssh known-hosts</b>	SSH サーバのホスト キーの MD5 フィンガープリントを設定します。
<b>show security ssh</b>	設定されている SSH サーバとそのフィンガープリントの一覧を表示します。
<b>write</b>	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

# clock timezone

Cisco Unified SIP Proxy サービス モジュールの時間帯を設定するには、モジュール EXEC モードで **clock timezone** コマンドを使用します。

**clock timezone** [*time-zone*]

**構文の説明** *time-zone* (オプション) ローカル ブランチの時間帯を指定します。

**コマンド モード** モジュール EXEC (>)

**コマンド履歴** **Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**  
1.0 このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** 設定されている NTP サーバが日付スタンプ システムおよびアプリケーション機能を提供します。**clock timezone** コマンドは、Cisco Unified SIP Proxy がインストールされる現地時間帯を指定します。時間帯の表現がわかる場合は、その表現を *time-zone* 値に入力します。時間帯の表現が不明の場合は、*time-zone* 値を空白にし、表示される一連のメニューに従って時間帯選択プロセスを進めます。

**例** 次の例では、時間帯のメニューを使用して米国太平洋時間を選択する方法を示しています。

```
se-10-0-0-0 (config)> clock timezone
Please identify a location so that time zone rules can be set correctly.
Please select a continent or ocean.
1) Africa                4) Arctic Ocean        7) Australia            10) Pacific Ocean
2) Americas              5) Asia                8) Europe
3) Antarctica           6) Atlantic Ocean     9) Indian Ocean
>? 2
Please select a country.
1) Anguilla              18) Ecuador            35) Paraguay
2) Antigua & Barbuda    19) El Salvador       36) Peru
3) Argentina            20) French Guiana     37) Puerto Rico
4) Aruba                 21) Greenland         38) St Kitts & Nevis
5) Bahamas              22) Grenada           39) St Lucia
6) Barbados             23) Guadeloupe       40) St Pierre & Miquelon
7) Belize               24) Guatemala         41) St Vincent
8) Bolivia              25) Guyana            42) Suriname
9) Brazil                26) Haiti             43) Trinidad & Tobago
10) Canada              27) Honduras          44) Turks & Caicos Is
11) Cayman Islands     28) Jamaica           45) United States
12) Chile               29) Martinique        46) Uruguay
13) Colombia            30) Mexico            47) Venezuela
14) Costa Rica          31) Montserrat        48) Virgin Islands (UK)
15) Cuba                32) Netherlands Antilles 49) Virgin Islands (US)
16) Dominica           33) Nicaragua
17) Dominican Republic 34) Panama
>? 45
Please select one of the following time zone regions.
1) Eastern Time
2) Eastern Time - Michigan - most locations
```

## clock timezone

```

3) Eastern Time - Kentucky - Louisville area
4) Eastern Standard Time - Indiana - most locations
5) Central Time
6) Central Time - Michigan - Wisconsin border
7) Mountain Time
8) Mountain Time - south Idaho & east Oregon
9) Mountain Time - Navajo
10) Mountain Standard Time - Arizona
11) Pacific Time
12) Alaska Time
13) Alaska Time - Alaska panhandle
14) Alaska Time - Alaska panhandle neck
15) Alaska Time - west Alaska
16) Aleutian Islands
17) Hawaii
>? 11

```

The following information has been given:

```

United States
Pacific Time

```

```

Therefore TZ='America/Los_Angeles' will be used.
Local time is now:      Fri Dec 24 10:41:28 PST 2004.
Universal Time is now:  Fri Dec 24 18:41:28 UTC 2004.
Is the above information OK?
1) Yes
2) No
>? 1
se-10-0-0 (config)>

```

次の例では、時間帯の名前を使用して米国太平洋時間を選択する方法を示しています。

```
se-10-0-0-0 (config)> clock timezone Americas/Los_Angeles
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ntp server</b>	NTP サーバを指定します。
<b>show clock detail</b>	クロックの詳細を表示します。

# continue

Cisco Unified SIP Proxy システムをオンライン モードに戻すには、モジュール オフライン モードで **continue** コマンドを使用します。

## continue

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

システムはオフライン モードのままです。

### コマンド モード

モジュール オフライン (offline)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、Cisco Unified SIP Proxy システムを以前のオンライン モードに戻すか (バックアップ手順の後など)、または工場出荷時のデフォルト設定の復元を中止します。システムは、新しいコールおよびボイス メッセージの処理を開始します。Cisco Unified SIP Proxy は引き続きオフライン モードでコールをルーティングします。

### 例

次の例では、バックアップ手順での **continue** コマンドの使用例を示します。

```
se-10-0-0-0# offline
!!!WARNING!!!: Putting the system offline will terminate all active calls.
Do you wish to continue[n]? : y
se-10-0-0-0 (offline)# backup category data
se-10-0-0-0 (offline)# continue
se-10-0-0-0#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>backup</b>	バックアップするデータを指定します。
<b>offline</b>	すべてのアクティブ コールを終了し、新しいコールが Cisco Unified SIP Proxy アプリケーションに接続しないようにします。
<b>reload</b>	Cisco Unified SIP Proxy システムを再起動します。
<b>restore</b>	復元するファイルを指定します。
<b>restore factory default</b>	システムを工場出荷時のデフォルト値に戻します。

# copy core

コア ファイルをリモート URL にコピーするには、モジュール EXEC モードで **copy core** コマンドを使用します。

```
copy core core-name url ftp/http url
```

構文の説明	<i>core-name</i>	コア ファイル名
	<i>ftp/http url</i>	FTP/HTTP アドレス

コマンド デフォルト なし

コマンド モード モジュール EXEC (>)

コマンド履歴	Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 標準の FTP URL 形式がサポートされます。  
`ftp://[user-id:ftp-password@]ftp-server-address[/directory]`

例 次のコマンドは、コアを `ftp://anonymous@ftp.nowhere.com/pub/` にコピーします。  
`se-Module (exec-helloworld) > copy core test-file2 url ftp://anonymous@ftp.example.com/pub/`

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>copy ftp:</b>	新しいコンフィギュレーションを FTP サーバから別の Cisco Unified SIP Proxy ロケーションにコピーします。
	<b>show cores</b>	すべてのコア ファイルを表示します。

## copy ftp:

新しいコンフィギュレーションを FTP サーバから別の Cisco Unified SIP Proxy ロケーションにコピーするには、モジュール EXEC モードで **copy ftp:** コマンドを使用します。

**copy ftp:** {nvram:startup-config | running-config | startup-config | system:running-config}

### 構文の説明

<b>nvram:startup-config</b>	新しいコンフィギュレーションを NVRAM に保存されたコンフィギュレーションにコピーします。
<b>running-config</b>	新しいコンフィギュレーションを現在の実行コンフィギュレーションにコピーします。
<b>startup-config</b>	新しいコンフィギュレーションをフラッシュ メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
<b>system:running-config</b>	新しいコンフィギュレーションをシステム コンフィギュレーションにコピーします。

### コマンドモード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

FTP サーバからコピーするとき、**copy ftp:** コマンドはインタラクティブになり、ユーザに情報の入力を求めます。

サーバが匿名の FTP 入力を受け入れるように設定されていない場合は、サーバの IP アドレスにユーザ名とパスワードを追加できます。形式は、*userid:password@ftp-server-address/directory* のようになります。

*directory* 値を指定しない場合、ソフトウェアではデフォルトの FTP ディレクトリが使用されます。

**copy ftp:** コマンドは、Cisco Unified SIP Proxy 関連のコンフィギュレーションをコピーしません。Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションをコピーするには、**copy ftp: configuration active** コマンドを使用します。

### 例

次の例では、start という名前のコンフィギュレーション ファイルを、FTP サーバのデフォルトディレクトリから NVRAM のスタートアップ コンフィギュレーションにコピーする方法を示します。

```
se-10-0-0-0# copy ftp: nvram:startup-config
Address or name of remote host []? admin:voice@10.3.61.16
Source filename []? start
```

## ■ copy ftp:

次の例では、FTP サーバの **configs** ディレクトリにある **start** という名前のファイルをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーする方法を示します。

```
se-10-0-0-0# copy ftp: startup-config
!!!WARNING!!! This operation will overwrite your startup configuration.
Do you wish to continue[y]? y
Address or name or remote host? admin:voice@10.3.61.16/configs
Source filename? start
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy ftp: configuration active</b>	新しい Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを FTP サーバから別の Cisco Unified SIP Proxy ロケーションにコピーします。
<b>write</b>	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

# copy ftp: configuration active

新しい Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを FTP サーバから別の Cisco Unified SIP Proxy ロケーションにコピーするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **copy ftp: configuration active** コマンドを使用します。

## copy ftp: configuration active

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

FTP サーバからコピーするとき、**copy ftp: configuration active** コマンドはインタラクティブになり、ユーザに情報の入力を求めます。

サーバが匿名の FTP 入力を受け入れるように設定されていない場合は、サーバの IP アドレスにユーザ名とパスワードを追加できます。形式は、*userid:password@ftp-server-address/directory* のようになります。

*directory* 値を指定しない場合、ソフトウェアではデフォルトの FTP ディレクトリが使用されます。

### 例

次の例では、*start* という名前のコンフィギュレーション ファイルを、FTP サーバのデフォルト ディレクトリから NVRAM のスタートアップ コンフィギュレーションにコピーする方法を示します。

```
se-10-0-0-0# copy ftp: nvram:startup-config
Address or name of remote host []? admin:voice@10.3.61.16
Source filename []? start
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy ftp:</b>	新しいコンフィギュレーションを FTP サーバから別の Cisco Unified SIP Proxy ロケーションにコピーします。



インターフェイスの最初のバインディングにより **ipaddr** が提供されます。たとえば、デフォルトでインターフェイス **eth0** が各仮想インスタンスにバインドされている場合、**ipaddr** は通常 **eth0** です。複数バインドには、**bind interface** コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>bind interface</b>	アプリケーション環境にデバイスを追加します。

# interface gigabitethernet

Cisco Unified SIP Proxy モジュールの仮想インターフェイスを作成するには、モジュール コンフィギュレーション モードで **interface gigabitethernet** コマンドを使用します。仮想インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface gigabitethernet interface.vid
```

```
no interface gigabitethernet interface.vid
```

## 構文の説明

<i>interface</i>	物理インターフェイス。
<i>vid</i>	VLAN ID。有効な値は 0 ~ 4094 です。たとえば、 <b>gig 0.345</b> は VLAN 345 上にあります。

## コマンド デフォルト

インターフェイスは作成されません。

## コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

物理インターフェイスごとに、最大 8 つの仮想インターフェイスを作成できます。

## 例

次の例では、仮想インターフェイスを作成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# interface gigabitethernet 0.1
```

次の例では、仮想インターフェイスを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# no interface gigabitethernet 0.1
```

# ip address

ネットワーク インターフェイスの IP アドレスを構成するには、モジュール インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip address** コマンドを使用します。IP アドレス インターフェイス コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip address** *ip-address subnet-mask*

**no ip address** *ip-address subnet-mask*

## 構文の説明

<i>ip-address</i>	IP アドレスを設定します。
<i>subnet-mask</i>	サブネット マスクを設定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

モジュール インターフェイス コンフィギュレーション (config-subif)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容	
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、指定したネットワーク インターフェイスの IP アドレスとネットワーク マスクを設定します。バインドされているインターフェイスの IP アドレスを変更すると、アプリケーションがインターフェイスにバインドされていることを警告するメッセージがユーザに表示されます。古い IP コンフィギュレーションを削除するには、仮想インスタンスをリセットします。

## 例

次の例では、ギガビット イーサネット インターフェイス 0.1 の IP アドレスを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# interface gigabitethernet 0.1
se-10-0-0-0(config-subif)# ip address 1.1.1.1 255.255.255.0
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>interface gigabitethernet</b>	Cisco Unified SIP Proxy モジュールの仮想インターフェイスを作成します。

# ip broadcast-address

インターフェイスのブロードキャストアドレスを定義するには、モジュール インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip broadcast-address** コマンドを使用します。デフォルトの IP ブロードキャストアドレスを復元するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip broadcast-address** *ip-address*

**no ip broadcast-address** *ip-address*

## 構文の説明

*ip-address* ネットワークの IP ブロードキャストアドレス。

## コマンド デフォルト

デフォルト アドレス : 255.255.255.255 (すべて 1)

## コマンド モード

モジュール インターフェイス コンフィギュレーション (config-subif)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0 このコマンドが追加されました。

## 例

次の例では、IP ブロードキャスト アドレス 0.0.0.0 を指定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# interface gigabitethernet 0.1
se-10-0-0-0(config-subif)# ip broadcast-address 0.0.0.0
```

# ip tcp keepalive-time

キープアライブ プローブを送信する前に許可される経過アイドル時間を設定するには、モジュール コンフィギュレーション モードで **ip tcp keepalive-time** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip tcp keepalive-time** *seconds*

**no ip tcp keepalive-time** *seconds*

## 構文の説明

*seconds* 秒単位の時間。

## コマンド デフォルト

7200 秒

## コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 例

次の例では、キープアライブ時間を 2000 秒に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# ip tcp keepalive-time 2000
```

次の例では、キープアライブ時間をデフォルト値の 7200 秒に設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# no ip tcp keepalive-time
```

# license activate ports

license activate ports コマンドの詳細については、『*Cisco Unity Express Command Reference for 3.0 and Later Versions*』を参照してください。このマニュアルは、次の URL から入手できます。  
[http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice\\_ip\\_comm/unity\\_exp/rel3\\_2/Command/l\\_cmds.html#wp1039060](http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice_ip_comm/unity_exp/rel3_2/Command/l_cmds.html#wp1039060)

# license clear

**license clear** コマンドの詳細については、『*Cisco Unity Express Command Reference for 3.0 and Later Versions*』を参照してください。このマニュアルは次の URL から参照できます。  
[http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice\\_ip\\_comm/unity\\_exp/rel3\\_2/Command/l\\_cmds.html#wp1026070](http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice_ip_comm/unity_exp/rel3_2/Command/l_cmds.html#wp1026070)

# license install

**license install** コマンドの詳細については、『*Cisco Unity Express Command Reference for 3.0 and Later Versions*』を参照してください。このマニュアルは次の URL から参照できます。  
[http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice\\_ip\\_comm/unity\\_exp/rel3\\_2/Command/l\\_cmds.html#wp1031262](http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice_ip_comm/unity_exp/rel3_2/Command/l_cmds.html#wp1031262)

# license modify priority

**license modify priority** コマンドの詳細については、『*Cisco Unity Express Command Reference for 3.0 and Later Versions*』を参照してください。このマニュアルは次の URL から参照できます。  
[http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice\\_ip\\_comm/unity\\_exp/rel3\\_2/Command/l\\_cmds.html#wp1031346](http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice_ip_comm/unity_exp/rel3_2/Command/l_cmds.html#wp1031346)

# license revoke

**license revoke** コマンドの詳細については、『*Cisco Unity Express Command Reference for 3.0 and Later Versions*』を参照してください。このマニュアルは次の URL から参照できます。  
[http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice\\_ip\\_comm/unity\\_exp/rel3\\_2/Command/l\\_cmds.html#wp1032441](http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice_ip_comm/unity_exp/rel3_2/Command/l_cmds.html#wp1032441)

# license save

**license save** コマンドの詳細については、『*Cisco Unity Express Command Reference for 3.0 and Later Versions*』を参照してください。このマニュアルは次の URL から参照できます。  
[http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice\\_ip\\_comm/unity\\_exp/rel3\\_2/Command/l\\_cmds.html#wp1032614](http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice_ip_comm/unity_exp/rel3_2/Command/l_cmds.html#wp1032614)

# log console

コンソールに表示されるメッセージ タイプを設定するには、モジュール コンフィギュレーション モードで **log console** コマンドを使用します。メッセージが表示されないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**log console {errors | info | warning}**

**no log console {errors | info | warning}**



## 注意

このコマンドを使用すると、表示をオフにするまで、画面を下方向にスクロールする多くの画面メッセージが生成されます。プロンプトを表示して、この表示をオフにすることは容易ではない場合があります。Ctrl キーを押した状態で C キーを押しても、このコマンドには有効ではありません。

## 構文の説明

<b>errors</b>	エラー メッセージ。
<b>info</b>	情報メッセージ。
<b>warning</b>	警告メッセージ。

## コマンド デフォルト

重大エラー メッセージだけが表示されます。

## コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

コンソール ディスプレイのメッセージは messages.log ファイルにも保存されるため、これらのメッセージをデバッグに利用できます。

## 例

次の例では、エラー メッセージがコンソールに表示されるように設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# log console errors
se-10-0-0-0(config)# exit
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show logging</b>	コンソールに表示されるメッセージ タイプを表示します。

# log console monitor

コンソールにシステム メッセージを表示するには、モジュール EXEC モードで **log console monitor** コマンドを使用します。メッセージが表示されないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**log console monitor** {*module* | *entity* | *activity*}

**no log console monitor** {*module* | *entity* | *activity*}



**注意**

このコマンドを使用すると、表示をオフにするまで、画面を下方方向にスクロールする多くの画面メッセージが生成されます。プロンプトを表示して、この表示をオフにすることは容易ではない場合があります。Ctrl キーを押した状態で C キーを押しても、このコマンドには有効ではありません。

## 構文の説明

<i>module</i>	Cisco Unified SIP Proxy モジュール。
<i>entity</i>	Cisco Unified SIP Proxy モジュールのエンティティ。
<i>activity</i>	Cisco Unified SIP Proxy エンティティのアクション。

## コマンド デフォルト

重大エラー メッセージだけが表示されます。

## コマンド モード

モジュール EXEC (>)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容	
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

コンソール モニタのメッセージは messages.log ファイルにも保存されるため、これらのメッセージをデバッグに利用できます。

## 例

次の例では、ネットワーキング モジュールのデータベース エンティティの結果のメッセージを表示する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# log console monitor networking database results
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show logging</b>	コンソールに表示されるメッセージタイプを表示します。

# log server

ログメッセージを保存するための外部サーバを設定するには、モジュール コンフィギュレーション モードで **log server** コマンドを使用します。ログサーバを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**log server address** {*ip-address* | *hostname*}

**no log server address** {*ip-address* | *hostname*}

## 構文の説明

<b>address</b> <i>ip-address</i>	外部ログ サーバの IP アドレスです。
<b>address</b> <i>hostname</i>	外部ログ サーバのホスト名です。

## コマンド デフォルト

外部ログ サーバは設定されていません。ログメッセージの保存には、ローカル ハード ディスクが使用されます。

## コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

外部ログ サーバには、Cisco Unified SIP Proxy モジュールを含むルータのハードディスクに保存される `messages.log` ファイルのコピーが含まれます。ファイルをサーバにコピーすると、システム メッセージの表示、印刷、トラブルシューティングを柔軟に行えるようになります。

## 例

次の例では、10.1.61.16 を外部ログ サーバとして割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# log server address 10.1.61.16
se-10-0-0-0(config)# exit
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>hostname</b>	Cisco Unified SIP Proxy アプリケーションを保存するサーバを指定します。
<b>ntp server</b>	NTP クロッキング サーバを指定します。
<b>show hosts</b>	すべての設定されているホストを表示します。

# log trace boot

リポート時にトレース コンフィギュレーションを保存するには、モジュール EXEC モードで **log trace boot** コマンドを使用します。

## log trace boot

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容	
1.0	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

トレースは CPU を集中的に使用するため、現在のトレース コンフィギュレーションはリポート時に失われます。モジュールの再起動時に現在のトレース コンフィギュレーションが保存されるようにするには、**log trace boot** コマンドを使用します。

### 例

次の例は、**log trace boot** コマンドの例です。

```
se-10-0-0-0# log trace boot
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show trace</b>	トレースされているモジュールおよびエンティティを表示します。

# log trace buffer save

現在のトレース情報を保存するには、モジュール EXEC モードで **log trace buffer save** コマンドを使用します。ログトレースをオフにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**log trace buffer save**

**no log trace buffer**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

モジュール EXEC (>)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

メモリバッファに保存されている現在のトレース情報をファイルに保存できます。**log trace buffer save** コマンドで作成されるファイルは `atrace_save.log` です。

## 例

次の例では、**log trace buffer save** コマンドの使用例を示します。

```
se-10-0-0-0# log trace buffer save
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show logs</b>	トレース ログのリストを表示します。
<b>show trace buffer</b>	トレースされているモジュールおよびエンティティを表示します。

# ntp server

Cisco Unified SIP Proxy アプリケーションのシステム クロックをリモートの Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) サーバと同期させるには、モジュール コンフィギュレーション モードで **ntp server** コマンドを使用します。Cisco Unified SIP Proxy アプリケーションのシステム クロックが NTP サーバと同期しないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ntp server {hostname | ip-address} [prefer]
```

```
no ntp server {hostname | ip-address}
```

## 構文の説明

<i>hostname</i>	NTP サーバのホスト名です。
<i>ip-address</i>	NTP サーバの IP アドレスです。
<b>prefer</b>	(オプション) サーバを優先として指定します。

## コマンド デフォルト

デフォルトは、サーバの IP アドレスです。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

このコマンドを **clock timezone** コマンドと併せて使用して、Cisco Unified SIP Proxy システムおよびアプリケーションの時間関連機能を設定します。

**prefer** オプションは、正しく動作している一連のホストの中から指定したサーバが同期用として選択されたことを示します。



### 注意

**no ntp server** コマンドは、NTP サーバのホスト名または IP アドレスを削除します。このコマンドの使用には注意が必要です。

## 例

次の例では、アドレス 192.168.1.100 のサーバを優先 NTP サーバとして割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (config)> ntp server 192.168.1.100 prefer
```

次の例では、ホスト名が main\_ntp のサーバを NTP サーバとして割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (config)> ntp server main_ntp
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clock timezone</b>	現地時間帯を設定します。
<b>show clock detail</b>	現在のクロック統計情報を表示します。
<b>show ntp source</b>	現在の NTP サーバ統計情報を表示します。

# offline

バックアップおよび復元手順の環境を開始するには、モジュール EXEC モードで **offline** コマンドを使用します。

## offline

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

バックアップおよび復元手順を開始する前に、コール アクティビティを停止する必要があります。**offline** コマンドは、すべてのアクティブ コールを終了し、新しいコールが受け付けられないようにします。コール アクティビティが最小限の場合のこの手順のスケジューリングを検討してください。

**offline** コマンドは、バックアップまたは復元手順を開始しません。これらの手順を開始するには、**backup** および **restore** コマンドを使用します。

### 例

次の例では、**offline** コマンドの使用例を示します。

```
se-10-0-0-0> enable
se-10-0-0-0# offline
!!!WARNING!!!: Putting the system offline will terminate all active calls.

Do you wish to continue[n]? : y
se-10-0-0-0(offline)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>backup</b>	バックアップするデータを選択し、バックアップ プロセスを開始します。
<b>continue</b>	オフライン モードを終了し、モジュール EXEC モードに戻ります。
<b>restore</b>	復元するデータを選択し、復元プロセスを開始します。

# reload

Cisco Unified SIP Proxy システムを再起動するには、モジュール オフライン モードで **reload** コマンドを使用します。

## reload

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

モジュール オフライン (offline)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、次の状況で使用します。

- Cisco Unified SIP Proxy システムを再起動するための **shutdown** コマンドの後。
- アップロードされたファイル情報をアクティブ化するための **restore** コマンドの後。

### 例

次の例では、復元手順後の **reload** コマンドの使用例を示します。

```
se-10-0-0-0# offline
se-10-0-0-0 (offline)# restore id data3 category data
se-10-0-0-0 (offline)# reload
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>backup</b>	システムおよびアプリケーション データをバックアップ サーバにバックアップします。
<b>continue</b>	オフライン モードを終了し、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードに戻ります。
<b>offline</b>	Cisco Unified SIP Proxy システムをオフライン モードに切り替えます。
<b>restore</b>	バックアップ サーバからバックアップ ファイルを復元します。

# restore

バックアップ ファイルを復元するには、モジュール オフライン モードで **restore** コマンドを使用します。

```
restore id backup-id category {all | configuration | data}
```

## 構文の説明

<b>id backup-id</b>	復元するファイルの ID 番号を指定します。
<b>category</b>	復元するファイル タイプの名前の前に付けます。
<b>all</b>	復元するファイルにシステムとアプリケーションの設定、アプリケーション データ、およびボイス メッセージを含めることを指定します。
<b>configuration</b>	復元するファイルにシステムとアプリケーションの設定だけを含めることを指定します。
<b>data</b>	復元するファイルにアプリケーション データとボイス メッセージだけを含めることを指定します。

## コマンド デフォルト

バックアップ ファイルは復元されません。

## コマンド モード

モジュール オフライン (offline)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

復元手順が開始されると、すべてのアクティブ コールが終了します。Cisco Unified SIP Proxy は、スケジュールされた復元をサポートしません。通話数が最も少ないときにファイルを復元することを検討してください。

復元手順を完了した後、**reload** コマンドを使用してファイル データをアクティブ化します。

**show backup history** コマンドを使用して、復元するファイルの *backup-id* 値を指定します。

## 例

次の例では、データだけを含む、ID が *data5* のファイルを復元する方法を示します。

```
se-10-0-0-0> enable
se-10-0-0-0# offline
se-10-0-0-0 (offline)# restore id data5 category data
se-10-0-0-0 (offline)# reload
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>continue</b>	オフライン モードを終了し、モジュール EXEC モードに戻ります。
<b>offline</b>	オフライン モードを開始します。

コマンド	説明
<b>reload</b>	Cisco Unified SIP Proxy システムを再起動します。
<b>show backup history</b>	バックアップ手順のステータスを表示します。
<b>show backup server</b>	バックアップ サーバとして指定されているネットワーク FTP サーバを表示します。

# restore factory default

システムを工場出荷時のデフォルト設定に戻すには、モジュール オフライン モードで **restore factory default** コマンドを使用します。

## restore factory default



### 注意

このコマンドを使用すると元に戻すことはできません。データおよびコンフィギュレーション ファイルはすべて消去されます。このコマンドの使用には注意が必要です。このコマンドを実行する前に、システム全体をバックアップすることを推奨します。

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

モジュール オフライン (offline)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

システムを工場出荷時のデフォルト設定に戻すと、次のような影響があります。

- 現在のデータベースを空のデータベースに置き換えます。
- Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) を空の状態に初期化します。
- スタートアップ コンフィギュレーションを、システムに付属しているテンプレート スタートアップ コンフィギュレーションに置き換えます。
- インストール後のコンフィギュレーション データをすべて消去します。
- すべての加入者およびカスタム プロンプトを削除します。

システムがクリーンになると、システムがリロードされるというメッセージが管理者に表示され、システムはリロードを開始します。リロードが完了すると、インストール後のプロセスを実行するよう求めるプロンプトが管理者に表示されます。

### 例

次の例では、システムを工場出荷時のデフォルト設定に戻す方法を示します。

#### ステップ 1

システムをオフライン モードにします。

```
se-10-0-0-0# offline
```

## ■ restore factory default

**ステップ 2** システムを工場出荷時のデフォルト設定に戻します。

```
se-10-0-0-0 (offline) # restore factory default
```

This operation will cause all the configuration and data on the system to be erased. This operation is not reversible. Do you wish to continue? (n)

**ステップ 3** 次のいずれかの手順を行います。

- システム コンフィギュレーションおよびデータを保持するには、**n** を入力します。  
操作はキャンセルされ、システムはオフライン モードのままとなります。オンライン モードに戻るには、**continue** と入力します。
- システム コンフィギュレーションおよびデータを消去するには、**y** を入力します。  
システムがクリーンになると、システムがリロードを開始することを示すメッセージが表示されます。リロードが完了すると、インストール後のプロセスを開始するためのプロンプトが表示されます。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>continue</b>	Cisco Unified SIP Proxy オンライン モードに戻ります。
<b>offline</b>	Cisco Unified SIP Proxy オフライン モードを開始します。

# security ssh known-hosts

SSH (セキュアシェル) サーバのホスト キーに Message Digest algorithm 5 (MD5) のフィンガープリントおよびタイプを設定するには、モジュール コンフィギュレーション モードで **security ssh known-hosts** コマンドを使用します。MD5 フィンガープリントを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
security ssh known-hosts host {ssh-rsa | ssh-dsa} fingerprint-string
```

```
no security ssh known-hosts host {ssh-rsa | ssh-dsa} fingerprint-string
```

## 構文の説明

<i>host</i>	SSH サーバのホスト名または IP アドレスです。
<i>ssh-rsa</i>	SSH サーバのホスト キーに対してこのフィンガープリントを作成するために、RSA 暗号化アルゴリズムが使用されました。
<i>ssh-dsa</i>	SSH サーバのホスト キーに対してこのフィンガープリントを作成するために、DSA (Digital Signature Algorithm) が使用されました。
<i>fingerprint-string</i>	MD5 フィンガープリント文字列です。

## コマンド デフォルト

指定されたホストに対してサーバ認証は実行されません。

## コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **security ssh known-hosts** コマンドを使用して、SSH サーバのホスト キーに MD5 フィンガープリントを設定します。フィンガープリントが設定されると、ローカルの SSH/SFTP クライアントは、設定されたフィンガープリントを SSH サーバから返されたものと比較してサーバ認証を実行します。

*host* 引数には、ホスト名または IP アドレスを指定できます。

フィンガープリントが設定されていない場合、サーバ認証は実行されません。 **write** コマンドを使用するとき、フィンガープリントはスタートアップ コンフィギュレーションに保存されません。

## 例

次の例では、SSH-RSA サーバのホスト キーに MD5 フィンガープリントを指定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0# configure terminal
se-10-0-0-0(config)# security ssh known-hosts server.example.com ssh-rsa
a5:3a:12:6d:e9:48:a3:34:be:8f:ee:50:30:e5:e6:c3
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>backup server authenticate</b>	バックアップ サーバのホスト キーのフィンガープリントを取得します。
<b>show security ssh</b>	設定されている SSH サーバとそのフィンガープリントの一覧を表示します。
<b>write</b>	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

# show backup

バックアップ ファイルを保存するために使用するサーバの情報を表示するには、モジュール EXEC モードで **show backup** コマンドを使用します。

## show backup

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、FTP サーバの URL、FTP サーバ上の加入者アカウント、およびサーバに保存されるバックアップ ファイル リビジョンの番号を表示します。

### 例

次の例は、**show backup** コマンドの出力例です。

```
se-10-0-0-0> show backup
```

```
Server URL:                               ftp://10.12.0.1/ftp
User Account on Server:
Number of Backups to Retain:              5
```

表 8 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 8 show backup のフィールドの説明

フィールド	説明
Server URL	バックアップ サーバの IP アドレスです。
User Account on Server	(オプション) バックアップ サーバのユーザ ID です。
Number of Backups to Retain	最も古いファイルが上書きされるまでに保存されるバックアップ ファイルの数です。

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>backup</b>	バックアップ データを選択し、バックアップ プロセスを開始します。

# show backup history

バックアップおよび復元手順の成否を表示するには、モジュール EXEC モードで **show backup history** コマンドを使用します。

## show backup history

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、各バックアップ ファイル、そのバックアップ ID、ファイルに保存されているデータのタイプ、およびバックアップ手順の成否を表示します。

### 例

次の例は、**show backup history** コマンドの出力例です。

```
se-10-0-0-0> show backup history
```

```
blade522> show backup history
#Start Operation
Category: Configuration
Backup Server: ftp://192.168.1.35/pub/cusp_backup
Operation: Backup
Backupid: 1
Date: Tue Oct 21 06:14:30 EDT 2008
Result: Success
Reason:
#End Operation
```

```
#Start Operation
Category: Configuration
Backup Server: ftp://192.168.1.35/pub/cusp_backup
Operation: Restore
Backupid: 1
Restoreid: 1
Date: Tue Oct 21 06:17:21 EDT 2008
Result: Success
Reason:
#End Operation
```

表 9 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

**表 9 show backup history Field のフィールドの説明**

フィールド	説明
Category	バックアップしたファイルのタイプ (data、configuration、または all) を指定します。
Backup Server	バックアップ サーバの場所です。
Operation	実行したオペレーションのタイプです。
Backupid	バックアップ ファイルの ID 番号です。
Restoreid	このファイルの復元に使用する ID です。
Description	(オプション) バックアップ手順の説明です。
Date	オペレーションが発生した日付と時刻です (hh:mm:ss 形式)。
Result	オペレーションの成功または失敗が表示されます。
Reason	オペレーションが失敗した場合、このフィールドに失敗の理由が表示されます。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>backup</b>	バックアップ データを選択し、バックアップ プロセスを開始します。
<b>show backup server</b>	バックアップ ファイル ID を表示します。

# show backup server

最新のバックアップ ファイルの詳細を表示するには、モジュール EXEC モードで **show backup server** コマンドを使用します。

## show backup server

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、バックアップ サーバで使用できるバックアップ ファイルの一覧を表示します。ファイルはカテゴリ別にグループ化され、バックアップの日付とバックアップ ファイル ID がそれぞれ表示されます。バックアップ手順の成否については、「[show backup history](#)」コマンドを参照してください。

### 例

次の例は、**show backup server** コマンドの出力例です。

```
se-10-0-0-0> show backup server

Category:      Data
Details of last 5 backups
Backupid:     1
Date:         Tue Jul 22 10:55:52 PDT 2008
Description:

Backupid:     2
Date:         Tue Jul 29 18:06:33 PDT 2008
Description:

Backupid:     3
Date:         Tue Jul 29 19:10:32 PDT 2008
Description:

Category:      Configuration
Details of last 5 backups
Backupid:     1
Date:         Tue Jul 22 10:55:48 PDT 2008
Description:

Backupid:     2
Date:         Tue Jul 29 18:06:27 PDT 2008
Description:

Backupid:     3
```

Date: Tue Jul 29 19:10:29 PDT 2008  
Description:

表 10 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 10 show backup server のフィールドの説明

フィールド	説明
Category	バックアップ ファイルのタイプです。
Backupid	バックアップ ファイルの ID 番号です。
Date	ファイルがバックアップされた日付と時刻です (hh:mm:ss 形式)。
Description	(オプション) バックアップ ファイルの説明です。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
backup	バックアップ データを選択し、バックアップ プロセスを開始します。
show backup history	バックアップおよび復元手順の成否を表示します。

# show clock detail

クロック統計情報を表示するには、モジュール EXEC モードで **show clock detail** コマンドを使用します。

## show clock detail

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 例

次の例では、クロック統計情報は画面に表示されます。

```
se-100.0.4.2> show clock detail
se-10-1-1-20> show clock detail
15:22:08.375 PST Thu Nov 29 2007
time zone:                        America/Los_Angeles
clock state:                       unsync
delta from reference (microsec):    0
estimated error (microsec):        16
time resolution (microsec):        1
clock interrupt period (microsec):  10000
time of day (sec):                  1196378528
time of day (microsec):             378926
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clock timezone</b>	現地時間帯を設定します。
<b>ntp server</b>	時間を同期するための NTP サーバを設定します。

# show interfaces

仮想インターフェイスおよび VLAN インターフェイスを含めて、設定されているすべてのインターフェイスを表示するには、モジュール EXEC モードで **show interfaces** コマンドを使用します。

**show interfaces** [ || GigabitEthernet | ide]

## 構文の説明

	出力を別のコマンドにパイプ処理します。
GigabitEthernet	ギガビットイーサネット デバイスです。
ide	IDE (ハードディスク)

## コマンド モード

モジュール EXEC (>)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 例

次の例では、**show interfaces** コマンドは、設定されているすべてのインターフェイス（ギガビットイーサネット インターフェイスおよび IDE (ハードディスク) インターフェイス）を画面に表示します。

```
se-100.0.4.2> show interfaces
GigabitEthernet 0 is up, line protocol is up
  Internet address is 10.10.1.20 mask 255.255.255.0 (configured on router)
    25629 packets input, 1688582 bytes
    0 input errors, 0 dropped, 0 overrun, 0 frame errors
    25634 packets output, 1785015 bytes
    0 output errors, 0 dropped, 0 overrun, 0 collision errors
    0 output carrier detect errors

IDE hd0 is up, line protocol is up
  2060 reads, 32704512 bytes
  0 read errors
  489797 write, 2520530944 bytes
  0 write errors
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show running-config</b>	現在の実行コンフィギュレーションを表示します。

# show logs

システム ログのリストを表示するには、モジュール EXEC モードで **show logs** コマンドを使用します。

## show logs

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、仮想インスタンスの `/var/log` ディレクトリの下にあるすべてのログ ファイルを表示します。

### 例

次の例では、**show logs** コマンドは、仮想インスタンスの `/var/log` ディレクトリの下でのログ ファイルを表示します。

```
se-Module (exec-mping) > show logs
SIZE                LAST_MODIFIED_TIME                NAME
28719  Mon Dec 22 14:15:06 EST 2008    linux_session.log
2573   Fri Dec 19 08:28:13 EST 2008    install.log
8117   Fri Dec 19 08:27:51 EST 2008    dmesg
2274   Fri Dec 19 08:27:55 EST 2008    syslog.log
10455  Thu Dec 18 16:38:13 EST 2008    sshd.log.prev
1268   Fri Dec 19 08:28:09 EST 2008    atrace.log
384    Fri Dec 19 08:27:55 EST 2008    debug_server.log
10380  Thu Dec 18 16:06:58 EST 2008    postgres.log.prev
1361   Fri Dec 19 08:28:14 EST 2008    sshd.log
5598   Fri Dec 19 08:30:13 EST 2008    postgres.log
1014   Fri Dec 19 08:27:57 EST 2008    klog.log
2298494 Sun Dec 21 23:30:00 EST 2008    messages.log
85292  Fri Dec 19 08:25:33 EST 2008    shutdown_installer.log
```

# show ntp associations

すべてのネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバのアソシエーション ID およびステータスを表示するには、モジュール EXEC モードで **show ntp associations** コマンドを使用します。

**show ntp associations [assocID association-id]**

構文の説明	<b>assocID association-id</b> 指定されるアソシエーション ID です。
コマンド モード	モジュール EXEC (>)
コマンド履歴	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容</b> 1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**show ntp associations** コマンドを使用して、Cisco Unified SIP Proxy に対して設定されているすべての NTP サーバのアソシエーション ID とステータスを表示します。サーバの詳細は表示されません。**show ntp associations assocID association-id** コマンドは、指定された NTP サーバのステータスの詳細を表示します。

**status** フィールドを使用して、すべての NTP サーバのコンフィギュレーションとステータスを確認します。このフィールドは、4 つの 16 進数で構成されています。

- 前半の 2 つの数字は、サーバのコンフィギュレーションおよびクロック選択プロセスの経過状況を示します。表 11 を参照してください。
- 後半の 2 つの数字は、イベントの数と最後のイベントのタイプを示します。表 12 (P.354) を参照してください。

表 11 に、一般的なステータス コードとその説明を示します。最初の数字は、指定されたサーバのコンフィギュレーション、到達可能性、および認証ステータスを示します。2 番目の数字は、指定されたサーバがクロック選択アルゴリズムをどのように適切に通過したかを記録します。

表 11 Status フィールドのコードの説明

Status フィールドのコード	説明
1xxx	サーバはローカル マシンにピア同期要求を送信しましたが、サーバはローカルで設定されていません。
7xxx	サーバは、ローカルで設定されていないピアですが、到達可能で、適切な認証を使用しています。
8xxx	サーバは設定されていますが、認証されておらず、到達可能ではありません。
9xxx	サーバは設定されており、到達可能です。
Cxxx	サーバは、認証を使用するように設定されていますが、到達可能ではありません。
Dxxx	サーバは、認証を使用するように設定されていて、到達可能ですが、信頼できるキーを使用していません。

表 11 Status フィールドのコードの説明 (続き)

Status フィールドのコード	説明
Fxxx	サーバは、信頼できるサーバとして認証されており、到達可能です。
x0xx	サーバは、健全性チェックに合格しなかったため、クライアントによって拒否されます。この状況の考えられる原因として、サーバの認証エラー、サーバの誤差限界が大きい (16 秒以上)、サーバがクライアントよりも大きなストラタム番号に存在する、などがあります。
x1xx	サーバは、健全性チェックに合格しましたが、他のサーバが共通部分アルゴリズムを通過できるほど一致していませんでした。これは、サーバのクロックが、他のクロックの最大限の誤差限界の範囲外にあったことを示し、通常はサーバに誤った時間が設定されていることを示す状況です。
x2xx	サーバは正確性チェック (共通部分アルゴリズム) に合格しました。この値は、サーバがほぼ正しく設定されていることを示しています。
x3xx	サーバは候補チェックに合格しました。サーバは、適切なサーバが非常に多くあったため (10 台以上)、破棄されませんでした。
x4xx	サーバは、非常に多くの分散を含む異常値として破棄されることなく、クラスタ処理アルゴリズムを通過しました。
x5xx	サーバは、同期ソースの可能性がありますが、非常にずれています。つまり、その他すべてのクロックが健全性チェックに合格しなかったか、それらのクロックも非常にずれています。
x6xx	サーバは現在の同期ソースです。これは優先サーバステータスです。
x7xx ~ xFxx	予約された値です。これらの値は通常は使用されません。

表 12 に、イベント コードを示します。3 番目の数字は、NTP または **show ntp** コマンドのいずれかによって最後にエラーがコンソールに返されてから発生したイベントの数を示します。この値は、ラップされず、15 (16 進数の F) で値の増加を停止します。

適切に動作しているサーバの場合、**show ntp** コマンドのいずれかが起動以降にサーバへのクエリーを実行していない限り、値は **xx1x** です。クエリーを実行していた場合、値は **xx0x** になります。3 番目の数字がその他の値の場合は、エラーの原因であるイベントを確認してください。

フィールドの 4 番目の数字は、発生した最後のイベントを示します。適切に動作しているサーバの場合、このイベントは、サーバが到達可能になるイベントです。

表 12 Event フィールドのコード値

Event フィールドのコード	説明
xxx0	指定されていないイベントです。イベントが発生しなかったか、特別なエラーが発生しました。
xxx1	サーバへの接続で IP エラーが発生しました。
xxx2	到達可能だったサーバを認証できません。これは、キーが変更されたか、誰かがサーバをスプーフィングしていることを示します。
xxx3	これまで到達可能だったサーバが到達不能です。

表 12 Event フィールドのコード値 (続き)

Event フィールドのコード	説明
xxx4	これまで到達不能だったサーバが到達可能です。
xxx5	サーバのクロックに誤差がありました。
xxx6 ~ xxxF	予約された値です。これらの値は通常は使用されません。

flash フィールドは、一連の 12 の診断テストが実行されるときのパケットのステータスを示します。テストは、指定された手順で実行され、偶発的または悪意のあるエラーを防止しながら最大限の情報を取得します。

各パケットが受信されるとき、flash 変数は 0 に設定されます。いずれかのビットがテストの結果として設定されると、パケットは破棄されます。

テストでは次の情報を検索します。

- TEST1 ~ TEST3 は、パケットのタイムスタンプをチェックし、そこからオフセットと遅延を計算します。ビットが設定されない場合、パケットヘッダー変数が保存されます。
- TEST4 および TEST5 は、アクセスコントロールと暗号化認証をチェックします。ビットが設定されない場合、値は保存されません。
- TEST6 ~ TEST8 は、サーバの健全性をチェックします。ビットが設定されない場合、サーバとの相対オフセットおよび遅延が計算され、保存されます。
- TEST9 は、アソシエーションの健全性をチェックします。ビットが設定されない場合、保存された変数はクロックフィルタおよび緩和アルゴリズムに渡されます。
- TEST10 ~ TEST12 は、Autokey 公開キー暗号化を使用して認証状態をチェックします。ビットが設定され、アソシエーションが以前に到達可能と示されていた場合、パケットは破棄されます。それ以外の場合は、発信および受信時のタイムスタンプが保存され、プロセスが継続されます。

表 13 に、各テストでの flash のビットを示します。

表 13 Flash フィールドの診断ビット値

Flash のビット値	説明
0x001	TEST1. 重複パケットです。パケットは、偶発的な再送信か、最悪の場合、悪意のある再送です。
0x002	TEST2. 偽造パケットです。パケットは、以前に送信されたメッセージに対する返信ではありません。この問題は、NTP デーモンが再起動されたときに発生することがあります。
0x004	TEST3. 同期されていません。1 つ以上のタイムスタンプフィールドが無効です。この問題は、通常、ピアから最初のパケットを受信するときに発生します。
0x008	TEST4. アクセスが拒否されます。
0x010	TEST5. 暗号化による認証に失敗します。
0x020	TEST6. サーバが同期されていません。最初にクロックを調整してください。
0x040	TEST7. サーバストラタムが最大の 15 にあります。サーバは同期されていない可能性があります。クロックを調整する必要があります。
0x080	TEST8. ルートの遅延、または分散が 1 秒よりも大きくなっています。

表 13 Flash フィールドの診断ビット値 (続き)

Flash のビット値	説明
0x100	TEST9。ピアの遅延、または分散が 1 秒よりも大きくなっています。
0x200	TEST10。Autokey プロトコルが認証エラーを検出しました。
0x400	TEST11。Autokey プロトコルがサーバを確認しませんでした。または、ピアは証明済みで、有効なキー クレデンシアルを持っています。
0x800	TEST12。公開キー アルゴリズムでプロトコルまたはコンフィギュレーションエラーが発生したか、侵入イベントの可能性が検出されました。

## 例

次の例では、基本的な **show ntp associations** コマンドを使用した後に表示される出力例を示します。

```
se-10-0-0-0> show ntp associations

ind assID status  conf reach auth condition  last_event cnt
=====
1  50101 8000   yes  yes none sys.peer  reachable  2
```

表 14 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 14 show ntp associations のフィールドの説明

フィールド	説明
ind	アソシエーションのインデックス番号です。
assID	サーバから返されるピア ID です。
status	サーバステータスの 16 進値です。これらのフィールド コードの説明については、表 11 (P.353) および表 12 (P.354) を参照してください。
conf	サーバが設定されているかどうかを示します。有効な値は yes と no です。
reach	ピアが到達可能かどうかを示します。有効な値は yes と no です。
auth	サーバ認証のステータスです。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ok</li> <li>• bad</li> <li>• none</li> <li>• " "</li> </ul>

表 14 show ntp associations のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
condition	<p>クロック選択プロセスのアソシエーションのタイプです。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>space : 拒否。ピアは到達不能として破棄されます。</li> <li>falsetick : ピアは偽ティックとして破棄されます。</li> <li>excess : ピアは、10 の最も近いピアの中にないため、破棄されます。</li> <li>outlier : ピアは異常値として破棄されます。</li> <li>candidate : 考えられる同期のために選択されたピアです。</li> <li>selected : このピアにほぼ同期されています。</li> <li>sys.peer : このピアに同期されています。</li> <li>pps.peer : パルス毎秒信号に基づいて、このピアに同期されています。</li> </ul>
last_event	<p>システムで発生した最後のイベントです。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(空)</li> <li>IP error</li> <li>Auth fail</li> <li>lost reach</li> <li>reachable</li> <li>clock expt</li> </ul> <p>これらの値の説明については、表 12 を参照してください。</p>
cnt	<p>NTP によってエラーが最後にコンソールに返されてから発生したイベントの数です。この値は、ラップされず、15 (16 進数の F) で値の増加を停止します。適切に動作しているサーバの場合、この値は 1 または 0 でなければなりません。</p>

次の例では、**show ntp associations assocID** コマンドを使用して、特定の assocID の ntp アソシエーションを表示する方法を示します。

```
se-10-0-0-0> show ntp associations assocID 50101
```

```
status=8000 unreach, conf, no events,
srcadr=10.1.10.2, srcport=123, dstadr=10.1.1.20, dstport=123, leap=11,
stratum=16, precision=-17, rootdelay=0.000, rootdispersion=0.000,
refid=0.0.0.0, reach=000, unreach=16, hmode=3, pmode=0, hpoll=10,
ppoll=10, flash=00 ok, keyid=0, offset=0.000, delay=0.000,
dispersion=0.000, jitter=4000.000,
reftime=00000000.00000000 Wed, Feb 6 2036 22:28:16.000,
org=00000000.00000000 Wed, Feb 6 2036 22:28:16.000,
rec=00000000.00000000 Wed, Feb 6 2036 22:28:16.000,
xmt=cafae952.b5de7a74 Fri, Nov 30 2007 11:56:02.710,
filtdelay= 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00,
filtoffset= 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00,
filtdisp= 16000.0 16000.0 16000.0 16000.0 16000.0 16000.0 16000.0 16000.0
```

表 15 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 15 show ntp associations assocID のフィールドの説明

フィールド	説明
status	ピアのステータスです。この行の値の説明については、表 11 (P.353)、表 12 (P.354)、および表 14 (P.356) を参照してください。
sreadr	ホスト サーバの IP アドレスです。
srcport	ホスト サーバのポート アドレスです。
dstadr	宛先サーバの IP アドレスです。
dstport	宛先サーバのポート アドレスです。
leap	間近に迫った NTP 時間スケールへのうるう秒の挿入を示す、2 ビット コードの警告です。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 00 : 警告なし</li> <li>• 01 : 最後の 1 分が 61 秒</li> <li>• 10 : 最後の 1 分が 59 秒</li> <li>• 11 : アラーム状態 (クロックが同期されていない)</li> </ul>
stratum	プライマリ クロック ソースまでのサーバのホップ カウントです。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : 未指定</li> <li>• 1 : プライマリ クロック基準</li> <li>• 2 ~ 255 : NTP 経由のセカンダリ基準</li> </ul> stratum 値が 15 の場合、サーバは同期されていない可能性があり、クロックをリセットする必要があります。
precision	クロックの精度です (2 のべき乗で表す秒数)。
rootdelay	同期サブネットのルートにあるプライマリ基準ソースへのラウンドトリップ遅延の合計 (秒数) です。
rootdispersion	同期サブネットのルートにあるプライマリ基準ソースに相対的な最大誤差 (秒) です。
refid	同期のために選択されたピアの IP アドレスです。
reach	ピアの到達可能性ステータス履歴です (8 進数)。各ビットは、サーバにポーリング期間中に到達した場合は 1、それ以外の場合は 0 に設定されます。値 377 は、最後の 8 回の試行が適切だったことを示します。
unreach	最後の有効なパケットが受信されてからのポーリング間隔の数です。

表 15 show ntp associations assocID のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
hmode	<p>ホスト サーバのアソシエーション モードです。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0: 未指定</li> <li>1: 対称アクティブ</li> <li>2: 対称パッシブ</li> <li>3: クライアント</li> <li>4: サーバ</li> <li>5: ブロードキャスト</li> <li>6: NTP 制御メッセージ用に予約済み</li> <li>7: プライベート用に予約済み</li> </ul>
pmode	<p>ピア サーバのアソシエーション モードです。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0: 未指定</li> <li>1: 対称アクティブ</li> <li>2: 対称パッシブ</li> <li>3: クライアント</li> <li>4: サーバ</li> <li>5: ブロードキャスト</li> <li>6: NTP 制御メッセージ用に予約済み</li> <li>7: プライベート用に予約済み</li> </ul>
hpoll	ホストからの送信メッセージ間の最小間隔です (2 のべき乗で表す秒数)。
ppoll	ピアへの送信メッセージ間の最小間隔です (2 のべき乗で表す秒数)。
flash	パケットで一連の診断テストが実行された後のパケットのステータスです。表 5 の flash フィールドの値の説明を参照してください。
keyid	メッセージ認証コードを生成するために使用される暗号キーの ID です。
offset	クライアントとサーバの時差です (ミリ秒)。
delay	パケットのラウンドトリップ遅延です (ミリ秒)。
dispersion	時間オフセットが特定の時間サーバからどのぐらい分散しているかを表します (ミリ秒)。
jitter	RMS の時差の幾何平均として測定される、Cisco Unified SIP Proxy クロックの推定誤差時間です (ミリ秒)。
reftime	ローカル クロックが最後に更新された現地時間です (タイムスタンプ形式)。ローカル クロックが一度も同期されていない場合、値は 0 です。

表 15 show ntp associations assocID のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
org	最新の NTP メッセージが送信されたときのピアの現地時間です (タイムスタンプ形式)。ピアが到達不能になった場合、値は 0 です。
rec	到達したピアからの最新の NTP メッセージが届いたときの現地時間です (タイムスタンプ形式)。ピアが到達不能になった場合、値は 0 です。
xmt	送信側から NTP メッセージが送信されたときの現地時刻です (タイムスタンプ形式)。
filtdelay	ピア クロックとネットワークを介したローカル クロックのラウンドトリップ遅延です (秒)。
filtoffset	ピア クロックのローカルクロックとの相対オフセットです (秒)。
filtdisp	ピア クロックの、ネットワークを介したローカル クロックとの相対的な最大誤差です (秒)。値は 0 よりも大きい値だけになります。

## 関連コマンド

コマンド	説明
show ntp servers	NTP サーバとその現在の状態のリストを表示します。
show ntp source	NTP サーバのプライマリ タイム ソースを表示します。

# show ntp servers

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバのリスト、現在の状態、および各サーバと関連付けられているリモート ピアの概要を表示するには、モジュール EXEC モードで **show ntp servers** コマンドを使用します。

## show ntp servers

### 構文の説明

このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

NTP サーバの設定を変更した後で、**show ntp servers** コマンドを使用します。

### 例

次の例は、**show ntp servers** コマンドの出力例です。

```
se-10-1-1-20> show ntp servers
      remote          refid      st t when poll reach  delay  offset jitter
=====
 10.1.10.2          0.0.0.0       16 u  - 1024  0   0.000  0.000 4000.00
space reject,      x falsetick,  . excess,      - outlyer
+ candidate,      # selected,   * sys.peer,    o pps.peer
```

表 16 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 16 show ntp servers のフィールドの説明

フィールド	説明
remote	リモートサーバの IP アドレスです。
refid	サーバの現在のタイム ソースです。
st	リモートサーバまでのホップ カウント (ストラタム) です。
t	ピアのタイプです。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>l: ローカル</li> <li>u: ユニキャスト</li> <li>m: マルチキャスト</li> <li>b: ブロードキャスト</li> </ul>
when	最後のパケットを受信した時刻です。
poll	ポーリング間隔です (秒)。

表 16 show ntp servers のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
reach	ピアの到達可能性ステータス履歴です (8 進数)。各ビットは、サーバにポーリング期間中に到達した場合は 1、それ以外の場合は 0 に設定されます。値 377 は、最後の 8 回の試行が適切だったことを示します。
delay	パケットのラウンドトリップ遅延です (ミリ秒)。
offset	クライアントとサーバの時差です (ミリ秒)。
jitter	RMS の時差の幾何平均として測定される、Cisco Unified SIP Proxy クロックの推定誤差時間です (ミリ秒)。
(符号コード)	<p>リモート IP アドレスの前の文字は、クロック選択プロセスでのアソシエーションの状態を示します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• space Reject : ピアは到達不能として破棄されます。</li> <li>• x Falsetick : ピアは偽ティックとして破棄されます。</li> <li>• . Excess : ピアは、最も近い 10 個のピアの中にないため、破棄されます。</li> <li>• - Outlier : ピアは異常値として破棄されます。</li> <li>• + Candidate : 考えられる同期のために選択されたピアです。</li> <li>• # Selected : このピアにはほぼ同期されています。</li> <li>• * Sys.peer : このピアに同期されています。</li> <li>• o PPS.peer : パルス毎秒信号に基づいて、このピアに同期されています。</li> </ul>

## 関連コマンド

コマンド	説明
ntp server	NTP サーバを設定します。
show ntp associations	NTP サーバのアソシエーション ID とピア状態の一覧を表示します。
show ntp source	NTP サーバのタイム ソースを表示します。

# show ntp source

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバのタイム ソースを表示するには、モジュール EXEC モードで **show ntp source** コマンドを使用します。表示は、ローカル ホストから始まり、プライマリ タイム ソースへと展開されます。

## show ntp source [detail]

構文の説明	<b>detail</b>	(オプション) precision、leap、refit、delay、dispersion、root delay、root dispersion、reference time、originate timestamp、transmit timestamp を含む、その他の NTP サーバの詳細を表示します。
-------	---------------	---

コマンド モード モジュール EXEC (>)

コマンド履歴	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容</b>
	1.0 このコマンドが追加されました。

例 次の例は、**show ntp source** コマンドの出力例です。

```
se-10-0-0-0> show ntp source
```

```
127.0.0.1: stratum 9, offset 0.000015, synch distance 0.03047
10.100.10.65: stratum 8, offset -0.001124, synch distance 0.00003
```

表 17 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 17 show ntp source のフィールドの説明

フィールド	説明
(最初のフィールド)	ホストの IP アドレスです。
stratum	プライマリ クロック ソースまでのサーバのホップ カウントです。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0 : 未指定</li> <li>1 : プライマリ クロック 基準</li> <li>2 ~ 255 : NTP 経由のセカンダリ 基準</li> </ul>
offset	ホストとローカル ホストの時間オフセットです (秒)。
synch distance	ホスト同期の距離で、プライマリ ソースに相対的な推定誤差です。

## show ntp source

次の例は、**show ntp source detail** コマンドの出力例です。

```
se-1-100-5-2> show ntp source detail

server 10.0.0.1, port 123
stratum 9, precision -17, leap 00
refid [10.10.10.65] delay 0.00012, dispersion 0.00000 offset 0.000011
rootdelay 0.00058, rootdispersion 0.03111, synch dist 0.03140
reference time:      af4a3ff7.926698bb  Thu, Feb 30 2007 14:47:19.571
originate timestamp: af4a4041.bf991bc5  Thu, Nov 30 2007 14:48:33.748
transmit timestamp:  af4a4041.bf90a782  Thu, Nov 30 2007 14:48:33.748

server 10.10.10.65, port 123
stratum 8, precision -18, leap 00
refid [172.16.7.1] delay 0.00024, dispersion 0.00000 offset -0.001130
rootdelay 0.00000, rootdispersion 0.00003, synch dist 0.00003
reference time:      af4a402e.f46eaea6  Thu, Nov 30 2007 14:48:14.954
originate timestamp: af4a4041.bf6fb4d4  Thu, Nov 30 2007 14:48:33.747
transmit timestamp:  af4a4041.bfb0d51f  Thu, Nov 30 2007 14:48:33.748
```

表 18 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 18 show ntp source detail のフィールドの説明

フィールド	説明
server	ホスト サーバの IP アドレスです。
port	ホスト サーバのポート番号です。
stratum	プライマリ クロック ソースまでのサーバのホップ カウントです。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0 : 未指定</li> <li>1 : プライマリ クロック 基準</li> <li>2 ~ 255 : NTP 経由のセカンダリ 基準</li> </ul>
precision	クロックの精度です (2 のべき乗で表す秒数)。
leap	間近に迫った NTP 時間スケールへのうるう秒の挿入を示す、2 ビット コードの警告です。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>00 : 警告なし</li> <li>01 : 最後の 1 分が 61 秒</li> <li>10 : 最後の 1 分が 59 秒</li> <li>11 : アラーム状態 (クロックが同期されていない)</li> </ul>
refid	同期のために選択されたピアの IP アドレスです。
delay	パケットのラウンドトリップ遅延です (ミリ秒)。
dispersion	時間オフセットが特定の時間サーバからどのくらい分散しているかを表します (ミリ秒)。
offset	ホストとローカル ホストの時間オフセットです (秒)。
rootdelay	同期サブネットのルートにあるプライマリ 基準ソースへのラウンドトリップ遅延の合計 (秒数) です。
rootdispersion	同期サブネットのルートにあるプライマリ 基準ソースに相対的な最大誤差 (秒) です。
synch dist	ホスト同期の距離で、プライマリ ソースに相対的な推定誤差です。

表 18 show ntp source detail のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
reference time	ローカル クロックが最後に更新された現地時間です (タイムスタンプ形式)。ローカル クロックが一度も同期されていない場合、値は 0 です。
originate timestamp	最新の NTP メッセージが送信されたときのピアの現地時間です (タイムスタンプ形式)。ピアが到達不能になった場合、値は 0 です。
transmit timestamp	到達したピアからの最新の NTP メッセージが届いたときの現地時間です (タイムスタンプ形式)。ピアが到達不能になった場合、値は 0 です。

## 関連コマンド

コマンド	説明
show ntp associations	NTP サーバのアソシエーション ID とピア状態の一覧を表示します。
show ntp servers	NTP サーバとその現在の状態のリストを表示します。

# show ntp status

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバの統計情報を表示するには、モジュール EXEC モードで **show ntp status** コマンドを使用します。

## show ntp status

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

### 例

次の例は、**show ntp status** コマンドの出力例です。

```
se-10-0-0-0> show ntp status
```

```
NTP reference server 1:      10.100.6.9
Status:                     sys.peer
Time difference (secs):     3.268110005008586E8
Time jitter (secs):        0.17168384790420532
```

表 19 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

**表 19 show ntp status のフィールドの説明**

フィールド	説明
NTP reference server 1	NTP サーバの IP アドレスです。
Status	クロック 選択プロセスでのピア アソシエーションのステータスです。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Reject : ピアは到達不能として破棄されます。</li> <li>Falsetick : ピアは偽ティックとして破棄されます。</li> <li>Excess : ピアは、最も近い 10 個のピアの中にないため、破棄されます。</li> <li>Outlier : ピアは異常値として破棄されます。</li> <li>Candidate : 考えられる同期のために選択されたピアです。</li> <li>Selected : このピアにほぼ同期されています。</li> <li>Sys.peer : このピアに同期されています。</li> <li>PPS.peer : パルス毎秒信号に基づいて、このピアに同期されています。</li> </ul>

表 19 show ntp status のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Time difference (secs)	システム クロックと NTP サーバの時差です (秒)。
Time jitter (secs)	RMS の時差の幾何平均として測定される、Cisco Unified SIP Proxy クロックの推定誤差時間です (秒)。

## 関連コマンド

コマンド	説明
clock timezone	現地時間帯を設定します。
ntp server	Cisco Unified SIP Proxy 用の NTP サーバを指定します。
show clock detail	クロック統計情報を表示します。

# show process

アプリケーション環境内のすべてのプロセスを表示するには、モジュール EXEC モードで **show process** コマンドを使用します。

**show process [cpu | memory]**

<b>構文の説明</b>	<b>cpu</b>	Central Processing Unit (CPU; 中央処理装置) の使用率を表示します。
	<b>memory</b>	Random Access Memory (RAM; ランダム アクセス メモリ) の使用率を表示します。

**コマンド モード** モジュール EXEC (>)

<b>コマンド履歴</b>	<b>Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容</b>
	1.0 このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用して、仮想アプリケーション環境内のすべてのプロセスを、プロセス ID によって昇順に並べ替えて表示します。

**例** 次の例では、CPU 使用率を表示する方法を示します。

```
se-Module(exec-mping)> show process cpu
Uptime (secs):          6536.02
User time (secs):      55.93
Kernel time (secs):    4.48
Idle time (secs):      6452.87
```

次の例では、仮想アプリケーション環境内のすべてのプロセスを表示する方法を示します。

```
se-192-168-202-102# show process
STATE      HEALTH    CMD
online     alive    syslog-ng
online     alive    platform_config
online     alive    trace
online     alive    rbcpl
online     alive    cli
online     alive    ntp
online     alive    ldap
online     alive    sql
online     alive    downloader
online     alive    http
online     alive    probe
online     alive    mgmt
online     alive    snmp
online     alive    superthread
online     alive    dns
online     alive    backuprestore
online     alive    usermanager
online     alive    nrs
online     alive    config-gw
```

表 20 show process のフィールドの説明

フィールド	説明
Uptime	最後にリブートしてから経過した秒数です。
User time	最後にリブートしてから、システムが特権のないコードの実行に費やした秒数です。
Kernel time	最後にリブートしてから、システムが特権のあるコードの実行に費やした秒数です。
Idle time	最後にリブートしてから、システムがアイドル状態で費やした秒数です。
STATE	考えられる状態は 2 つあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>online</b> : サブシステムは要求を処理する準備が完了しています。</li> <li>• <b>ready-to-go-online</b> : サブシステムの準備は完了していますが、メインの処理システムはサブシステムをオンラインにしません。</li> </ul>
HEALTH	考えられるヘルス状態は 2 つあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>alive</b> : プロセスのプライマリ スレッドが存在します。</li> <li>• <b>dead</b> : プロセスのプライマリ スレッドが存在しません。通常、<b>dead</b> プライマリ スレッドはサブシステムの再起動を引き起こします。</li> </ul>
CMD	サブシステムの名前です。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show tech-support</b>	アプリケーションの診断情報の概要を表示します。

# show running-config

Cisco Unified SIP Proxy アプリケーション環境のコミットされた実行コンフィギュレーションを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy アプリケーション サービス EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

## show running-config

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy アプリケーション サービス EXEC

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

Cisco Unified SIP Proxy では、実行コンフィギュレーションは **commit** コマンドでコミットされた設定の変更のみを表示します。

### 例

```
se-Module (exec-mping) > show running-config
app-service mping
bind interface eth0
hostname se-10-0-0-0
exit
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドの設定の変更を有効にします。
<b>show tech-support</b>	アプリケーションの診断情報の概要を表示します。

# show security ssh known-hosts

設定された SSH (セキュアシェル) サーバとそのフィンガープリントの一覧を表示するには、モジュール EXEC モードで **show security ssh known-hosts** コマンドを使用します。

## show security ssh known-hosts

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

モジュール EXEC モードで **show security ssh known-hosts** コマンドを使用して、設定された SSH サーバとそのフィンガープリントの一覧を表示します。これらのフィンガープリントは、SSH サーバ認証を実行するために使用されます。

### 例

次の例は、**show security ssh known-hosts** コマンドの出力例です。

```
se-10-0-0-0# show security ssh known-hosts
```

```
192.168.138.208 ssh-rsa a5:3a:12:6d:e9:48:a3:34:be:8f:ee:50:30:e5:e6:c3  
172.16.103.231 ssh-rsa 5c:31:00:89:04:ed:2e:fc:bd:eb:26:23:cd:24:c0:b6
```

この出力には、次の情報が示されます。

- SSH サーバのホスト名または IP アドレス。
- MD5 (Message-Digest algorithm 5) フィンガープリントが、DSA (Digital Signature Algorithm) または RSA 暗号化アルゴリズムを使用して作成された SSH サーバのホスト キー用かどうか。
- MD5 フィンガープリント文字列。

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>backup server authenticate</b>	バックアップ サーバのホスト キーのフィンガープリントを取得します。
<b>security ssh known-hosts</b>	SSH サーバのホスト キーの MD5 フィンガープリントを設定します。

# show software

インストールされたソフトウェアの特性を表示するには、モジュール EXEC モードで **show software** コマンドを使用します。

**show software {directory | download server | licenses | packages | versions}**

## 構文の説明

<b>dependencies</b>	サブシステムの依存関係を表示します。
<b>directory</b>	ソフトウェア ディレクトリを表示します。
<b>download server</b>	FTP サーバの IP アドレスを表示します。
<b>licenses</b>	システムの購入済みライセンスの条件と制限を表示します。
<b>packages</b>	設定された Cisco Unified SIP Proxy アプリケーション パッケージを表示します。
<b>versions</b>	設定されたソフトウェアおよびアプリケーションの現在のバージョンを表示します。

## コマンドモード

モジュール EXEC (>)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 例

次の例は、**show software** コマンドの出力例です。

```
se-10-0-0-0> show software download server
```

```
Download server URL is: ftp://127.0.0.1/ftp
```

```
se-10-0-0-0> show software licenses
```

```
Installed license files:
```

```
- None
```

```
se-10-0-0-0> show software packages
```

```
Installed Packages:
```

```
- Installer (Installer application ) (0.0.0.12)
- Bootloader (Primary) (Service Engine Bootloader) (2.1.1.14)
- Infrastructure (Service Engine Infrastructure) (2.3.2.1)
- Global (Global manifest) (0.0.0.12)
- cusp (CUSP subsyste) (1.0.1)
- Bootloader (Secondary) (Service Engine BootLoader) (0.0.0.12)
- Core (Service Engine OS Core) (2.4.0.2)
- GPL Infrastructure (Service Engine GPL Infrastructure) (2.2.1.1)
```

```
se-10-50-10-125> show software versions
```

```
Cisco Unified SIP Proxy version (0.0.11)
```

```
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>software download server</code>	FTP サーバ情報を設定します。
<code>software install clean</code>	Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアの新しいバージョンをインストールします。

# show trace log

Cisco Unified SIP Proxy サービス モジュールでトレース ログ ファイルを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show logs** コマンドを使用します。

## show trace log

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy パージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、Cisco Unified SIP Proxy トレース ログの内容を表示します。

### 例

次の例では、**show trace log** コマンドは、Cisco Unified SIP Proxy サービス モジュール上のログ ファイルを表示します。

```
se-Module> show trace log

[DsTransportListener-1] DEBUG 2008.12.22 17:53:39:461 DsSipLlApi.Wire - Received
  UDP packet on 192.168.20.101:6060 ,source 192.168.20.5:6080
  INVITE sip:18005551212@192.1.1.75:6061 SIP/2.0
  Via: SIP/2.0/UDP 192.168.20.5:6080;branch=z9hG4bK-1-0
  From: sipp <sip:sipp@192.168.20.5:6080>;tag=1
  To: sut <sip:18005551212@192.1.1.75:6061>
  Call-ID: 1-15763@192.168.20.5
  CSeq: 1 INVITE
  Contact: sip:sipp@192.168.20.5:6080
  Max-Forwards: 70
  P-Asserted-Identity: <sip:alice@home1.net>
  Cisco-Guid: 1234567890
  Subject: Performance Test
  Content-Type: application/sdp
  Content-Length: 135

v=0
o=user1 53655765 2353687637 IN IP4 192.168.20.5
s=-
c=IN IP4 192.168.20.5
t=0 0
m=audio 6070 RTP/AVP 0
a=rtpmap:0 PCMU/8000

--- end of packet ---

[DsTransportListener-1] DEBUG 2008.12.22 17:53:39:492 DsSipLlApi.Wire - Received
  UDP packet on 192.168.20.101:6060 ,source 192.168.20.5:6080
  INVITE sip:18005551212@192.1.1.75:6061 SIP/2.0
```

```
Via: SIP/2.0/UDP 192.168.20.5:6080;branch=z9hG4bK-2-0
From: sipp <sip:sipp@192.168.20.5:6080>;tag=2
To: sut <sip:18005551212@192.1.1.75:6061>
Call-ID: 2-15763@192.168.20.5
CSeq: 1 INVITE
Contact: sip:sipp@192.168.20.5:6080
Max-Forwards: 70
P-Asserted-Identity: <sip:alice@home1.net>
Cisco-Guid: 1234567890
Subject: Performance Test
Content-Type: application/sdp
Content-Length: 135
```

```
v=0
o=user1 53655765 2353687637 IN IP4 192.168.20.5
s=-
c=IN IP4 192.168.20.5
t=0 0
m=audio 6070 RTP/AVP 0
a=rtpmap:0 PCMU/8000
```

```
--- end of packet ---
```

```
[DATAI.0] DEBUG 2008.12.22 17:53:39:508 DsSipLlApi.TransactionManagement - proce
ssMessage(): ----- BEGINING PROCESSING NEW MESSAGE -----
INVITE sip:18005551212@192.1.1.75:6061 SIP/2.0
Via: SIP/2.0/UDP 192.168.20.5:6080;branch=z9hG4bK-1-0
Max-Forwards: 70
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trace disable</b>	トレースをディセーブルにします。
<b>trace enable</b>	トレースをイネーブルにします。
<b>trace level</b>	トレース レベルを設定します。

# show startup-config

現在のスタートアップ コンフィギュレーションを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show startup-config** コマンドを使用します。

## show startup-config [paged]

### 構文の説明

**paged** (オプション) 現在の表示画面を満たすのに十分な出力を表示します。

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドはフラッシュ メモリに保存されているスタートアップ コンフィギュレーションを表示します。

### 例

次に、**show startup-config** コマンドの出力例を示します。

```
se-10-0-0-0> show startup-config

! This adds all the platform CLI commands
!

! hostname
hostname se-10-0-0-0

! Domain Name
ip domain-name localdomain

! DNS Servers
ip name-server 10.100.10.130

! Timezone Settings
clock timezone America/Los_Angeles
end
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy ftp</b>	ネットワーク FTP サーバのデータを別の場所にコピーします。
<b>copy running-config</b>	実行コンフィギュレーションを別の場所にコピーします。
<b>copy startup-config</b>	スタートアップ コンフィギュレーションを別の場所にコピーします。
<b>copy tftp</b>	ネットワーク TFTP サーバのデータを別の場所にコピーします。
<b>erase startup-config</b>	設定データを削除します。

コマンド	説明
<b>show running-config</b>	実行コンフィギュレーションを表示します。
<b>write</b>	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

# show version

Cisco Unified SIP Proxy コンポーネントのバージョンを表示するには、モジュール EXEC モードで **show version** コマンドを使用します。

## show version

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、インストールされた Cisco Unified SIP Proxy ハードウェア コンポーネントとそのバージョン、シリアル番号のリストを表示します。

### 例

```
se-10-0-0-0> show version
se-10-1-1-20> show version
se-10-1-1-20 uptime is 0 weeks, 0 days, 20 hours, 0 minutes
CPU Model:                Intel(R) Celeron(R) M processor          1.00GHz
CPU Speed (MHz):          1000.192
CPU Cache (KByte):        512
BogoMIPS:                 2002.02
SKU:                      NME-APPRE-522
Chassis Type:             C2821
Chassis Serial:           FHK0945F1TA
Module Type:              NME
Module Serial:            FOC10480BFM
UDI Name:                 Not Available
UDI Description:          Not Available
IDE Drive:                64MB
SATA Drive:               80.0GB
SDRAM (MByte):           512
```

表 21 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 21 show version のフィールドの説明

フィールド	説明
CPU Model	Cisco Unified SIP Proxy サービス モジュール CPU のモデルです。
CPU Speed (MHz)	CPU の速度です (メガヘルツ単位)。
CPU Cache (KByte)	CPU キャッシュのサイズです (キロバイト単位)。
Chassis Type	Cisco Unified SIP Proxy サービス モジュールのシャーシのタイプです。
Chassis Serial	シャーシのシリアル番号です。

表 21 show version のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Module Type	シスコ ネットワーク モジュール (Cisco NME) です。
Module Serial	Cisco Unified SIP Proxy サービス モジュールのシリアル番号です。
SATA Drive	Cisco Unified SIP Proxy サービス モジュール上のハード ドライブです。
SKU	Cisco Unified SIP Proxy モジュールの一意識別名です。

## 関連コマンド

コマンド	説明
show software	インストールされた Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェア コンポーネントのバージョン番号を表示します。

# software download abort

進行中のダウンロードを中止するには、モジュール EXEC モードで **software download abort** コマンドを使用します。

## software download abort

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

### 例

次の例では、既存のダウンロードを中止する方法を示します。

```
se-10-0-0-0> software download abort
Download request aborted.
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>software download clean</b>	後でインストールするためのパッケージ一式をダウンロードします。
<b>software download status</b>	進行中のダウンロードのステータスを報告します。
<b>software download upgrade</b>	後でインストールするためのアップグレードパッケージをダウンロードします。

# software download clean

後でインストールするためのソフトウェア パッケージをダウンロードするには、モジュール EXEC モードで **software download clean** コマンドを使用します。

```
software download clean {package-file-name |
  url ftp://ftp-server-ip-address/package-file-name}
```

## 構文の説明

<i>package-file-name</i>	新しいソフトウェアのパッケージ ファイルの名前です。
url ftp:// <i>ftp-server-ip-address</i>	FTP サーバの URL です。

## コマンド モード

モジュール EXEC (>)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 例

次の例では、後でインストールするためのソフトウェア パッケージをダウンロードする方法を示します。FTP サーバの情報はコンフィギュレーションで設定済みとします。

```
se-172-16-0-0> software download clean cusp-k9.nme.eng_bld.pkg
```

次の例では、後でインストールするためのソフトウェア パッケージをダウンロードする方法を示します。FTP サーバの情報はコマンド ラインに含まれています。

```
se-10-16-0-0> software download clean url ftp://10.16.0.2/cusp-k9.nme.eng_bld.pkg
```

```
WARNING:: This command will download the necessary software to
WARNING:: complete a clean install. It is recommended that a backup be done
WARNING:: before installing software.
```

```
Would you like to continue? [n] y
```

```
Downloading cusp-k9.nme.eng_bld.pkg
Bytes downloaded : 63648
```

```
Validating package signature ... done
```

```
> x
[17488 refs]
se-10-0-0-0>
```

次の例では、**software download status** コマンドを使用して、ダウンロードの経過をチェックする方法を示します。

```
se-172-16-0-0> software download status
```

```
Download request in progress.
downloading file : cusp-full-k9.nme.eng_bld.prt1
bytes downloaded : 5536224
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>software download abort</b>	進行中のダウンロードを中止します。
<b>software download status</b>	進行中のダウンロードのステータスを報告します。
<b>software download upgrade</b>	後でインストールするためのアップグレード パッケージをダウンロードします。

# software download server

Cisco Unified SIP Proxy サービス モジュールで FTP サーバ アドレスを設定するには、モジュール コンフィギュレーション モードで **software download server** コマンドを使用します。

```
software download server url ftp://server-ip-address[/dir] [username username
password password | credentials hidden credentials]
```

## 構文の説明

<b>url ftp://server-ip-address</b>	FTP サーバの IP アドレスです。
<b>/dir</b>	(オプション) サーバの FTP ディレクトリです。
<b>username username</b>	(オプション) FTP ユーザ名を指定します。このオプションが使用されない場合、デフォルトは「匿名」です。
<b>password password</b>	(オプション) FTP パスワードを指定します。
<b>credentials hidden credentials</b>	(オプション) 暗号化されたユーザ名およびパスワード値を指定します。

## コマンド モード

モジュール コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例では、ルート ディレクトリだけを使ってサーバ情報を設定する方法を示します。

```
se-10-16-0-0(cusp)> software download server url ftp://10.19.0.0/
```

次の例では、ルート ディレクトリ以外のディレクトリを使ってサーバ情報を設定する方法を示します。

```
se-10-16-0-0(config)> software download server url ftp://10.19.0.0/ftp_dir
```

次の例では、ユーザ名とパスワードを使ってサーバ情報を設定する方法を示します。

```
se-10-16-0-0(config)> software download server url ftp://10.19.0.0/ftp_dir username
ftpuser password ftppassword
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show software</b>	FTP サーバ情報を表示します。

# software download status

ソフトウェア ダウンロードの経過を表示するには、モジュール EXEC モードで **software download status** コマンドを使用します。

## software download status

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

### 例

次の例では、ダウンロードの経過の表示例を示します。

```
se-10-0-0-0> software download status
```

```
Download request in progress.
downloading file : cusp-full1-k9.nme.eng_bld.prt1
bytes downloaded : 5536224
```

```
se-10-0-0-0> software download status
```

```
Download request completed successfully.
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>software download abort</b>	進行中のダウンロードを中止します。
<b>software download clean</b>	後でインストールするためのソフトウェア パッケージをダウンロードします。
<b>software download upgrade</b>	後でインストールするためのアップグレード パッケージをダウンロードします。

# software download upgrade

後でアップグレードするためのソフトウェアをダウンロードするには、モジュール EXEC モードで **software download upgrade** コマンドを使用します。

```
software download upgrade {package-filename |
  url ftp://ftp-server-ip-address[/dir]/package-filename} [username username password
  password]
```

## 構文の説明

<i>package-filename</i>	新しいソフトウェアのパッケージ ファイルの名前です。
<b>url ftp://ftp-server-ip-address</b>	FTP サーバの URL です。
<i>/dir</i>	(オプション) デフォルト以外のディレクトリです。
<b>username username</b>	(オプション) FTP サーバのユーザ名です。
<b>password password</b>	(オプション) FTP サーバのパスワードです。

## コマンド モード

モジュール EXEC (>)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、将来のアップグレードのためのファイルをダウンロードします。

## 例

次の例では、後でアップグレードするためのソフトウェア パッケージをダウンロードする方法を示します。FTP サーバの情報は設定済みとします。

```
se-10-0-0-0> software download upgrade cusp-k9.nme.eng_bld.pkg
```

次の例では、後でアップグレードするためのソフトウェア パッケージをダウンロードする方法を示します。FTP サーバの情報はコマンドラインに含まれています。このコマンドにユーザ名とパスワードを含めることもできます。

```
se-10-0-0-0> software download upgrade url ftp://10.16.0.1/cusp-k9.nme.eng_bld.pkg
```

```
WARNING:: This command will download the necessary software to
WARNING:: complete an upgrade. It is recommended that a backup be done
WARNING:: before installing software.
```

```
Would you like to continue? [n] y
url_host :10.16.0.1
url_user :null
url_uname :anonymous
url_psword :anonymous
url_proto :ftp
url_path :/
url_fname :cusp-k9.nme.eng_bld.pkg
url_url :ftp://10.16.0.1/
```

```
Downloading cusp-k9.nme.eng_bld.pkg
```

## ■ software download upgrade

```
Bytes downloaded : 63648

Validating package signature ... done
Validating installed manifests .....complete.
[17497 refs]
```



(注) ソフトウェアをダウンロードするとき、加入者に入力を求めるその他のプロンプトは表示されません。ソフトウェア パッケージはサービス モジュールにダウンロードされます。

次の例では、**software download status** コマンドを使用して、ダウンロードの経過をチェックする方法を示します。

```
se-10-0-0-0> software download status

Download request in progress.
downloading file : cusp-full-k9.nme.eng_bld.prt1
bytes downloaded : 5536224
```

```
se-10-0-0-0> software download status

Download request completed successfully.
```

次の例では、**show software directory download** コマンドを使用してダウンロードの成功を確認する方法を示します。

```
se-10-10-0-0> show software directory download

KBytes Directory
0      /dwnld/pkgdata

Directory listings

Directory: /dwnld/pkgdata

total 0
drwxrwxr-x  2 root  daemon    48 Sep 15  2007 .
drwxrwxr-x  4 root  daemon   200 Sep 15  2007 ..
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show software directory</b>	ソフトウェアのダウンロードおよびダウングレードに関するディレクトリ情報を表示します。
<b>software download abort</b>	進行中のダウンロードを中止します。
<b>software download status</b>	進行中のダウンロードのステータスを報告します。

# software install clean

Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアの新しいバージョンをインストールするには、モジュール EXEC モードで **software install clean** コマンドを使用します。

```
software install clean {package-filename |  
url ftp://ftp-server-ip-address/package-filename}
```

## 構文の説明

<i>package-filename</i>	新しいソフトウェアのパッケージ ファイルの名前です。
url ftp:// <i>ftp-server-ip-address</i> /	FTP サーバの URL です。

## コマンド モード

モジュール EXEC (>)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、新しいインストールのためのファイルをダウンロードします。



**(注)** このコマンドは、ディスクの内容を消去します。この手順を実行すると、コンフィギュレーションはすべて失われます。今後のアップグレードおよびインストールのために、バックアップが行われていることを確認してください。バックアップが行われていない場合は、この手順を中断し、まずバックアップを実行してください。

## 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアの新しいバージョンをインストールするためのコマンド例を示します。FTP サーバの情報はコンフィギュレーションで設定済みとします。

```
se-10-16-0-0> software install clean cusp-k9.nme.1.1.0.pkg
```

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアの新しいバージョンをインストールする方法を示します。FTP サーバの情報はコマンドラインに含まれています。

システムは対話モードを開始し、情報の入力を求めるメッセージが表示されます。

```
se-10-16-0-0> software install clean url ftp://10.16.0.1/cusp-k9.nme.1.1.0.pkg
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>software download abort</b>	進行中のダウンロードを中止します。
<b>software download status</b>	進行中のダウンロードのステータスを報告します。
<b>software download upgrade</b>	後でインストールするためのアップグレード パッケージをダウンロードします。
<b>software install upgrade</b>	現在の Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアを、より新しいバージョンにアップグレードします。

# software install downgrade

以前にインストールした Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアのバージョンにダウングレードするには、モジュール EXEC モードで **software install downgrade** コマンドを使用します。

## software install downgrade

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

モジュール EXEC (>)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアの以前のバージョンにダウングレードします。パッケージ情報は、以前のアップグレードからサービス モジュール上にすでに保存されています。FTP 情報は必要ありません。

### 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアの以前のバージョンにダウングレードするためのコマンド例を示します。

```
se-172-16-0-0> software install downgrade
```

次の例では、

**show software directory downgrade** コマンドを使用して、ダウングレードが成功したことを確認する方法を示します。

```
se-10-10-0-0> show software directory downgrade
```

```
KBytes Directory
0          /dwnld/dwngrade
```

```
Directory listings
```

```
Directory: /dwnld/dwngrade
```

```
total 0
drwxrwxrwx  2 root    daemon    48 Sep 15  2007 .
drwxrwxr-x  4 root    daemon    200 Sep 15  2007 ..
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show software directory</b>	ソフトウェアのダウンロードおよびダウングレードに関するディレクトリ情報を表示します。

コマンド	説明
<b>software install clean</b>	Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアの新しいバージョンをインストールします。
<b>software install upgrade</b>	現在の Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアを、より新しいバージョンにアップグレードします。

# software install upgrade

より新しいバージョンの Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアにアップグレードするには、モジュール EXEC モードで **software install upgrade** コマンドを使用します。

```
software install upgrade {pkg culp-package.pkg |  
url ftp://ftp-server-ip-address/culp-package.pkg}
```

## 構文の説明

<b>pkg</b> <i>culp-package.pkg</i>	パッケージ名を指定します。
<b>url</b> <i>ftp://ftp-server-ip-address/culp-package.pkg</i>	FTP サーバ情報を指定します。

## コマンドモード

モジュール EXEC (>)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアのより新しいバージョンにアップグレードします。

## 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアをより新しいバージョンにアップグレードするためのコマンドの例を示します。

```
se-10-16-0-0> software install upgrade url ftp://10.16.0.1/culp-k9.nme.1.1.0.pkg
```

次の例では、FTP サーバが設定済みの場合、またはソフトウェア ファイルが **software download upgrade** コマンドを使用して以前にダウンロードされている場合に、より新しいバージョンの Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアにアップグレードするためのコマンドの例を示します。

```
se-10-16-0-0> software install upgrade pkg culp-k9.nme.1.1.0.pkg
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>software download server</b>	FTP サーバ情報を設定します。
<b>software download upgrade</b>	今後のアップグレードのためのファイルをダウンロードします。
<b>software install clean</b>	Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアの新しいバージョンをインストールします。
<b>software install downgrade</b>	現在の Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアを古いバージョンにダウングレードします。

# software remove

ダウンロードまたはアップグレード中にインストール済みのソフトウェアを削除するには、モジュール EXEC モードで **software remove** コマンドを使用します。

**software remove {all | downgradefiles | downloadfiles}**

## 構文の説明

<b>all</b>	ダウングレード用のファイルとダウンロード ファイルの両方を削除します。
<b>downgradefiles</b>	ダウングレード用のファイルを削除します。
<b>downloadfiles</b>	ダウンロード ファイルを削除します。

## コマンド モード

モジュール EXEC (>)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 例

次の例では、**software remove** コマンドの例を示します。

```
se-172-19-0-0> software remove all

Download files removed
Downgrade files removed

se-172-19-0-0> software remove downgradefiles

Downgrade files removed

se-172-19-0-0> software remove downloadfiles

Download files removed
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show software directory</b>	ダウンロードおよびダウングレード ディレクトリのディスク使用状況を表示します。

# write

実行コンフィギュレーションを消去、コピー、または表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **write** コマンドを使用します。

**write [erase | memory | terminal]**

## 構文の説明

<b>erase</b>	実行コンフィギュレーションを消去します。
<b>memory</b>	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに書き込みます。これはデフォルトです。
<b>terminal</b>	実行コンフィギュレーションを表示します。

## デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**write** コマンドまたは **write memory** コマンドを **copy running-config startup-config** コマンドのショートカットとして使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>erase startup-config</b>	現在のスタートアップ コンフィギュレーションを削除します。



## INDEX

---

### 記号

? コマンド [6](#)

---

### A

accounting コマンド [280](#)

allow connections コマンド [65](#)

---

### B

backup category コマンド [305](#)

backup security enforced コマンド [308](#)

backup security key コマンド [307](#)

backup security protected コマンド [309](#)

backup server authenticate コマンド [310](#)

backup (ネットワーク モジュール) コマンド [303](#)

---

### C

Cisco IOS の設定、保存 [7](#)

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション コマンド [194](#)

accounting [280](#)

policy lookup [227](#)

policy normalization [242](#)

policy time [211](#)

route table [180](#)

route table file [178](#)

sequence field [229](#)

sequence header uri-component [240](#)

server-group radius group [138](#)

trigger condition [146](#)

---

clear コマンド [40](#)

client-side コマンド [281](#)

clock timezone コマンド [311](#)

commit コマンド [41](#)

configure コマンド [20](#)

continue コマンド [313](#)

copy configuration active コマンド [21](#)

copy core コマンド [314](#)

copy ftp: configuration active コマンド [317](#)

copy ftp: コマンド [315](#)

crypto key certreq コマンド [292](#)

crypto key delete コマンド [295](#)

crypto key generate コマンド [296](#)

crypto key label default コマンド [293](#)

culp コマンド [16](#)

---

### D

day-of-month コマンド [221](#)

day-of-week コマンド [223](#)

drop-policy コマンド [88](#)

---

### E

element ip-address (SIP サーバ グループ) コマンド [117](#)

element ip (RADIUS サーバ グループ) コマンド [140](#)

element reference コマンド [119](#)

element route-uri request-uri コマンド [198](#)

element route-uri コマンド [196](#)

element target-destination コマンド [200](#)

time-policy (要素) [204](#)

enable (SIP DNS SRV) コマンド [96](#)

---

enable (アカウントिंग) コマンド **283**  
 end-time コマンド **215**  
 end コマンド **43**  
 event コマンド **285**  
 exit コマンド **44, 45**

## F

failover-resp-code コマンド **121**

## H

header add コマンド **250**  
 header-hide コマンド **66**  
 header-param add コマンド **244**  
 header-param remove コマンド **246**  
 header-param update コマンド **248**  
 header remove コマンド **252**  
 header update コマンド **254**  
 header (アカウントING) コマンド **287**  
 header (トリガー シーケンス) コマンド **156**  
 help コマンド **6**  
 hostname コマンド **318**

## I

ignore-plus コマンド **234**  
 ignore-tel-seperators コマンド **236**  
 in-network コマンド **157**  
 interface gigabitethernet コマンド **320**  
 ip route コマンド **18**  
 ip tcp keepalive-time コマンド **321, 322, 323**

## K

key default-sip コマンド **182**  
 key group コマンド **184**  
 key policy コマンド **186**

key response コマンド **188**  
 key route-uri target-destination コマンド **190**  
 key target-destination コマンド **192**

## L

lb-type コマンド **123**  
 load コマンド **46**  
 local-ip コマンド **158**  
 local-port コマンド **159**  
 log console monitor コマンド **331**  
 log console コマンド **330**  
 log server コマンド **332**  
 log trace boot コマンド **333**  
 log trace buffer save コマンド **334**  
 low-threshold コマンド **90**

## M

message コマンド **160**  
 method (SIP サーバ グループ ping オプション) コマンド **130**  
 method (トリガー条件) コマンド **161**  
 mid-dialog コマンド **162**  
 modify-key コマンド **238**  
 month コマンド **217**

## N

non-invite-provisional コマンド **68**  
 ntp server コマンド **335**

## O

offline コマンド **337**  
 out-network コマンド **163**

---

**P**

ping (SIP サーバ グループ) コマンド **125**  
ping-type コマンド **132**  
policy lookup コマンド **227**  
policy normalization コマンド **242**  
policy time コマンド **211**  
protocol コマンド **164**  
proxy-route header-param コマンド **165**  
proxy-route uri-component コマンド **166**  
proxy-route uri-param コマンド **168**

---

**R**

RADIUS サーバ グループ コンフィギュレーション コマンド

    element ip (RADIUS サーバ グループ) **140**  
    retransmit-count (RADIUS サーバ グループ) **142**  
    retransmit-timeout (RADIUS サーバ グループ) **143**  
    show status server-group radius **144**  
reload コマンド **338**  
remote-ip コマンド **169**  
remote-port コマンド **170**  
request-uri uri-component コマンド **171**  
request-uri uri-param コマンド **173**  
response-code コマンド **174**  
restore factory default コマンド **341**  
restore コマンド **339**  
retransmit-count (RADIUS サーバ グループ) コマンド **142**  
retransmit-count (SIP ネットワーク) コマンド **69**  
retransmit-timeout (RADIUS サーバ グループ) **143**  
retransmit-timer (SIP ネットワーク) コマンド **71**  
rollback factory-default コマンド **24**  
rollback コマンド **23**  
root コンフィギュレーション コマンド  
    clear **40**  
    commit **41**  
    end **43**

exit **44, 45**  
load **46**  
show configuration active **47**  
show configuration candidate **52**  
show configuration factory-default **55**  
show sip **58**  
route EXEC コマンド  
    configure **20**  
    copy configuration active **21**  
    rollback **23**  
    rollback factory-default **24**  
    show license **25**  
    show routes table **27, 29**  
    show show performance-data cps **26**  
    show status queue **30**  
    show status sip **31**  
    show trace options **33**  
    trace disable **34**  
    trace enable **35**  
    trace level **36**  
route group **194**  
route group コマンド **194**  
route-group コンフィギュレーション コマンド  
    element route-uri **196**  
    element route-uri request-uri **198**  
    element target-destination **200**  
route recursion コマンド **107**  
route table file コマンド **178**  
route table コマンド **180**  
rule コマンド **231**

---

**S**

security ssh known-hosts コマンド **343**  
sequence field コマンド **229**  
sequence header uri-component コマンド **240**  
sequence (トリガー条件) コマンド **155**  
sequence (ポリシー時間) コマンド **213**  
server-group radius group コマンド **138**

- server-group sip element-retries コマンド **110**
- server-group sip global-load-balance コマンド **112**
- server-group sip global-ping コマンド **114**
- server-group sip group コマンド **115**
- server-group sip ping-options コマンド **128**
- server-group sip retry-after コマンド **127**
- server-side コマンド **289**
- service-module コマンド **6**
- session コマンド **6**
- show backup history コマンド **346**
- show backup server コマンド **348**
- show backup コマンド **345**
- show clock detail コマンド **350**
- show configuration active コマンド **47**
- show configuration candidate コマンド **52**
- show configuration factory-default コマンド **55**
- show crypto key コマンド **298**
- show interfaces コマンド **351**
- show license コマンド **25**
- show logs コマンド **352**
- show ntp associations コマンド **353**
- show ntp servers コマンド **361**
- show ntp source コマンド **363**
- show ntp status コマンド **366**
- show performance-data cps コマンド **26**
- show process コマンド **368**
- show routes table コマンド **27, 29**
- show running-config コマンド **370**
- show security ssh コマンド **371**
- show sip コマンド **58**
- show software コマンド **372**
- show startup-config コマンド **376**
- show status queue コマンド **30**
- show status server-group radius コマンド **144**
- show status server-group sip コマンド **135**
- show status sip コマンド **31**
- show trace log コマンド **374**
- show trace options コマンド **33**
- show version コマンド **378**
- shutdown graceful コマンド **17**
- sip alias コマンド **98**
- sip dns-srv コマンド **95**
- SIP DNS サーバ コンフィギュレーション コマンド
  - enable (SIP DNS SRV) **96**
  - use-naptr **97**
- sip header-compaction コマンド **78**
- sip listen コマンド **73**
- sip logging コマンド **99**
- sip max-forwards コマンド **77**
- sip network コマンド **63**
- sip overload redirect コマンド **80**
- sip overload reject コマンド **82**
- sip peg-counting コマンド **100**
- sip privacy service コマンド **103**
- sip privacy trusted-destination コマンド **101**
- sip privacy trusted-source ソース **102**
- sip queue コマンド **86**
- sip record-route コマンド **75**
- sip tcp connection-timeout コマンド **84**
- sip tcp max-connections コマンド **85**
- sip tls trusted-peer コマンド **106**
- sip tls コマンド **104**
- sip-to-tel request-uri コマンド **258**
- sip-to-tel コマンド **256**
- SIP キュー コンフィギュレーション コマンド
  - drop-policy **88**
  - low-threshold **90**
  - size **92**
  - thread-count **94**
- SIP コンフィギュレーション コマンド
  - route recursion **107**
  - sip alias **98**
  - sip dns-srv **95**
  - sip header-compaction **78**
  - sip listen **73**
  - sip logging **99**
  - sip max-forwards **77**
  - sip network **63**

sip overload redirect **80**  
 sip overload reject **82**  
 sip peg-counting **100**  
 sip privacy service **103**  
 sip privacy trusted-destination **101**  
 sip privacy trusted-source **102**  
 sip queue **86**  
 sip record-route **75**  
 sip tcp connection-timeout **84**  
 sip tcp max-connections **85**  
 sip tls **104**  
 sip tls trusted-peer **106**  
 SIP サーバグループ ping オプション コマンド  
   method **130**  
   ping-type **132**  
   timeout **134**  
 SIP サーバグループ コンフィギュレーション コマンド  
   element ip-address (SIP サーバグループ) **117**  
   element reference **119**  
   failover-resp-code **121**  
   lb-type **123**  
   ping **125**  
   server-group sip element-retries **110**  
   server-group sip global-load-balance **112**  
   server-group sip global-ping **114**  
   server-group sip group **115**  
 SIP ネットワーク コンフィギュレーション コマンド  
   allow-connections **65**  
   header-hide **66**  
   non-invite-provisional **68**  
   retransmit-count (SIP ネットワーク) **69**  
   retransmit-timer (SIP ネットワーク) **71**  
   udp max-datagram-size **67**  
 size コマンド **92**  
 software download abort コマンド **380**  
 software download clean コマンド **381**  
 software download server コマンド **383**  
 software download status コマンド **384**  
 software download upgrade コマンド **385**

software install clean コマンド **387**  
 software install downgrade コマンド **388**  
 software install upgrade コマンド **390**  
 software remove コマンド **391**  
 start-time コマンド **219**

---

## T

Tab キー、コマンドの入力補完機能 **7**  
 telnet コマンド **6**  
 Telnet セッション **5**  
 tel-to-sip request-uri コマンド **261**  
 tel-to-sip コマンド **259**  
 thread-count コマンド **94**  
 timeout コマンド **134**  
 time-policy (要素) コマンド **204**  
 time コマンド **175**  
 time (ポリシー時間シーケンス) コマンド **225**  
 trace disable コマンド **34**  
 trace enable コマンド **35**  
 trace level コマンド **36**  
 trigger post-normalization コマンド **149**  
 trigger pre-normalization コマンド **151**  
 trigger routing コマンド **153**

---

## U

udp max-datagram-size コマンド **67**  
 uri-component update request-uri コマンド **264**  
 uri-component update コマンド **262**  
 uri-param add request-uri コマンド **268**  
 uri-param add コマンド **266**  
 uri-param remove コマンド **270, 272**  
 uri-param update request-uri コマンド **276**  
 uri-param update コマンド **274**  
 use-naptr コマンド **97**  
 user-agent-hdr コマンド **176**

## W

write コマンド [392](#)

## あ

アカウントینگ コンフィギュレーション コマンド

client-side [281](#)  
 enable (アカウントینگ) [283](#)  
 event [285](#)  
 header (アカウントینگ) [287](#)  
 server-side [289](#)

## き

疑問符 (?) コマンド [6](#)

## こ

コマンド

context-sensitive help for abbreviating [7](#)  
 default 形式、使用 [7](#)  
 no 形式、使用 [7](#)  
 service-module [6](#)  
 session [6](#)  
 telnet [6](#)

コマンド環境

開始 [5](#)

コマンド モード、概要 [1 ~ 2](#)

## さ

サーバ グループ コンフィギュレーション コマンド

server-group sip ping-options [128](#)  
 server-group sip retry-after [127](#)  
 show status server-group sip [135](#)

## せ

セキュリティ コンフィギュレーション コマンド

crypto key certreq [292](#)  
 crypto key delete [295](#)  
 crypto key generate [296](#)  
 crypto key label default [293](#)  
 show crypto key [298](#)

設定、保存 [7](#)

## と

トリガー シーケンス コンフィギュレーション コマンド

header (トリガー シーケンス) [156](#)  
 in-network [157](#)  
 local-ip [158](#)  
 local-port [159](#)  
 message [160](#)  
 method (トリガー シーケンス) [161](#)  
 mid-dialog [162](#)  
 out-network [163](#)  
 protocol [164](#)  
 proxy-route header-param [165](#)  
 proxy-route uri-component [166](#)  
 proxy-route uri-param [168](#)  
 remote-ip [169](#)  
 remote-port [170](#)  
 request-uri uri-component [171](#)  
 request-uri uri-param [173](#)  
 response-code [174](#)  
 time [175](#)  
 user-agent-hdr [176](#)

トリガー条件コマンド [146](#)

sequence (トリガー条件) [155](#)  
 trigger condition [146](#)  
 trigger post-normalization [149](#)  
 trigger pre-normalization [151](#)  
 trigger routing [153](#)

---

**ね**

ネットワーク モジュール EXEC コマンド

- crypto key label default [293](#)
- custp [16](#)
- show crypto key [298](#)
- shutdown graceful [17](#)

ネットワーク モジュール コンフィギュレーション コマンド

- crypto key certreq [292](#)
- crypto key delete [295](#)
- crypto key generate [296](#)
- ip route [18](#)

---

**は**

ハードウェア プラットフォーム

「プラットフォーム、サポート対象」を参照

---

**ふ**

プロンプト、システム [2](#)

---

**ほ**

ポリシー時間コマンド

- day-of-month [221](#)
- day-of-week [223](#)
- sequence (ポリシー時間) [213](#)
- time (ポリシー時間シーケンス) [225](#)

ポリシー時間シーケンス コマンド

- end-time [215](#)
- month [217](#)
- start-time [219](#)

ポリシー正規化コマンド

- header add [250](#)
- header-param add [244](#)
- header-param remove [246](#)
- header-param update [248](#)

- header remove [252](#)
- header update [254](#)
- sip-to-tel [256](#)
- sip-to-tel request-uri [258](#)
- tel-to-sip [259](#)
- tel-to-sip request-uri [261](#)
- uri-component update [262](#)
- uri-component update request-uri [264](#)
- uri-param add [266](#)
- uri-param add request-uri [268](#)
- uri-param remove [270](#)
- uri-param remove request-uri [272](#)
- uri-param update [274](#)
- uri-param update request-uri [276](#)

ポリシー ルックアップ シーケンス フィールド コマンド  
rule [231](#)

---

**も**

モード

「コマンド モード」を参照

---

**ゆ**

ユーザ EXEC モード、概要 [3](#)

---

**ら**

ライセンス

インストール [11](#)

---

**る**

ルート テーブル コンフィギュレーション コマンド

- key default-sip [182](#)
- key group [184](#)
- key policy [186](#)
- key response [188](#)

key route-uri target-destination [190](#)

key target-destination [192](#)